Nikon

デジタル一眼レフカメラ

使用説明書

Jp

この使用説明書について

この使用説明書では、次のような方法で、知りたいことを簡単に探し出すことができます。

目次 から ➜ P.viii～xiv

撮影、再生、メニューなど、項目別に探すことができます。

目的別かんたん検索 から ➜ P.iv～vii

使いたい機能や知りたい機能を、簡単に探すことができます。機能名がわからなくても大丈夫です。

索引 から ➜ P.295～300

さまざまな項目が五十音順に一覧にまとめられているので、機能名や用語がわかっているときに便利です。

警告メッセージ から ➜ P.271～275

表示パネルやファインダー、液晶モニターに表示されている警告メッセージから、今のカメラの状態を知ることができます。

故障かな？と思ったら から ➜ P.265～270

カメラの動作がおかしいときに、原因を調べるのに役立ちます。

⚠安全上のご注意

安全にカメラを使用していただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをご使用になる前に必ずお読みください。詳しくはP.xv～xxをご覧ください。

ヘルプ機能について

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくはP.21をご覧ください。

「見て聞くマニュアル」デジチューター

インターネット上でD90の操作方法を、動画や作例写真を交えながら説明しています。下記アドレスのホームページをご覧ください。

http://www.nikondigitutor.com/

カメラと付属品を確認する

ご使用になる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。

※SDメモリーカードは別売です。

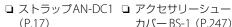
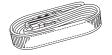
- ❏ D90カメラ本体 （P.3）

- ❏ ボディーキャップ （P.254）
- ❏ 液晶モニターカバー BM-10 （P.17）

- ❏ アイピースキャップ DK-5 （P.17）

- ❏ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e（端子カバー付）（P.22、23）

- ❏ クイックチャージャー MH-18a（電源コード付）（P.22）

- ❏ ストラップAN-DC1 （P.17）

- ❏ アクセサリーシューカバー BS-1 （P.247）

- ❏ オーディオビデオケーブルEG-D2 （P.148）

- ❏ USBケーブルUC-E4 （P.151、153）

- ❏ 保証書
- ❏ 使用説明書（本書）
- ❏ Quick Guide（クイックガイド）：このカメラをはじめてお使いになる方のために、簡単な撮影の方法と、撮影した画像をパソコンに転送したり、プリントしたりする手順などを説明しています。
- ❏ ソフトウェアインストールガイド
- ❏ Software Suite（ソフトウェア スイート）CD-ROM
- ❏ 登録のご案内

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

表記について

- SDメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。

ご使用になる前に

かんたんな撮影と再生

撮影機能を使いこなそう

P、S、A、Mモードで撮影する

画像の再生

テレビ、パソコン、プリンターとの接続

再生メニュー：再生で使える便利な機能

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

マイメニュー：よく使うメニューを登録する

資料

目的別かんたん検索

使いたい機能や知りたい機能から、説明が記載されているページをかんたんに調べることができます。

特長的な機能について

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
液晶モニターを見ながら撮影したい	ライブビュー	P.43
動画を撮影したい	動画の撮影	P.50
撮影する画像の仕上がり具合を簡単に設定して撮影したい	ピクチャーコントロール	P.110
白とびや黒つぶれの少ない画像を撮影したい	アクティブD-ライティング	P.122
構図を変えながら簡単にピントを合わせ続けたい	3D-トラッキング	P.179
撮像素子上のローパスフィルターに付いたゴミやほこりを掃除したい	イメージセンサークリーニング	P.258

カメラの○○について知りたい

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
メニューの操作方法を知りたい	メニューの操作方法	P.18
メニューの意味を知りたい	ヘルプ機能	P.21
よく使うメニューを表示したい	マイメニュー	P.238
最近設定したメニュー項目を自動的に表示させたい	最近設定した項目	P.237
表示パネルやファインダーの表示の意味を知りたい	表示パネル、ファインダー	P.7、9
表示パネルや液晶モニターの警告表示の意味を知りたい	警告メッセージ	P.271
使用中のSDカードであと何コマ撮影できるのか知りたい	SDカードの残量を確認する	P.35
バッテリーの残量を確認したい	バッテリー残量の表示	P.34
露出について知りたい	露出について	P.81
付属品のアイピースキャップの用途を知りたい	セルフタイマー、リモコン	P.67、69
どんなスピードライト（フラッシュ）が使えるの？	使用できるスピードライト	P.247
どんなレンズが使えるの？	使用できるレンズ	P.242
D90で使えるアクセサリー（リモコン、ACアダプターなど）を買いたい	使用できるアクセサリー	P.253
SDカードを買いたい	推奨SDカード	P.256
どんなパソコン用ソフトウェアがあるの？	使用できるアクセサリー	P.254
カメラを点検や修理に出したい	アフターサービスについて	P.304
カメラを掃除したい	カメラのお手入れについて	P.257

カメラの設定を○○したい

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
再生時に画像の一部がチカチカと点滅するのを止めたい	ハイライト表示	P.133、167
ファインダーをはっきりと見えるようにしたい	視度調節	P.32
液晶モニターがすぐに消えないようにしたい	液晶モニターのパワーオフ	P.186
内蔵時計の時刻を合わせ直したい	ワールドタイム	P.27、213
海外に行くので、内蔵時計を現地時刻に合わせたい		
液晶モニターの明るさを調整したい	液晶モニターの明るさ	P.211
最初の設定に戻したい	ツーボタンリセット	P.78
ピント合わせ時に発光する光（AF補助光）を出さないようにしたい	内蔵AF補助光の照射	P.180
構図を決めやすいようにファインダーに格子線を出したい	格子線表示	P.187
暗いところで表示パネルを見たい	イルミネーター	P.8、190
表示パネルやファインダー内のシャッタースピードと絞り値がすぐに消えないようにしたい	半押しタイマー	P.35、185
セルフタイマーの時間を変更したい	セルフタイマー	P.67、186
リモコン撮影の受信待機時間を変更したい	リモコン待機時間	P.69、186
撮影時にピピッという電子音が鳴らないようにしたい	電子音設定	P.187
メニューに表示される言語を変えたい	言語	P.213
画像に付けられる番号（ファイル番号）が、SDカードを換えても続き番号になるようにしたい。ファイル番号をリセットして1から始めたい	連番モード	P.189

撮影するときに○○したい

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
とにかく簡単に撮影したい	オート撮影モード	P.34
撮影シーンに合わせて簡単に撮影したい	シーンモード	P.41
フラッシュを光らせずに撮影したい	発光禁止オートモード 発光禁止 ISO感度	P.34 P.73 P.76
背景をぼかして、人物をきれいに撮影したい	ポートレートモード	P.41
風景や街並みを撮影したい、夜景を撮影したい	風景モード	P.41
花や虫に近づいて大きく撮影したい	クローズアップモード	P.42
動いているものにうまくピントを合わせて撮影したい	スポーツモード	P.42
夜景や夕焼けを背景に記念写真を撮影したい	夜景ポートレートモード	P.42
1コマ撮影と連続撮影（連写）を切り換えたい	レリーズモード	P.64
セルフタイマーを使って撮影したい	セルフタイマー	P.67
別売のリモコンを使って撮影したい	リモコン	P.69
露出を自分で決めたい	**P**、**S**、**A**、**M**モード	P.80
動きの速い被写体を写し止めたり、川の流れなどの流動感を出したい	撮影モード**S** （シャッター優先オート）	P.83
背景をぼかして被写体を浮かび上がらせたい	撮影モード**A** （絞り優先オート）	P.84
画像を明るく、または暗くしたい	露出補正	P.92
花火や天体写真、自動車のライトの流れを撮影したい	長時間露光	P.87
フラッシュの設定を変更したい	フラッシュモード	P.73
暗い場所でフラッシュが自動的に光るようにしたい	自動発光	P.73
瞳が赤くならないようにしたい	赤目軽減発光	P.73
オートフォーカスの設定を変更したい	オートフォーカスで撮影する	P.54
動いている被写体にピントを合わせたい	AFモード	P.54
ピントを合わせる位置を自分で選びたい	フォーカスポイント	P.56
ピントを合わせてから構図を決めたい	フォーカスロック	P.57
複数のコマを重ねて1枚の画像を撮りたい	多重露出	P.124
大きくプリントするための画像を撮影したい 撮影できるコマ数を増やしたい 電子メールで送る画像を撮りたい	画像サイズ、画質モード	P.62、63

撮影した画像で○○したい

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	ページ
撮影した画像をカメラで見たい	画像をカメラで再生する	P.48、130
撮影した画像の情報を詳しく知りたい	画像情報の表示	P.131
いらない画像を1コマずつ削除したい	画像を削除する	P.49、142、166
いらない画像をまとめて削除したい	削除	P.166
画像を拡大して、ピントの具合を確認したい	拡大表示	P.140
大切な画像なので、誤って削除しないようにしたい	プロテクト	P.141
画像をスライドショーにしてカメラで見たい	Pictmotion、スライドショー	P.143
画像をテレビで見たい	画像をテレビで見る	P.148
画像をハイビジョン（高画質）テレビで見たい	HDMI	P.149
パソコンに画像を転送したい	画像をパソコンに転送する	P.150
画像を印刷したい	画像をプリンターで印刷する	P.152
カメラとプリンターを直接接続して印刷したい	ダイレクトプリント	P.153
日付を入れて印刷したい	日付プリント	P.155、159
プリントサービス店にプリントを依頼したい	プリント指定（DPOF）	P.161
暗くなってしまった部分を明るく修正したい	D-ライティング	P.223
フラッシュで瞳が赤くなってしまった画像を修正したい	赤目補正	P.224
画像から必要な部分だけを切り出したい	トリミング	P.225
撮影した画像をモノクロやセピア色にしたい	モノトーン	P.226
撮影した画像の色を変えたい	フィルター効果	P.227
撮影した画像の色を調整したい	カラーカスタマイズ	P.228
撮影した画像のサイズを小さくしたい	スモールピクチャー	P.228
2コマの画像を1コマに合成したい	画像合成	P.230
撮影したRAW画像をJPEG画像に変換したい	RAW現像	P.232
撮影した画像を簡単に見栄え良くしたい	簡単レタッチ	P.234
撮影した画像が傾いてるので、補正したい	傾き補正	P.234
撮影した画像のゆがみを補正したい	ゆがみ補正	P.235
撮影した画像を魚眼レンズで撮影したような画像にしたい	魚眼効果	P.235
編集前と編集後の画像を見比べたい	編集前後の画像表示	P.236

目 次

目的別かんたん検索 iv
安全上のご注意 xv
　ご確認ください xix

ご使用になる前に　1

はじめに 2
各部の名称と機能 3
　カメラ本体 3
　撮影モードダイヤル 6
　表示パネル 7
　ファインダー 9
　情報画面 10
　コマンドダイヤル 13
メニューの操作方法 18
　メニュー項目の設定 19
　ヘルプを使う 21
撮影前の準備 22
　バッテリーを充電する 22
　バッテリーをカメラに入れる 23
　レンズを取り付ける 25
　日付と時刻を設定する 27
　SD メモリーカード（別売）をカメラに入れる 29
　SD カードを初期化（フォーマット）する 30
　ファインダーを見やすくする（視度調節） 32

かんたんな撮影と再生　33

AUTO（オート）または ⑮（発光禁止オート）で撮影する
—カメラまかせの簡単撮影 34
　ステップ 1：電源を ON する 34
　ステップ 2：撮影モードを AUTO または ⑮ にする 36
　ステップ 3：カメラの設定状態を確認する 36
　ステップ 4：カメラを構える 37
　ステップ 5：ピントを合わせる 38
　ステップ 6：撮影する 39

シーンに合わせて撮影する―簡単操作でより美しく ... 41
（ポートレート）モード：人物をもっときれいに ... 41
（風景）モード：風景をより美しく ... 41
（クローズアップ）モード：花や虫を大きく接写 ... 42
（スポーツ）モード：迫力のスポーツ写真を ... 42
（夜景ポートレート）モード：夜景をバックに記念撮影 ... 42
液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） ... 43
撮影した画像を確認する ... 48
画像を削除する ... 49
動画を撮影する・再生する ... 50

撮影機能を使いこなそう 53

オートフォーカスで撮影する ... 54
AF モードを選択する ... 54
フォーカスポイントを選択する ... 56
フォーカスロック撮影 ... 57
ピントを手動で合わせる（マニュアルフォーカス） ... 59
画質や画像のサイズを変更する ... 61
画質モード ... 62
画像サイズ ... 63
レリーズモードを切り換える ... 64
連続撮影（連写）する（L または H） ... 65
セルフタイマーを使って撮影する（） ... 67
別売のリモコンを使って撮影する（） ... 69
内蔵フラッシュを使う ... 72
ISO 感度を設定する ... 76
最初の設定に戻す（ツーボタンリセット） ... 78

P、S、A、M モードで撮影する 79

撮影モード P、S、A、M を使う ... 80
P：マルチプログラムオートでの撮影方法 ... 82
S：シャッター優先オートでの撮影方法 ... 83
A：絞り優先オートでの撮影方法 ... 84
M：マニュアルでの撮影方法 ... 85
長時間露出で撮影する ... 87
明るさを測る方法を設定する（測光モード） ... 89

明るさを固定して撮影する（AE ロック撮影）........ 90
画像の明るさを調整する（露出補正）........ 92
フラッシュの発光量を調整する（調光補正）........ 93
明るさやフラッシュの発光量をずらして撮影する
（オートブラケティング撮影）........ 94
画像の色を見た目の色に合わせる（ホワイトバランス）........ 97
ホワイトバランスの微調整........ 99
色温度設定........ 101
プリセットホワイトバランス........ 102
画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する
（ピクチャーコントロール）........ 110
ニコンピクチャーコントロールを選択する........ 112
ピクチャーコントロールを調整する........ 113
カスタムピクチャーコントロールを登録する........ 116
SD カードを使ってピクチャーコントロールを対応
ソフトウェアと共用する........ 118
ピクチャーコントロールを管理する........ 120
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブ D- ライティング）........ 122
1 つの画像に重ねて写し込む（多重露出撮影）........ 124
GPS 情報を画像に記録する........ 127

画像の再生 129

画像を 1 コマずつ再生する（1 コマ表示モード）........ 130
1 コマ表示モードでの操作方法........ 130
画像情報を表示する........ 131
複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）........ 137
サムネイル表示モードでの操作方法........ 137
撮影した日付ごとに画像を表示する（カレンダー表示モード）........ 138
カレンダー表示モードでの操作方法........ 139
画像を拡大表示する........ 140
拡大表示中の操作方法........ 140
画像を保護する（プロテクト）........ 141
画像を削除する........ 142
画像効果や BGM にのせて画像を再生する（Pictmotion）........ 143
スライドショーで再生する........ 146

テレビ、パソコン、プリンターとの接続 147

画像をテレビで見る 148
AV ケーブルを使ってテレビと接続する 148
HDMI ケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する 149
画像をパソコンに転送する 150
USB 接続でパソコンに画像を転送する 151
画像をプリンターで印刷する 152
カメラとプリンターを直接つないでプリントする（ダイレクトプリント） 153

メニューガイド 163

再生メニュー：再生で使える便利な機能 164
画像選択方法 164
削除 166
再生フォルダー設定 166
非表示設定 167
再生画面設定 167
撮影直後の画像確認 168
縦位置自動回転 168
Pictmotion 168
スライドショー 168
プリント指定（DPOF） 168
撮影メニュー：撮影で使える便利な機能 169
ピクチャーコントロール 169
カスタムピクチャーコントロール 169
画質モード 169
画像サイズ 170
ホワイトバランス 170
ISO 感度設定 170
アクティブ D- ライティング 171
色空間 172
長秒時ノイズ低減 173
高感度ノイズ低減 173
記録フォルダー設定 174
多重露出 176
動画の設定 176

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定 177
R：カスタムメニューのリセット 178
a：オートフォーカス 179
a1：AF エリアモード 179
a2：中央フォーカスポイントフレーム 180
a3：内蔵 AF 補助光の照射設定 180
a4：フォーカスポイント照明 181
a5：フォーカスポイント循環選択 181
a6：MB-D80 の AE/AF ロックボタンの機能 182
a7：ライブビュー時の AF 182
b：露出・測光 183
b1：露出設定ステップ幅 183
b2：露出補正簡易設定 183
b3：中央部重点測光範囲 184
b4：基準露出レベルの調節 184
c：AE ロック・タイマー 185
c1：半押し AE ロック 185
c2：半押しタイマー 185
c3：セルフタイマー 186
c4：液晶モニターのパワーオフ時間 186
c5：リモコン待機時間 186
d：撮影・記録・表示 187
d1：電子音設定 187
d2：格子線の表示 187
d3：ISO 感度表示と簡易設定 188
d4：ファインダー内警告表示 188
d5：撮影設定変更画面ガイド表示 188
d6：低速連続撮影速度 189
d7：連番モード 189
d8：情報画面の表示設定 190
d9：イルミネーター点灯 190
d10：露出ディレーモード 190
d11：フラッシュ使用推奨表示 191
d12：MB-D80 電池設定 191

e：フラッシュ・BKT 撮影 193
e1：フラッシュ時シャッタースピード制限 193
e2：内蔵フラッシュ発光 193
e3：モデリング発光 199
e4：オートブラケティングのセット 199
e5：オート FP 撮影 203
e6：BKT の順序 203
f：操作 204
f1：☀ スイッチの機能 204
f2：OK ボタンの機能（撮影モード） 204
f3：ファンクションボタンの機能 205
f4：AE/AF ロックボタンの機能 208
f5：コマンドダイヤルの設定 208
f6：カードなし時レリーズ 210
f7：インジケーター表示の＋ / －方向 210
セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定 211
カードの初期化（フォーマット） 211
液晶モニターの明るさ 211
イメージセンサークリーニング 212
クリーニングミラーアップ 212
ビデオ出力 212
HDMI 212
ワールドタイム 213
言語（Language） 213
画像コメント 214
縦横位置情報の記録 215
イメージダストオフデータ取得 216
電池チェック 218
GPS 219
Eye-Fi 送信機能 219
ファームウェアバージョン 219
画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能 220
画像編集メニューの操作手順 221
D- ライティング 223
赤目補正 224
トリミング 225
モノトーン 226

フィルター効果 227
カラーカスタマイズ 228
スモールピクチャー 228
画像合成 230
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 現像する） 232
簡単レタッチ 234
傾き補正 234
ゆがみ補正 235
魚眼効果 235
編集前後の画像表示 236
最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる 237
マイメニュー：よく使うメニューを登録する 238

資料 **241**

使用できるレンズ 242
使用できるスピードライト（別売フラッシュ） 247
使用できるアクセサリー 253
カメラのお手入れについて 257
保管について 257
クリーニングについて 257
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意 262
カメラの取り扱い上のご注意 262
バッテリーの取り扱いについて 264
故障かな？と思ったら 265
警告メッセージ 271
資料集 276
主な仕様 286
索引 295
アフターサービスについて 304

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

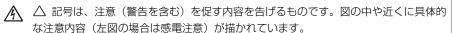
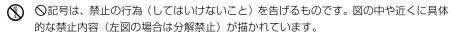
表示と意味は、次のようになっています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

分解禁止	**分解したり修理・改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
バッテリーを取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにバッテリーを取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。 バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

使用禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
警告	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** 特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと。 首に巻き付いて窒息の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
警告	**指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
保管注意	**製品は幼児の手の届かないところに置くこと** ケガの原因になることがあります。
使用注意	**逆光撮影では、太陽を画角から充分にずらすこと** 太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
移動注意	**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。
使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
禁止 プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（バッテリーやACアダプター）を外すこと** バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。
発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因となることがあります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

禁止	**本機器やACアダプターは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼす場合があります。

⚠ 危険（専用リチウムイオン充電池について）

禁止	**バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**バッテリーをショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eに対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。 Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eは、D90に対応しています。
危険	**バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意	**バッテリーは幼児の手の届かない所に置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因になります。

⚠ 注意（専用リチウムイオン充電池について）

注意	**バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

⚠ 警告（クイックチャージャーについて）

分解禁止	**分解したり修理・改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**電源コードを傷つけたり加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと** 電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因になることがあります。

⚠ 注意（クイックチャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置注意	**製品は幼児の手の届かないところに置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/

●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合せでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。

- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。
  http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットマニュアルの画像（P.102）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

ご使用になる前に

ここでは、カメラを使う前にあらかじめ知っておいていただきたいことや、カメラ本体の各部名称を説明します。メニューの操作方法や撮影前の準備、基本的な撮影と再生を説明します。

はじめに P.2

各部の名称と機能 P.3

カメラ本体 P.3
撮影モードダイヤル P.6
表示パネル P.7
ファインダー P.9
情報画面 P.10
コマンドダイヤル P.13

メニューの操作方法 P.18

メニュー項目の設定 P.19
ヘルプを使う P.21

撮影前の準備 P.22

バッテリーを充電する P.22
バッテリーをカメラに入れる P.23
レンズを取り付ける P.25
日付と時刻を設定する P.27
SDメモリーカード（別売）をカメラに入れる P.29
SDカードを初期化（フォーマット）する P.30
ファインダーを見やすくする（視度調節） P.32

はじめに

ニコンデジタル一眼レフカメラをお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

✔ アクセサリーについてのご注意

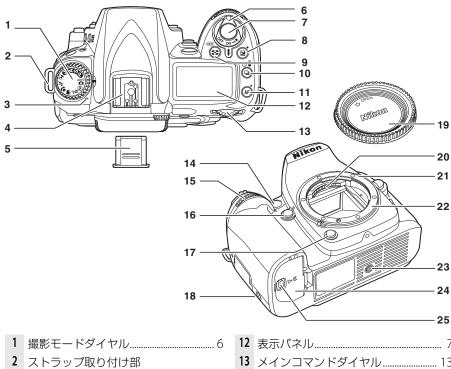
このカメラには、ニコン製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

✔ カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にご使用の場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズや別売スピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

各部の名称と機能

カメラ本体

1	撮影モードダイヤル…… 6	12	表示パネル…… 7
2	ストラップ取り付け部（吊り金具）…… 17	13	メインコマンドダイヤル…… 13
3	距離基準マーク…… 60	14	AF補助光ランプ…… 180 セルフタイマーランプ…… 68 赤目軽減ランプ…… 73
4	フラッシュ取り付け部（アクセサリーシュー）…… 252	15	サブコマンドダイヤル…… 13
5	アクセサリーシューカバー…… 247	16	**Fn** ファンクションボタン…… 205、206
6	電源スイッチ…… 34	17	プレビューボタン…… 84
7	シャッターボタン…… 38	18	スピーカー
8	露出補正ボタン…… 92 ツーボタンリセットボタン…… 78	19	ボディーキャップ…… 254
9	測光モードボタン…… 89 フォーマットボタン…… 30	20	レンズ信号接点
10	レリーズモードボタン…… 64	21	レンズ着脱指標…… 25
11	**AF** AFモードボタン…… 54 ツーボタンリセットボタン…… 78	22	レンズマウント…… 60
		23	三脚穴
		24	バッテリー室カバー…… 23
		25	バッテリー室カバー開閉ノブ…… 23

カメラ本体（つづき）

1	内蔵フラッシュ 72	**9**	ミラー .... 43、260
2	⚡フラッシュモードボタン 73	**10**	DC入力端子 253
	調光補正ボタン 93		（別売のACアダプター EH-5a またはEH-5を接続します）
3	マイク .... 51、176	**11**	USB端子
4	リモコン受光部 70		パソコンと接続する 151
5	BKT オートブラケティングボタン 94		プリンターと接続する 154
6	端子カバー	**12**	HDMI端子 149
7	レンズ取り外しボタン 26	**13**	ビデオ出力端子 148
8	フォーカスモードセレクトダイヤル .... 54、59	**14**	アクセサリーターミナル 255

カメラ本体（つづき）

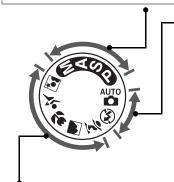
1	ファインダー接眼窓 32
2	接眼目当てDK-21 17
3	削除ボタン
	撮影した画像を削除する 49
	再生中の画像を削除する 142
	FORMAT フォーマットボタン 30
4	液晶モニター
	ライブビューで撮影する 43
	撮影した画像を確認する 48
	画像を1コマずつ再生する 130
5	▶ 再生ボタン .... 48、130
6	MENU メニューボタン .... 18、163
7	?/o-π ヘルプ/プロテクトボタン
	.... 21、141
	WB ホワイトバランスボタン
	ホワイトバランスを設定する 97
	ホワイトバランスを微調整する 100
	色温度を設定する 101
8	縮小/サムネイルボタン 137
	ISO感度ボタン 76
9	拡大ボタン 140
	画質モード/画像サイズボタン
	画質モードの設定方法 62
	画像サイズの設定方法 63
10	視度調節ダイヤル 32
11	AE/AFロックボタン
	フォーカスロック撮影 57
	AE/AFロックボタンの機能 208
12	Lv ライブビューボタン
	ライブビューで撮影する 43
	動画を撮影する 50
13	マルチセレクター 19
14	OK OKボタン 19
15	SDカードカバー 29
16	フォーカスポイントロックレバー ... 56
17	SDカードアクセスランプ .... 30、39
18	info 情報表示/撮影設定変更ボタン
	.... 10、12

撮影モードダイヤル

撮影モードを切り換えるときに使います。撮影モードは全部で11種類あります。

P、S、A、Mモード

シャッタースピードや絞りなどを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しむことができます。露出補正や、フラッシュの発光、各種メニューなどさまざまな設定を思い通りにコントロールすることができます。

P：マルチプログラムオート（P.82）	**A：絞り優先オート**（P.84）
シャッタースピードと絞り値の設定をカメラまかせにして、気軽に撮影したいとき。	好みの絞り値を使って、背景をぼかしたポートレートや奥行きのある風景を撮影したいとき。
S：シャッター優先オート（P.83）	**M：マニュアル**（P.85）
好みのシャッタースピードを使って、動きのある被写体の一瞬をとらえたり、流動感を表現したいとき。	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定して、個性的な映像表現をしたいとき。

オートモード

AUTO：オートモード（P.34）
撮影状況に合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、カメラまかせで気軽に簡単に撮影することができます。デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方におすすめのモードです。

⚡：発光禁止オートモード（P.34）
オートモードで、フラッシュを発光させたくないとき。

シーンモード

撮影シーンに合わせて撮影モードを選び、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、撮影を楽しむことができます。

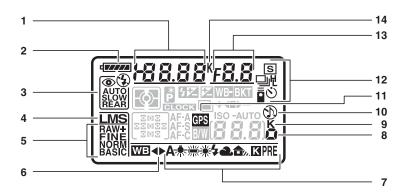
ポートレートモード（P.41）
背景をぼかし、人物を強調させた人物写真を撮影したいとき。

風景モード（P.41）
風景や街並みを撮影したいときや、夜景を撮影したいとき。

クローズアップモード（P.42）
草花や昆虫などを接写したいとき。

スポーツモード（P.42）
スポーツなど一瞬の動きをとらえた撮影をしたいとき。

夜景ポートレートモード（P.42）
夜景や雰囲気のある夕景をバックに、人物を撮影したいとき。

表示パネル（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1 シャッタースピード
シャッター優先オート ... 83
マニュアル ... 85
露出補正値 ... 92
調光補正値 ... 93
ホワイトバランス微調整量 ... 99
ホワイトバランス色温度 ... 101
ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ番号 ... 102
オートブラケティングコマ数 ... 94
WBブラケティングコマ数 ... 200
2 バッテリー残量表示 ... 34
3 フラッシュモード ... 73
4 画像サイズ ... 63
5 画質モード ... 62
6 ホワイトバランス微調整設定マーク ... 99
7 ホワイトバランスモード ... 97
8 ISO感度補助表示
ISO感度を設定する ... 76
ISO感度表示と簡易設定 ... 188
9 1000コマ以上補助表示 ... 35
10 電子音マーク ... 187
11 GPS通信マーク ... 127
12 レリーズモード表示 ... 64
13 絞り値
絞り優先オート ... 84
マニュアル ... 85
オートブラケティング補正値
AE・フラッシュブラケティング撮影の方法 ... 94
撮影コマ数と補正段数の組み合わせ ... 283
WBブラケティング補正値 ... 200
14 ホワイトバランス色温度表示 ... 101

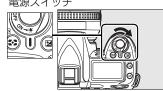
記録可能コマ数が1000コマ以上の場合

記録可能コマ数が1000 コマ以上あるときは「K」マークが点灯します。「K」は1000倍を意味しており、たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

15 調光補正マーク 93
16 時刻未設定マーク
　時計用電池について 28
　警告メッセージ 271
17 プログラムシフトマーク 82
18 測光モード 89
19 フォーカスポイント 56
　AFエリアモード表示 179
20 AFモード 54
21 白黒マーク 188
22 記録可能コマ数 35
　連続撮影可能コマ数 66
　ホワイトバランスプリセットマニュアル
　データ取得モード表示 103
　PCカメラモード表示 150
　ISO感度表示
　ISO感度を設定する 76
　ISO感度表示と簡易設定 188
23 ISO感度マーク 76
　感度自動制御設定マーク 170
24 ブラケティングバーグラフ
　AE・フラッシュブラケティング撮影の方法 94
　WBブラケティング撮影の方法 200
　ADLブラケティングの撮影方法 202
25 オートブラケティングマーク 94
26 WBブラケティングマーク 200
27 露出補正マーク 92
28 多重露出マーク 124

表示パネルの照明（イルミネーター）について

電源スイッチを ☀ マークまで回すと、表示パネルが照明されます。電源スイッチを放すと、イルミネーターは6秒間（初期設定）点灯し続けます。ただし、シャッターをきると消灯します。

電源スイッチ

ファインダー（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1	構図用格子線 .... 187（カスタムメニュー d2［**格子線表示**］を［**する**］に設定している場合のみ表示されます）	15	オートブラケティングマーク 94
2	中央部重点測光エリア 89	16	ISO感度マーク 76
3	バッテリー警告表示※ .... 34、188	17	記録可能コマ数 .... 35 連続撮影可能コマ数 .... 66 ホワイトバランスリセットマニュアルデータ取得モード表示 .... 103 露出補正値 .... 92 調光補正値 .... 93 PCカメラモード表示 .... 150 ISO感度 76
4	白黒マーク※ 188	18	1000コマ以上補助表示 35
5	フォーカスポイント表示 .... 56、179、180、181	19	レディーライト 40
6	中央フォーカスポイント（ノーマルフレーム） 180	20	AEロックマーク 90
7	中央フォーカスポイント（ワイドフレーム） 180	21	露出インジケーター .... 86 露出補正インジケーター 92
8	カードなしマーク※ 188	22	調光補正マーク 93
9	ピント表示 .... 38、60	23	露出補正マーク 92
10	FVロックマーク 206	24	感度自動制御設定マーク 170
11	シャッタースピード .... 83、85	25	ISO感度補助表示 76
12	絞り値 .... 84、85		
13	バッテリー警告表示 34		
14	WBブラケティングマーク 200		

※カスタムメニュー d4［**ファインダー内警告表示**］で非表示にできます。

ファインダーについてのご注意

- 液晶の特性上、ファインダー内のフォーカスポイントなどから外側に延びる細い線が見える場合があります。
- カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなりますが、充電したバッテリーを入れると明るくなります。

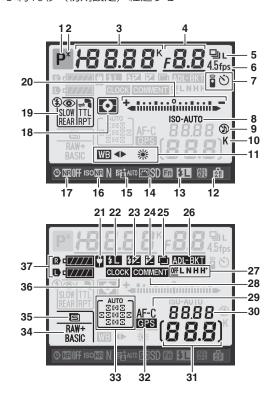
高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

情報画面（説明のため、全ての表示を点灯させています）

infoボタンを押すと、液晶モニターに次のような「情報画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなどを液晶モニターで確認するときに便利です。

また、infoボタンを再度押すと、「撮影設定変更画面（P.12）」に切り替わり、表示されているメニュー項目へ直接ジャンプすることができます。

- 次の場合は、液晶モニターが消灯します。
  - シャッターボタンを半押しする
  - 撮影設定変更画面で再度infoボタンを押す
  - 操作を行わないまま約10秒（初期設定）経過する

関連ページ

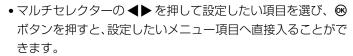
液晶モニターの表示時間を変更する → c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（P.186）
情報画面の表示を手動で白黒反転する → d8［**情報画面の表示設定**］（P.190）

1 撮影モード
　AUTO（オート）または⊛（発光禁止オート）で撮影する 34
　シーンに合わせて撮影する 41
　撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**を使う 80
2 プログラムシフトマーク 82
3 シャッタースピード
　シャッター優先オート 83
　マニュアル 85
露出補正値 92
調光補正値 93
ホワイトバランス色温度 101
オートブラケティングコマ数 94
WBブラケティングコマ数 200
4 絞り値
　絞り優先オート 84
　マニュアル 85
オートブラケティング補正値
　AE・フラッシュブラケティング撮影の方法 94
　撮影コマ数と補正段数の組み合わせ 283
WBブラケティング補正値 200
5 レリーズモード 64
6 連続撮影速度 65
7 リモコンモード表示 69
セルフタイマーモード表示 67
8 ISO感度マーク 76
感度自動制御設定マーク 170
9 電子音マーク 187
10 1000コマ以上補助表示 35
11 ホワイトバランスモード 97
ホワイトバランス微調整設定マーク 99
12 AE/AFロックボタン機能 208
13 Fnボタン機能 205
14 ピクチャーコントロールマーク 112
15 アクティブD-ライティングマーク 122
16 高感度ノイズ低減マーク 173
17 長秒時ノイズ低減マーク 173
18 測光モード 89
19 フラッシュモード .... 73、194
外部SB発光モード 249
20 露出インジケーター 86
露出補正インジケーター 92
ブラケティングインジケーター
　AE・フラッシュブラケティング撮影の方法 94
　WBブラケティング撮影の方法 200
　ADLブラケティングの撮影方法 202
21 ACアイコン表示 34
22 FVロックマーク 206
23 調光補正マーク 93
24 露出補正マーク 92
25 多重露出マーク 124
26 オートブラケティングマーク
　AE・フラッシュブラケティング撮影の方法 94
　WBブラケティング撮影の方法 200
　ADLブラケティングの撮影方法 202
27 ADLブラケティング度合い表示 122
28 画像コメント入力設定マーク 214
29 AFモード 54
30 ISO感度表示 .... 76、188
31 記録可能コマ数 35
32 GPS通信マーク 127
33 オートエリアAF設定マーク 179
3D-トラッキング設定マーク 179
フォーカスポイント 56
AFエリアモード表示 179
34 画質モード 62
35 画像サイズ 63
36 時刻未設定マーク .... 28、271
37 カメラのバッテリー残量表示 34
MB-D80のバッテリー残量表示 191
MB-D80のバッテリー種別表示 191

▐▐ 撮影設定変更画面

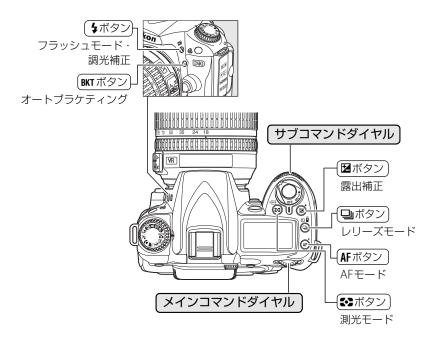
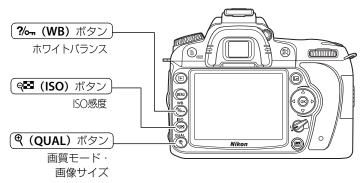
ボタン

情報画面を表示中に再度 info ボタンを押すと、「撮影設定変更画面」に切り替わります。撮影設定変更画面では、表示されているメニュー項目へ直接ジャンプして簡単に設定を変更できます。

- マルチセレクターの ◀▶ を押して設定したい項目を選び、OK ボタンを押すと、設定したいメニュー項目へ直接入ることができます。

- 撮影設定変更画面で設定できるメニュー項目は次の通りです。

1	長秒時ノイズ低減	173
2	高感度ノイズ低減	173
3	アクティブD-ライティング	171
4	ピクチャーコントロール	169
5	ファンクションボタンの機能	205
6	AE/AFロックボタンの機能	208
7	撮影設定変更画面ガイド表示	188

コマンドダイヤル

コマンドダイヤル（メインコマンドダイヤル・サブコマンドダイヤル）を回すと、各ボタンとの組み合わせでいろいろな機能が簡単に設定できます。

■画像の記録に関する設定

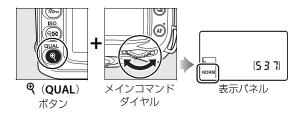
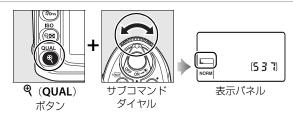
画質モードの設定（**P.62**）

（**QUAL**）ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

画像サイズの設定（**P.63**）

（**QUAL**）ボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

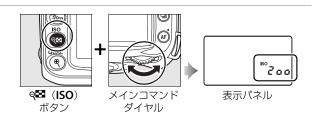
AFモードの設定（**P.54**）

AFボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

レリーズモードの設定（**P.64**）

ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

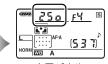
■ISO感度に関する設定

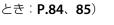
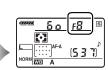
ISO感度の設定（**P.76**）

（**ISO**）ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

■露出に関する設定

プログラムシフト（**P**のとき：**P.82**）

撮影モード**P**　メインコマンドダイヤル　表示パネル

シャッタースピードの設定（**S**または**M**のとき：**P.83**、**85**）

撮影モード**S**または**M**　メインコマンドダイヤル　表示パネル

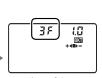
絞り値の設定（**A**または**M**のとき：**P.84**、**85**）

撮影モード**A**または**M**　サブコマンドダイヤル　表示パネル

測光モードの設定（**P.89**）

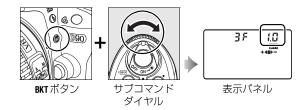
ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

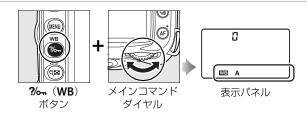
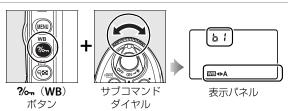
露出補正量の設定（**P.92**）

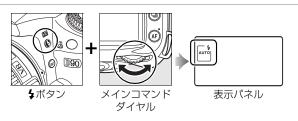
ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

オートブラケティングの撮影コマ数の設定（**P.94**）

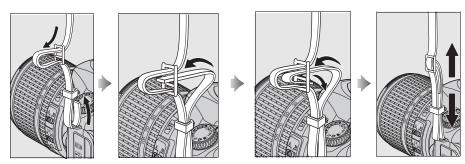
- ADLブラケティング（P.202）のときは表示されません。

BKT ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

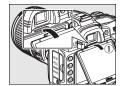
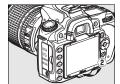
オートブラケティングの補正ステップの設定（**P.94**）

ホワイトバランスに関する設定

ホワイトバランスモードの設定（**P.97**）

ホワイトバランスの微調整/色温度選択/プリセットマニュアルデータ選択（**P.99、101、103**）

フラッシュ撮影に関する設定

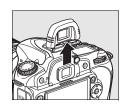
フラッシュモードの設定（**P.73**）

調光補正量の設定（**P.93**）

ストラップ AN-DC1の取り付け方

カメラを落として壊さないよう、ストラップは確実に取り付けてください。

液晶モニターカバー BM-10の取り付け、取り外し方

液晶モニターカバーを取り付けるには、液晶モニターの上にある溝にカバーの上部をはめ込み（①）、カバーの透明な部分が液晶モニターと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押してください。（②）。

カバーを取り外すときは、カメラをしっかりと支え、右図のようにカバーの下からゆっくりと外してください。

接眼目当てDK-21の取り外し方

セルフタイマー撮影（P.67）に使用する付属のアイピースキャップDK-5や、各種ファインダー用アクセサリー（P.254）を取り付けるには、接眼目当てを取り外す必要があります。接眼目当てを取り外すには、カメラをしっかりと支え、接眼目当てを上方向に引き抜いてください。

メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

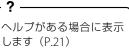
メニューを表示するには

MENUボタンを押すと、液晶モニターに下のようなメニューを表示します。

MENUボタン

タブ

6種類のメニューを示すアイコン（絵文字）があります。それぞれのアイコンのタブを選ぶと、そのメニューが表示されます

?

ヘルプがある場合に表示します（P.21）
このアイコンを表示しているときに?/⊶ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します

項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の現在の設定をアイコンで表示します

メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

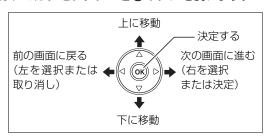
メニューの種類

どのメニューが表示されているかは、画面左端のタブで確認できます。

▶ **再生メニュー（P.164）**	撮影した画像に対する操作や、再生についての設定などを行います。
撮影メニュー（P.169）	撮影についての設定を行います。
カスタムメニュー（P.177）	カメラの各種設定を、好みに合わせて変更します。
セットアップメニュー（P.211）	SDカードの初期化（フォーマット）や、カメラの基本的な設定などを行います。
画像編集メニュー（P.220）	撮影した画像を編集（加工と補正）します。
最近設定した項目（P.237）	最後に設定したメニュー項目から順番に20項目が自動的に表示されます。 • 最近設定した項目は、「マイメニュー」に変更することもできます（P.238）。

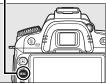
メニュー項目の設定

▮▮操作に使うボタン

メニューの操作には、マルチセレクターと㊙ボタンを使います。

▮▮メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

- MENUボタンを押します。

MENUボタン

2 メニューのタブを選ぶ

- ◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。

3 メニューを切り換える

- ▲または▼を押して、メニューのタブを切り換えます。

4 選んだメニューに入る

- ▶を押して、選んだメニューに入ります。

5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。

6 設定内容を表示する

- ▶を押して設定内容を表示します。

7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。

8 決定する

- ㊉ボタンを押して設定内容を決定します。
- メニュー操作をキャンセルするには、MENUボタンを押してください。

- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- ㊉ボタンの代わりにマルチセレクターの▶を押しても決定できますが、画像の削除やSDカードの初期化などの重要な設定項目については、㊉ボタンしか使えないことがあります。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（P.35）してください。液晶モニターが消灯し、撮影できる状態になります。

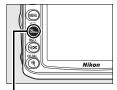
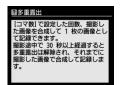
コマンドダイヤルでのメニュー操作

メニュー画面では、マルチセレクターの▲▼の代わりにメインコマンドダイヤルを、◀▶の代わりにサブコマンドダイヤルを使うこともできます。ただし、選んだ内容を決定することはできません。

ヘルプを使う

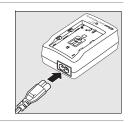
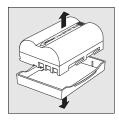
メニュー画面の左下にヘルプマーク ? が表示されているときは、?/o-ボタンを押している間、その項目の説明（ヘルプ）を見ることができます。

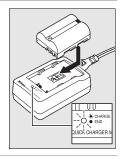
- 説明が2ページ以上ある場合は、?/o-ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押して、次のページを表示してください。
- ?/o-ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

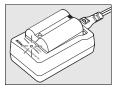
?マーク

?/o-ボタン

バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eは、ご購入直後にはフル充電されていません。ご使用前に付属のクイックチャージャーMH-18aでフル充電してください。使い切ったバッテリー1個を充電するには約2時間15分かかります。

1 クイックチャージャーをコンセントにつなぐ

- クイックチャージャーと電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

2 バッテリーの端子カバーを取り外す

3 バッテリーを充電する

- バッテリーをクイックチャージャーの中にかかれている図に合わせて取り付けます。
- 「CHARGE」ランプが点滅し、充電が始まります。

4 充電が完了する

- 「CHARGE」ランプが点滅から点灯に変わったら、充電は完了です。バッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

☑ 付属の電源コードについてのご注意

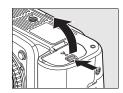
付属の電源コードは、クイックチャージャーMH-18a以外の機器に接続しないでください。この電源コードは、日本国内専用（AC100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、ニコンオンラインショップ（http://shop.nikon-image.com/）でもお求めいただけます。

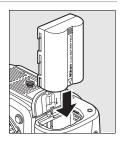
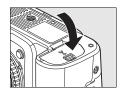
バッテリーをカメラに入れる

1 カメラの電源をOFFにする

- バッテリーを入れたり、取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

電源スイッチ

2 バッテリー室開閉ノブを矢印の方向に押して（①）、カメラ底面のバッテリー室カバーを開ける（②）

3 充電したバッテリーを入れる

- 右図のように、正しい向きで入れてください。

4 バッテリー室カバーを閉じる

■ バッテリーを取り出すときは

バッテリーをカメラから取り出す前に、**必ず電源がOFFになっていることを確認して**ください。

バッテリーとクイックチャージャーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（P.xv～xviii）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（P.262～264）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。周囲の温度が5～35℃の室内で充電してください。バッテリーの性能を充分に発揮するために、約20℃以上で充電することをおすすめします。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの［**電池チェック**］（P.218）で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電を行ったときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示をすることがあります。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。
- バッテリーをカメラやクイックチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- クイックチャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- クイックチャージャーMH-18aに対応していないバッテリーは、クイックチャージャーMH-18aで充電しないでください。

使用できないバッテリーについて

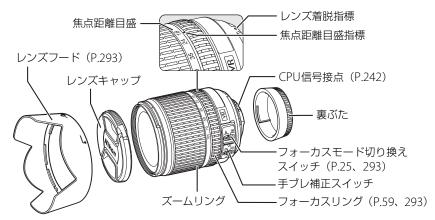
D90 には、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3およびEN-EL3a（D100/D70 シリーズ/D50 用バッテリー）や、CR2 ホルダー MS-D70 は使用できません。

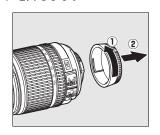
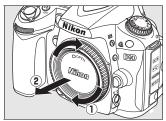
Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e について

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e は、カメラと通信を行い、バッテリーの残量などをカメラに正確に伝えることができます。これによって表示パネルでバッテリー残量を6段階で確認することができる（P.34）ほか、セットアップメニューの［**電池チェック**］でより詳しいバッテリー残量や、直前の充電からの合計撮影回数、バッテリーの劣化度を表示することができます。

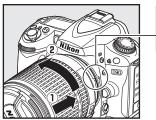
レンズを取り付ける

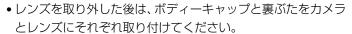
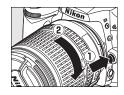
レンズを取り付けるときは、カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

この使用説明書では、AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR のレンズを使用して、説明しています。各部名称は次の通りです。

1 レンズの裏ぶたとボディーキャップを外す

- カメラの電源がOFFになっていることを確認してから、レンズの裏ぶたとボディーキャップを外します。

2 レンズを取り付ける

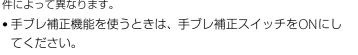
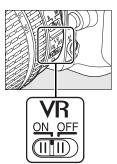
- レンズの着脱指標とカメラの着脱指標を合わせながらレンズを差込み、矢印の方向にカチッと音がするまでレンズを回します。このとき、レンズ取り外しボタンは押さないでください。
- A-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合は、**A**（オートフォーカス）または**M/A**（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください。

レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、ボディーキャップと裏ぶたをカメラとレンズにそれぞれ取り付けてください。

手ブレ補正機能（VR）を使う

AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRには、手ブレ補正機能（VR）があります。

このレンズでは、シャッタースピードで約3段分※（焦点距離105mm時）の手ブレを補正します。パンニング（流し撮り）にも対応しています。

※ 当社測定条件によります。また、手ブレ補正効果は、撮影者や撮影条件によって異なります。

- 手ブレ補正機能を使うときは、手ブレ補正スイッチをONにしてください。
- シャッターボタンを半押しすると、手ブレを補正します。このときファインダー内の画像のブレも補正するため、ピント合わせが容易で、構図が決めやすくなります。
- 手ブレ補正スイッチをOFFにすると、手ブレを補正しません。

✔ 絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ（P.242）を取り付ける場合は、最小絞り（一番大きい数値）にして、ロックしてください。詳しくは、レンズの使用説明書をご覧ください。

✔ 手ブレ補正使用時のご注意

- パンニング（流し撮り）でカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、流し撮りで横方向にパンニングすると、縦方向の手ブレだけが補正され、流し撮りができます。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターをきるとファインダー像がわずかに動くことがありますが、異常ではありません。
- 手ブレ補正中にカメラの電源スイッチをOFFにしたり、レンズを取り外したりしないでください（その状態でレンズを振るとカタカタと音がすることがありますが、故障ではありません。カメラの電源スイッチを再度ONにすれば、音は消えます）。
- 内蔵フラッシュ充電中には、手ブレを補正しません。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ただし、三脚を使っても雲台を固定しないときや、一脚を使用するときには、スイッチをONにするようおすすめします。

日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。ご購入後、初めて電源をONにしたときは、手順5の画面が表示されます（日時設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません）。一度設定した日時を再調整する場合は、手順1からお進みください。

- ご購入後、初めて電源をONにしたときの日時設定の手順は、Quick Guideに記載されています。

1 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 セットアップメニューの［ワールドタイム］を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**ワールドタイム**］を選びます。
- ご購入後、初めて電源をONにしてMENUボタンを押したときは、セットアップメニュー画面で［**ワールドタイム**］が選ばれています。
- メニューの操作方法については、「メニューの操作方法」をご覧ください（P.18）。

MENUボタン

3 現在地を設定する

- ［**ワールドタイム**］画面で［**現在地の設定**］を選びます。
- ［**現在地の設定**］画面で表示される地図上で、現在地が黄色くハイライトされるようにしてから、OKボタンを押してください。
- 世界地図の上に選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC（世界協定時）との時差が表示されます。

4 夏時間を設定する

- ［**ワールドタイム**］画面で［**夏時間の設定**］を選びます。
- 現在地で夏時間（サマータイム）制を実施しているときは、［**する**］に、実施していないときは［**しない**］にして、㊋ボタンを押してください。
- ［**する**］にすると、［**しない**］のときよりも時刻が1時間進みます。

5 日付と時刻を合わせる

- ［**ワールドタイム**］画面で［**日時の設定**］を選びます。
- ［**日時の設定**］画面で現在地の日時に合わせて、㊋ボタンを押してください。

6 日付の表示順を選ぶ

- ［**ワールドタイム**］画面で［**日付の表示順**］を選びます。
- 液晶モニターに表示する日付の年、月、日の表示順を選んで㊋ボタンを押します。

7 メニュー操作を終了する

- シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、メニュー操作を終了して、撮影できる状態になります。

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5（P.253）を接続すると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。表示パネルにCLOCKが点滅した場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください。

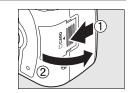
カメラの内蔵時計について

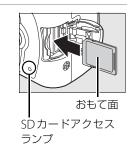
カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

SDメモリーカード（別売）をカメラに入れる

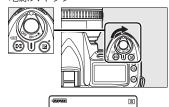
このカメラは、撮影した画像をSDメモリーカード（以下SDカード）に記録します。SDカードは付属していないため、別途お買い求めください。

1 カメラの電源をOFFにした状態で、SDカードカバーを開ける

- SDカードを入れたり取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで挿入してください。
- **向きを間違えて挿入すると、カメラおよびSDカードが破損するおそれがあります。正しい方向で挿入しているか、必ずご確認ください。**
- SDカードが正しく挿入されると、SDカードアクセスランプが数秒間点灯します。
- 挿入後、SDカードカバーを閉めてください。

3 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

- 液晶モニターが点灯せず、表示パネルに記録可能コマ数が表示された場合は、挿入したSDカードでそのまま撮影できます。
- 表示パネルに右のような画面が表示された場合は、SDカードを初期化してください（P.30）。

SDカードについてのご注意

SDカードアクセスランプが点灯している間は、SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外したりしないでください。SDカードが破損する恐れがあります。

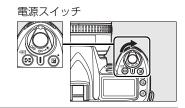
SDカードを初期化（フォーマット）する

他の機器で使ったSDカードを初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要な画像がある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（P.150）。なお、SDカードをカメラから抜くときは、その前に必ず電源をOFFにしてください。

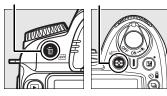
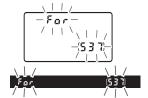
1 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 2つのFORMATボタンを同時に押す

- 赤色のFORMATマークがついたボタンと🗑ボタンを同時に2秒以上押します。

🗑ボタン　　ボタン

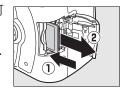
- 表示パネルとファインダー内表示にFor（フォーマット）という文字が点滅します。
- 初期化をキャンセルするには、FORMATボタン（ボタンと🗑ボタン）以外のボタンを押してください。

3 Forが出ている間に、もう一度2つのFORMATボタンを同時に押す

- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。
- 初期化が完了すると、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部にこれから撮影できるコマ数が表示されます。

🗑ボタン　　ボタン

■SDカードを取り出すときは

SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。

SDカードを奥に押し込むと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。

SDカード取り扱い上のご注意

- カメラをご使用後、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- 未使用のSDカードや、パソコンなどでカメラ以外のデータを保存・削除したSDカードは、必ずカメラで初期化してから使用してください。
- SD カードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
  - SDカードの着脱をしないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - ACアダプターを抜かないでください
- SDカードの端子部に手や金属を触れないでください。
- SDカードに無理な力を加えないでください。破損の恐れがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

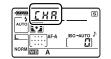
SDカードが入っていないときの表示について

SDカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に[-E-]マークが表示され、ファインダースクリーンには右のように表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルとファインダースクリーンの表示は点灯します。

SDカードの書き込み禁止スイッチについて

SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや消去が禁止され、カード内の画像を保護できます。撮影時や、画像を削除するときは「Lock」を解除してください。

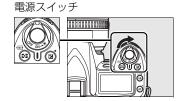
書き込み禁止スイッチ

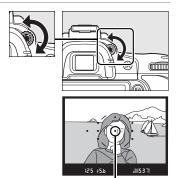
SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされている場合は、液晶モニターなどに警告が表示されます。ロックを解除してからもう一度挿入してください。

関連ページ

メニュー操作でカードを初期化する→ [**カードの初期化（フォーマット）**]（P.211）

ファインダーを見やすくする（視度調節）

ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

1 **レンズキャップを取り外し、カメラの電源をONにする**

2 **視度調節ダイヤルを回して調節する**

- ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回し、フォーカスポイントが最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

視度調節について

視度調節してもファインダー内がはっきり見えない場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（P.254）。

かんたんな撮影と再生

ここでは、カメラまかせで簡単に撮影できる（オート）撮影モードでの撮影方法を中心に、撮影から再生まで、D90の基本機能を使いこなすために覚えておいていただきたい手順について説明しています。

（オート）または（発光禁止オート）で撮影する
—カメラまかせの簡単撮影 P.34

ステップ1：電源をONする P.34
ステップ2：撮影モードを またはにする P.36
ステップ3：カメラの設定状態を確認する P.36
ステップ4：カメラを構える P.37
ステップ5：ピントを合わせる P.38
ステップ6：撮影する P.39

シーンに合わせて撮影する—簡単操作でより美しく P.41

（ポートレート）モード：人物をもっときれいに P.41
（風景）モード：風景をより美しく P.41
（クローズアップ）モード：花や虫を大きく接写 P.42
（スポーツ）モード：迫力のスポーツ写真を P.42
（夜景ポートレート）モード：夜景をバックに記念撮影 P.42

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）....... P.43

撮影した画像を確認する P.48

画像を削除する P.49

動画を撮影する・再生する P.50

使用レンズについて

ここで説明する撮影モード（、、、、、、）で撮影するときは、CPUレンズ（P.242）をお使いください。非CPUレンズ（P.244）装着時は、シャッターがきれません。

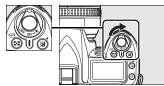
AUTO（オート）または（発光禁止オート）で撮影する—カメラまかせの簡単撮影

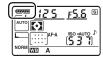
撮影モード AUTO は、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、さまざまな状況での撮影を楽しむことができます。暗いときや逆光のときなど、自動的にフラッシュが光ります。撮影モード は、フラッシュを光らせずに撮影したい場合に使用します。以下のステップ1～6の手順で撮影してください。

ステップ1：電源をONする

1 電源をONにする

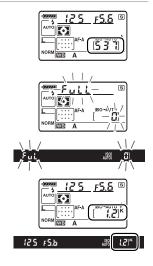
- レンズの前キャップを外してください。
- 表示パネルとファインダー内の表示が点灯します。
- 撮影時には、液晶モニターは点灯しません。

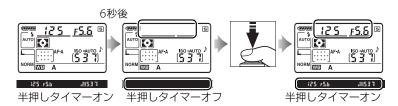
電源スイッチ

2 バッテリーの残量を確認する

- 表示パネルまたはファインダー内のバッテリー残量表示を確認します。

表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備してください。
（点滅）	（点滅）	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換してください。

- ACアダプター EH-5aまたは EH-5（別売）を使用した場合、バッテリーの残量表示が消え、情報画面にはACアイコン（P.11）が表示されます。

3 SDカードの残量を確認する

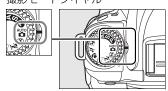
- 表示パネルで記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）を確認します。
- 記録可能コマ数がゼロの場合、表示パネルとファインダー内表示のシャッタースピード表示部にFuLL（FuL）が、記録可能コマ数表示部に0が点滅します。不要な画像を削除する（P.49、166）か、別のカードに交換してください。
- 記録可能コマ数が1000 コマ以上あるときは「K」マークが点灯します。「K」は1000倍を意味しており、たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする、P.38）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒（初期設定）経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。再度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］（P.185）で変更できます。

電源OFFの時の表示について

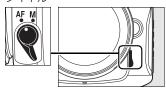
バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、表示パネルの記録可能コマ数が点灯します。SDカードの種類によっては、電源がOFFのときにSDカードを挿入しても、まれに記録可能コマ数が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。

ステップ2：撮影モードを AUTO または（発光禁止）にする

1 カメラ上面の撮影モードダイヤルを AUTO または（発光禁止）に合わせる

- 内蔵フラッシュを発光させたくない場合は、（発光禁止）に合わせてください。その他の場合は AUTO に合わせます。

撮影モードダイヤル

2 カメラ前面のフォーカスモードセレクトダイヤルをAF（オートフォーカス）に合わせる

フォーカスモードセレクトダイヤル

ステップ3：カメラの設定状態を確認する

撮影モード AUTO、（発光禁止）の初期設定は、以下のようになっています。

表示パネル

機能	設定	内容	ページ
フラッシュモード	AUTO：通常発光オート	被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。	P.72
	（発光禁止）：発光禁止	内蔵フラッシュは発光しません。	P.73
画質モード	NORMAL	通常のスナップ撮影などの写真に適しています。画像データを約1/8に圧縮して記録します。	P.62
画像サイズ	サイズL	画像は4288×2848ピクセルの画素数で記録されます。	P.63
レリーズモード	1コマ撮影	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影する、通常のモードです。	P.64
AFモード	AF-A	AF-SとAF-Cをカメラが自動的に切り換えます。被写体が静止しているときはAF-S、動いているときはAF-Cになります。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。	P.54
AFエリアモード	オートエリアAFモード	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。	P.179

ステップ4：カメラを構える

1 カメラを構える

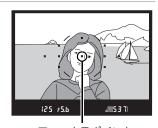
撮影するときは、カメラをしっかりと構えます

- ファインダーをのぞいて撮影する場合は、脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。

- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。

- 撮影モードで暗い場合は、手ブレしやすいので三脚をお使いになることをおすすめします。

2 構図を決める

- ファインダーをのぞきながら、構図を決めてください。
- 11カ所あるフォーカスポイントの少なくとも1つに、被写体が重なるようにしてください。

液晶モニターを見ながら撮影するには（ライブビュー撮影）

このカメラはカメラの液晶モニターを見ながら撮影することもできます。液晶モニターを見ながら撮影する場合は、「液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）」をご覧ください（P.43）。

ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。

ステップ5：ピントを合わせる

シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- フォーカスポイントの少なくとも1つに被写体が重なるようにして、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）と、被写体に自動的にピントが合います。
- カメラが自動的に、フォーカスポイントに重なっている被写体からピントを合わせる部分を選びます。

ピント表示　連続撮影可能コマ数

- 暗い場所などでは、AF補助光ランプが光る場合や、内蔵フラッシュが上がる場合があります。
- ピントが合うと、「ピピッ」という電子音が鳴り、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します（被写体が動いているときは、電子音が鳴らない場合があります）。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- シャッターボタンを押している間、ファインダーに続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）が表示されます。連続撮影可能コマ数の先頭には、「r」（P.66）が付きます。
- ピント合わせができない場合は、「オートフォーカスの苦手な被写体について」（P.55）をご覧ください。

シャッターボタンの半押し

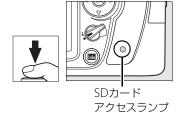
シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

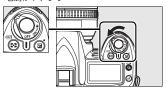
半押ししてピントを合わせる

全押しして撮影する

ステップ6：撮影する

撮影する

- シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）、撮影します。
- シャッターがきれ、画像がSDカードに記録されます。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。**

■電源をOFFにするには

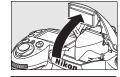
電源をOFFにするには、電源スイッチをOFFの位置まで回してください。

発光禁止オートについて

フラッシュが禁止されている場所での撮影や、フラッシュを光らせずに赤ちゃんを撮影したいときなどに使います。フラッシュを使わないことで、被写体を自然な感じに表現します。

オートモード

発光禁止オートモード

内蔵フラッシュについて

撮影モード AUTO では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。フラッシュ撮影時にはレンズフードを取り外してください。

ファインダー内下部に ⚡ が点灯しているときは、シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。内蔵フラッシュが上がっている状態で ⚡ が点灯していないときは、フラッシュが充電中のため、撮影できません。

内蔵フラッシュを使わないときは、フラッシュを収納しておいてください。内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げてください。

シーンに合わせて撮影する—簡単操作でより美しく

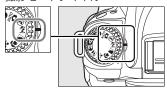
撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせて次の5種類から撮影モードを選ぶだけで、美しく撮影できます。

撮影モードを選ぶ以外は、AUTO と同じ操作で撮影できます。

ダイヤルの位置	撮影モード	こんなときに
	ポートレート	人物を撮影したい
	風景	風景や街並みを撮影したい、夜景を撮影したい
	クローズアップ	草花や昆虫などを接写したい
	スポーツ	運動会などのスポーツ写真を撮影したい
	夜景ポートレート	夕景や夜景をバックに人物を撮影したい

撮影の手順

1 **撮影モードダイヤルを回して、撮影モードを設定する**

撮影モードダイヤル

2 **シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから、撮影する**

各撮影モードの特徴

（ポートレート）モード：人物をもっときれいに

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

（風景）モード：風景をより美しく

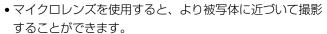
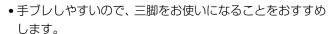
自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときや、夜景を撮影するときに使います。

- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。
- 暗い場合では手ブレしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。

（クローズアップ）モード：花や虫を大きく接写

草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

- マイクロレンズを使用すると、より被写体に近づいて撮影することができます。

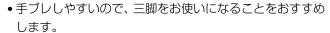
- 手ブレしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。

（スポーツ）モード：迫力のスポーツ写真を

運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

（夜景ポートレート）モード：夜景をバックに記念撮影

夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

- 手ブレしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。

シーンモードのピント合わせについて

カメラが被写体にピントを合わせるときの動作（初期設定）は、撮影モードによって以下のように異なります。

- 撮影モード 、、：カメラが自動的に、フォーカスポイントに重なっている被写体からピントを合わせる部分を選びます。
- 撮影モード ：中央のフォーカスポイントに重なっている被写体にピントが合います。マルチセレクターで他のフォーカスポイントを選ぶこともできます（P.56）。
- 撮影モード ：シャッターボタンを半押ししている間、中央のフォーカスポイントに重なっている被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。中央のフォーカスポイントから被写体が外れてしまった場合でも、他のフォーカスポイントを使ってピントを合わせ続けます。マルチセレクターで他のフォーカスポイントを選ぶこともできます（P.56）。

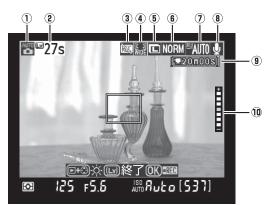
内蔵フラッシュについて

撮影モード 、、では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。内蔵フラッシュを使って撮影する方法は、撮影モード と同じです。

液晶モニターを見ながら撮影する
（ライブビュー撮影）

Ⓛⓥ（ライブビュー）ボタンを押すと、液晶モニターで被写体を見ながら撮影することができます。

1 Ⓛⓥ（ライブビュー）ボタンを押す

ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が見えなくなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

① **撮影モード**	撮影モードダイヤルで選択中の撮影モードを表示します。	P.34、41、80
② **ライブビュー残り時間**	ライブビューが自動的に終了する30秒前に、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	P.46
③ **動画記録禁止マーク**	動画が撮影できない状態のとき表示します。	P.51
④ **AFモード**	ライブビュー撮影時のAFモードを表示します。	P.44
⑤ **画像サイズ**	選択中の画像サイズを表示します。	P.63
⑥ **画質モード**	選択中の画質モードを表示します。	P.62
⑦ **ホワイトバランス**	選択中のホワイトバランスを表示します。	P.97
⑧ **音声記録マーク**	動画撮影時の音声設定を表示します。	P.176
⑨ **動画記録残り時間**	動画撮影時に、記録できる残り時間を表示します。	P.50
⑩ **明るさインジケーター**	ライブビュー撮影時に▶（再生）ボタンを押すと表示します。液晶モニターの明るさを調整できます。	P.44

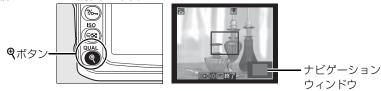
2 ライブビュー時のAFモードを選択する

AFボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ライブビュー時のAFモードが切り替わります。AFモードは次の3種類から選べます 。

表示	モード	こんなときに
[顔認識アイコン]	顔認識AF	記念写真など、人物の顔（正面）にピントを合わせたい場合に適しています。
WIDE	ワイドエリアAF（初期設定）	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントはマルチセレクターを操作して任意の位置に移動できます。
NORM	ノーマルエリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。厳密にピントを合わせたいときは、三脚の使用をおすすめします。

※ライブビュー専用のAFモードです（P.47）。

AFボタン　メインコマンドダイヤル　液晶モニター

3 液晶モニターで構図を確認する

ボタン　ナビゲーションウィンドウ

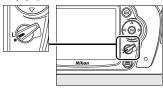
- ボタンを押すと、被写体が拡大表示され（最大約6.7倍）、ピントの状態を細部まで確認できます。
  - ボタンを押すごとに拡大率が上がり、ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
  - 拡大表示時には、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ（グレーの枠）が表示されます。
  - 拡大表示時に画面をスクロールするには、マルチセレクターを操作します。
  - ボタンを押すと、動画撮影が始まります（P.50）。

液晶モニターの明るさを設定する

ライブビュー中にボタンを押しながらマルチセレクターを操作すると、液晶モニターの明るさを設定できます。マルチセレクターの▲または▼を押して、好みの明るさに調節してください。この明るさの設定は、撮影した画像には反映されません。

4 フォーカスポイントを被写体に重ねる

ワイドエリアAFまたはノーマルエリアAFの場合：

- フォーカスポイントロックレバーを ● マーク側にセットしてから、マルチセレクターを操作して、赤い枠（フォーカスポイント）をピントを合わせる被写体の位置に移動します。
- 選んだフォーカスポイントに固定したいときは、フォーカスポイントロックレバーを **L** マーク側にセットしてください。

顔認識AFの場合：

- カメラが人物の顔（正面）を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。
- 複数の顔を認識した場合（最大5人まで）は、最も近くとカメラが判断した人物の顔を二重枠で表示します。

5 ピントを合わせる

ワイドエリアAFまたはノーマルエリアAFの場合：

- シャッターボタンを半押しし続けるとピントを合わせます。
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色に点滅し、ピントが合うと緑色に点灯します。ピントが合わないと赤色に点滅します。
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- マニュアルフォーカス時（P.59）は、レンズのフォーカスリングでピント合わせができます。

顔認識AFの場合：

- シャッターボタンを半押しし続けると、二重枠で囲まれた人物の顔にピントを合わせます。途中で顔が横を向くなどしてカメラが顔を見失うと、枠が消えます。
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色に点滅し、ピントが合うと緑色に点灯します。ピントが合わないと赤色に点滅します。
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- マニュアルフォーカス時は、レンズのフォーカスリングでピント合わせができます。

6 シャッターボタンを全押しして撮影する

- レリーズモード（P.64）で設定した内容に応じて、撮影を行います。
- 撮影時は液晶モニターが消灯します。
- 撮影後、自動的に画像を表示します。約4秒間（初期設定）経過するかシャッターボタンを半押しすると、ライブビューに戻ります。

7 Lv（ライブビュー）ボタンを押して、ライブビューを終了する

ライブビュー撮影時のご注意

- ライブビュー撮影中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画像に横帯が見える
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
  - カメラを左右に動かすと画面全体が歪んで見える
  - カメラを動かすと、照明などの明るい部分に残像が見える
  - 輝点が見える
- レンズを取り外すと、ライブビュー撮影は終了します。
- 最長1時間ライブビュー撮影できますが、長時間ライブビューで撮影すると、カメラの内部回路の温度が上昇することがあります。この場合、カメラ内部の温度の上昇により、ノイズや色むらが発生する場合があります。また、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 高温によるカメラのダメージを抑えるために、カメラ内部の温度が上昇すると、カメラは自動的にライブビュー撮影を終了します。ライブビュー撮影を終了する30秒前から、カメラは液晶モニターの左上に残り時間のカウントダウンを表示します。撮影時の気温が高い場合は、ライブビュー撮影が始まってすぐにカウントダウンが始まることもあります。

- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップDK-5を取り付けてください。
- ライブビュー撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- ライブビュー撮影時、被写界深度は液晶モニターでは確認できませんが、撮影した画像には反映されます。
- 三脚撮影時はカメラブレを軽減するために、カスタムメニューd10［**露出ディレーモード**］（P.190）を［**する**］に設定することをおすすめします。

ライブビュー撮影時のAEロックと露出補正について

- AE/AFロックボタンを押し続けている間、露出を固定（AEロック）できます。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合、露出補正ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、＋5～－5の範囲で露出補正ができます。露出補正を設定すると、設定した露出条件が液晶モニターで確認できます。

顔認識AF についてのご注意

- どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどの条件によって異なります。
- 二重枠が赤色で点滅しているときは、顔にピントが合っていません。もう一度ピントを合わせなおしてください。
- 顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央でピント合わせを行います。
- 次のような場合、カメラは人物の顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている。または、横を向いている。
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている。

ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意

- ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な線の被写体
  - 明暗差の少ない被写体
  - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、液晶モニターに横帯が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓など）
  - 動く被写体
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-S以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、充分なピント精度が出ない場合があります。

ライブビュー撮影時の情報表示について

ライブビュー撮影時にinfoボタンを押すと、次のように画面の表示が切り替わります。

HDMI接続時の撮影画面表示

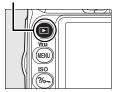
HDMI対応機器との接続時には、液晶モニターが消灯し、代わりに接続した機器のモニターに被写体が表示されます。HDMI出力時の撮影画面の表示は、右のようになります。

撮影した画像を確認する

撮影した画像は、カメラ背面の液晶モニターに表示されます。

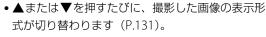
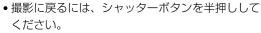
撮影した画像は、撮影直後に約4秒間（初期設定）、液晶モニターに表示されます。画像が表示されていないときに撮影した画像を確認したい場合は、▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

1 ▶ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の液晶モニターに表示します。

2 他の画像を確認する

- マルチセレクターの◀または▶を押すと、他の画像を確認できます。

- ▲または▼を押すたびに、撮影した画像の表示形式が切り替わります（P.131）。

- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。

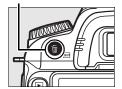
1 削除したい画像を選ぶ

ボタン

- ▶ボタンを押して、マルチセレクターで削除したい画像を表示させます。

2 画像を削除する

🗑ボタン

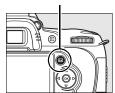
- 🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。
  再度🗑ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で、▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。

再生メニュー［削除］

再生メニューの［**削除**］（P.166）では、複数の画像を選択して削除したり、日付を選択して削除したり、全画像を一括して削除したりできます。

動画を撮影する・再生する

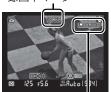
ライブビュー撮影中（P.43）に㊋ボタンを押すと、動画を撮影することが出来ます。

1 Ⓛⓥ（ライブビュー）ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が見えなくなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、被写体にピントを合わせてください。

3 ㊋ボタンを押して、撮影を始める

- 録画中は録画中マークが表示されます。
- 初期設定では、音声も同時に記録します。
- AE/AFロックボタンを押し続けている間、露出を固定（AEロック）できます。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合、☒ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、＋5～－5の範囲で露出補正ができます。
- 液晶モニターで記録できる残り時間の目安を確認できます。

- 撮影メニューの［**動画の設定**］で、動画を記録するときの記録サイズと音声の設定ができます（P.176）。
- 動画撮影中にシャッターボタンを半押ししても、オートフォーカスは動作しません。
- 動画撮影中にシャッターボタンを全押しすると、動画撮影を終了してレリーズモード（P.64）の設定で静止画撮影をします。

4 もう一度㊋ボタンを押すと、撮影が終了します。

- 撮影メニューの［**動画の設定**］を［**1280×720(16:9)**］に設定しているときは最長約5分間、［**640×424(3:2)**］、［**320×216(3:2)**］に設定しているときは最長約20分間連続して撮影できます。また、SDカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。

動画撮影について

- 使用しているSDカードの書き込み速度によっては、上記の時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります。
- SDカードが入っていないか残量がない場合は、（動画記録禁止）マーク（P.43）が表示され動画を撮影することは出来ません。
- 記録可能な最大ファイルサイズは2GBです。

動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画像に横帯が発生する
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
  - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
  - ジャギー、偽色、モアレが発生する
  - 輝点が発生する
- レンズを取り外すと、動画撮影は終了します。
- 長時間ライブビューや、動画撮影すると、カメラの内部回路の温度が上昇することがあります。この場合、カメラ内部の温度の上昇により、ノイズや色むらが発生する場合があります。また、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 高温によるカメラのダメージを抑えるために、カメラ内部の温度が上昇すると、カメラは自動的に動画撮影を終了します。動画撮影を終了する30秒前から、カメラは液晶モニターの左上に残り時間のカウントダウンを表示します。撮影時の気温が高い場合は、動画撮影が始まってすぐにカウントダウンが始まることもあります。

- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- オートフォーカスは機能しません。また、測光モードは（マルチパターン測光）に固定されます。
- カメラボディー前面にあるマイク（P.4）を指などでふさがないようにしてください。音声が記録できない場合があります。

▮▮動画を再生する

1コマ表示モード（P.130）で🎥マークが表示されている画像が動画です。㊊ボタンを押すと、再生できます。

動画再生中の操作方法：

巻き戻し/早送り	マルチセレクター◀▶	マルチセレクターの◀または▶を押すと巻き戻し/早送りができます
音量を小さくする	🔍−	音量が小さくなります。
音量を大きくする	🔍+	音量が大きくなります。
一時停止 / 再生	OK	㊊ボタンを押すと、一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。 一時停止中にマルチセレクターの◀または▶を押すとコマ戻し/ コマ送りができます。
撮影に戻る	シャッターボタン	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（P.163）。
再生終了	▲ / ▶	マルチセレクターの▲または▶ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。

撮影機能を使いこなそう

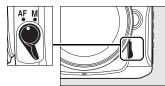
すべての撮影モードで使用できる、高度な撮影方法について説明します。

オートフォーカスで撮影する.. P.54
AFモードを選択する.. P.54
フォーカスポイントを選択する.. P.56
フォーカスロック撮影.. P.57
ピントを手動で合わせる（マニュアルフォーカス）.............. P.59
画質や画像のサイズを変更する.. P.61
画質モード.. P.62
画像サイズ.. P.63
レリーズモードを切り換える.. P.64
連続撮影（連写）する（⊒Lまたは⊒H）.............................. P.65
セルフタイマーを使って撮影する（⏲）.............................. P.67
別売のリモコンを使って撮影する（▯）.............................. P.69
内蔵フラッシュを使う.. P.72
ISO感度を設定する.. P.76
最初の設定に戻す（ツーボタンリセット）.............................. P.78

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセレクトダイヤルを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。

フォーカスモードセレクトダイヤル

- オートフォーカスに対応していないレンズをお使いのときや、オートフォーカスでピント合わせができないときは、マニュアルフォーカスで撮影してください（P.59）。
- A-M 切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合は、**A**（オートフォーカス）または**M/A**（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください（P.25）。
- オートフォーカス撮影時にピントが合ったときは、電子音が鳴ります。ただし、AFモードが**AF-C**のときは鳴りません。また、**AF-A**で被写体が動いているとカメラが判断したときや、撮影モード 🏃 のときも、電子音は鳴りません。

AFモードを選択する

オートフォーカス時のAFモード（ピントの合わせ方）を、次の3種類から選ぶことができます。

AF-A **（初期設定）**	**AF-S**と**AF-C**をカメラが自動的に切り換えます。被写体が静止しているときは**AF-S**、動いているときは**AF-C**になります。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-S	静止している被写体の撮影に適している「シングルAFサーボ」モードです。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターがきれません。
AF-C	動いている被写体の撮影に適している「コンティニュアスAFサーボ」モードです。シャッターボタンを半押ししている間、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。ピントが合っていない状態でも、シャッターボタンを全押しするとシャッターが切れます。

▌AFモードの変更方法

AFボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのAFモード表示が変化します。設定したいAFモードに合わせてください。

AFボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

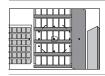
オートフォーカスの苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示●が点灯し、電子音が鳴ってシャッターがきれることがあります。このような場合は、フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（P.59）に切り換えてピントを合わせるか、フォーカスロック（P.57）を利用してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合（白壁や背景と同色の服をきている人物など）

被写体の明暗差が極端に異なる場合（太陽を背景にした日陰の人物など）

フォーカスポイント内に遠くのものと近くのものが混在する被写体（オリの中の動物など）

背景に対してメインの被写体が小さい場合（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）

連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓など）

絵柄が細かい場合（一面の花畑など）

AF補助光について

AF補助光ランプ

被写体が暗い場合などにシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために、AF補助光が自動的に点灯します。ただし、撮影モードが 、 のときや、カスタムメニュー a3［**内蔵AF補助光の照射設定**］（P.180）を［**しない**］に設定しているときは、点灯しません。

- 使用できるAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

関連ページ

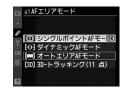
撮影時の電子音を消す → d1［**電子音設定**］（P.187）

フォーカスポイントを選択する

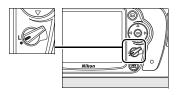
このカメラには、11点のフォーカスポイント（自動でピント合わせを行う領域）があります。初期設定では、カメラが自動的に選んだフォーカスポイント、または中央のフォーカスポイントでピント合わせを行いますが、構図を工夫して撮影したいときなどには、特定のフォーカスポイントを選ぶことができます。

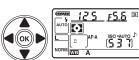
フォーカスポイントの選択方法

1 AFエリアモードを設定する

- カスタムメニュー a1［**AFエリアモード**］（P.179）を［**シングルポイントAFモード**］、［**ダイナミックAFモード**］、［**3D-トラッキング（11点）**］のいずれかにします。
- 撮影モード 、、、、、**P**、**S**、**A**、**M**の初期設定は［**オートエリアAFモード**］なので、設定の変更が必要です。

2 フォーカスポイントロックレバーを●マーク側にセットする

- マルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。

フォーカスポイント
ロックレバー

3 半押しタイマーの作動中（P.35）に、ファインダーをのぞきながらマルチセレクターの▲▼◀▶でフォーカスポイントを選ぶ

- 表示パネルとファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- 選んだフォーカスポイントに固定したいときは、フォーカスポイントロックレバーを**L**マーク側にセットしてください。

関連ページ

フォーカスポイントの選び方を変える → a1［**AFエリアモード**］（P.179）
中央のフォーカスポイントを広げる → a2［**中央フォーカスポイントフレーム**］（P.180）
フォーカスポイントの照明方法を変える → a4［**フォーカスポイント照明**］（P.181）

フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らない場合や、オートフォーカスが苦手な被写体（P.55）を撮影する場合には、以下の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影すると効果的です。

- フォーカスロック撮影をするときは、カスタムメニューa1［**AFエリアモード**］（P.179）を［**シングルポイントAFモード**］、［**ダイナミックAFモード**］、［**3D-トラッキング（11点）**］のいずれかに設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内下部にピント表示●が点灯します。

2 ピントを固定する

- **AFモード（P.54）がAF-AまたはAF-Cのとき**
  シャッターボタンを半押ししたまま（①）、AE/AFロックボタンを押すと（②）、ピントが固定されます。
  シャッターボタンから指を離しても、AE/AFロックボタンを押している間は、ピントと露出が固定され、ファインダー内下部に**AE-L**マークが点灯します。

- **AFモード（P.54）がAF-Sのとき**
  シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。これを「フォーカスロック」といいます。AE/AFロックボタンでフォーカスロックとAEロックを行うこともできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
AE/AFロックボタンでフォーカスロックを行った場合は、AE/AFロックボタンを押したままもう一度シャッターボタンを押し込んでください。

連続撮影時のフォーカスロックについて

フォーカスをロックして連続撮影（P.65）したいときは、まずシャッターボタンを半押ししてからAE/AFロックボタンでフォーカスロックを行い、そのままAE/AFロックボタンを放さずにもう一度シャッターボタンを押して連続撮影してください。

関連ページ

AE/AFロックボタンを押したときの動作を変更する → f4［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.208）

ピントを手動で合わせる（マニュアルフォーカス）

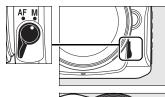
使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

- AF-Sレンズを使用している場合は、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。

フォーカスモード切り換えスイッチ

- AFレンズを使用している場合は、カメラのフォーカスモードセレクトダイヤルとレンズのフォーカスモード切り換えスイッチを両方**M**にしてください。
- マニュアルフォーカスレンズを使用する場合も、フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にしてください。

フォーカスモードセレクトダイヤル

- ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。

✔ AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意

AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合は、必ずカメラのフォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にしてください。フォーカスモードセレクトダイヤルを**AF**のままマニュアルフォーカスをすると、故障の原因になります。

AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRについて（P.292）

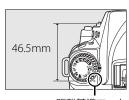
使用説明書で使用している AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VRはAF-Sレンズです。レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にするだけでマニュアルフォーカスができます。

フォーカスエイドによるピント合わせ

開放絞り値がF5.6以上の明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がF5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内下部のピント表示●でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは11カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示●が表示されます（P.45）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（P.55）では、ピントが合っていなくてもピント表示●が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。

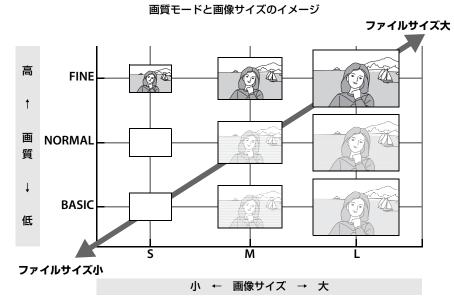
距離基準マーク

距離基準マーク ⊖ は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

距離基準マーク

画質や画像のサイズを変更する

SDカードに記録する画像の、画質（画像データの圧縮率）と画像サイズを変更します。画像の用途や、SDカードの残量に合わせて設定してください。

一般的に、画質が高く、画像サイズが大きいほど、画像データのファイルサイズは大きくなります。より精細な画像を大きくプリントすることができますが、SDカードに記録できるコマ数は少なくなります。

画質モードと画像サイズのイメージ

ファイル名について

- このカメラで撮影した画像には、DSC_nnnn.xxx という名前が付けられます。nnnn には撮影順に0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
  - NEF：RAW の場合
  - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合（P.216）
- RAW＋FINE、RAW＋NORMAL、RAW＋BASICで撮影した場合、ファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF（RAW画像）とJPG（FINE、NORMAL、BASIC画像）になります。
- 画像編集メニューの［**スモールピクチャー**］（P.228）で作成したスモールピクチャーのファイル名は「SSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- ［**スモールピクチャー**］以外の画像編集メニューで作成した画像のファイル名は「CSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- 撮影メニューの［**色空間**］（P.172）を［**Adobe RGB**］にした場合は、ファイル名が「_DSCnnnn」（または「_CSCnnnn」、「_SSCnnnn」）となります。

関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（P.281）

画質モード

画質モードは、以下の7種類から選べます。

画質モード		ファイル形式	説明
RAW		NEF	撮像素子の生データ（12bit圧縮RAW形式）を記録します。画像をパソコンに転送して加工したり、パソコンを使ってプリントする場合などに適しています。現像（復元）には画像編集メニューの［**RAW現像**］（P.232）、または、付属のソフトウェアViewNXや別売のCapture NX 2（P.254）を使います。
FINE	**高**	JPEG	「NORMAL」よりも精細な画質になります。画像データは約1/4に圧縮されます。
NORMAL（初期設定）	**画質**		画像データは約1/8に圧縮されます。
BASIC	**低**		ファイルサイズが最も小さく、電子メールに添付する場合などに適しています。画像データは約1/16に圧縮されます。
RAW+FINE		NEF+JPEG	RAWとFINEの2種類の画像を同時に記録します。
RAW+NORMAL			RAWとNORMALの2種類の画像を同時に記録します。
RAW+BASIC			RAWとBASICの2種類の画像を同時に記録します。

■ 画質モードの設定方法

液晶モニターの消灯時に、⊕（**QUAL**）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの画質モード表示が変化します。設定したい画質モードに合わせてください。

⊕（**QUAL**）ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

- 画質モードを変えると、記録可能コマ数（P.7、35）の表示も変化します。
- 画質モードは、撮影メニュー（P.169）でも設定できます。

「RAW」についてのご注意

- 画像サイズは設定できません。表示パネルにも画像サイズは表示されません。
- パソコンでRAW画像を表示するには、付属のViewNXまたは別売のCapture NX 2（P.254）が必要です。この際、画像サイズは［**L**］と同じ大きさになります。ViewNXは付属のSoftware Suite CD-ROMを使ってインストールできます。
- ホワイトバランスブラケティング（P.199）は使用できません。また、ホワイトバランスブラケティング設定時にこれらの画質モードに設定するとホワイトバランスブラケティングの設定が解除されます。

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- カメラでの再生時には、JPEG画像だけが表示されます。
- JPEG画像をカメラ上で削除すると、同時記録されたRAW画像も削除されます。

画像サイズ

画像サイズは、以下の3種類から選べます。プリントしたい大きさなどに合わせて設定してください。

画像サイズ		画像の大きさ	プリント時の大きさ（出力解像度※200dpiの場合）
L （初期設定）	**大** ↑ **サイズ** ↓ **小**	4288×2848ピクセル	約54.5×36.2cm
M		3216×2136ピクセル	約40.8×27.1cm
S		2144×1424ピクセル	約27.2×18.1cm

※ 解像度とは、画像がどれだけの細かさで表現されているかを示す数値で、「dpi」で表されます。200dpiとは1インチ（約2.54cm）四方が、縦200×横200の計40000のドット（点）で表現されていることを示します。同じ画像でも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

▌▌画像サイズの設定方法

液晶モニターの消灯時に、⊕（**QUAL**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの画像サイズ表示が変化します。設定したい画像サイズに合わせてください。

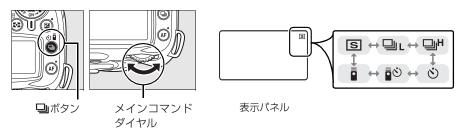
⊕（**QUAL**）ボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

- 画像サイズを変えると、記録可能コマ数（P.7、35）の表示も変化します。
- 画像サイズは、撮影メニュー（P.170）でも設定できます。

レリーズモードを切り換える

P.65～P.71で説明する1コマ撮影モードと連続撮影（連写）モード、セルフタイマーモード、2種類のリモコンモードをまとめて、「レリーズモード」といいます。6種類のレリーズモードの違いは以下の通りです。

モード	説明	参照
S 1コマ撮影	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影する、通常のモードです。	—
低速連続撮影 **高速連続撮影**	シャッターボタンを押しつづけると連続撮影（連写）できるモードです。	P.65
セルフタイマー	シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターがきれます。記念撮影などに便利です。	P.67
2秒リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。別売のリモコン（ML-L3）が必要です。	P.69
瞬時リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。別売のリモコン（ML-L3）が必要です。	P.69

レリーズモードは ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、以下のように切り換わります。

連続撮影（連写）する（⧉Lまたは⧉H）

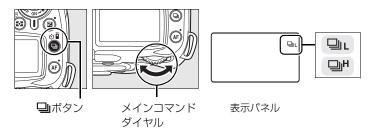
連続撮影モードには低速連続撮影と高速連続撮影があります。

⧉L 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約1～4コマ/秒※1で連続撮影（連写）できます。
⧉H 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約4.5コマ/秒※2で連続撮影（連写）できます。動きのある被写体などに使用すると便利です。

※1 カスタムメニューd6［**低速連続撮影速度**］（P.189）で連続撮影速度を設定できます。低速連続撮影速度は、フォーカスモード**M**、撮影モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL3eで、その他が初期設定のときの値です。

※2 高速連続撮影速度は、フォーカスモード**M**、撮影モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL3eで、その他が初期設定のときの値です。

連続撮影の方法

1 ⧉ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、連続撮影モードにする

⧉ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すたびに、表示パネルのレリーズモード表示が変化します。⧉Lまたは⧉Hに合わせてください。

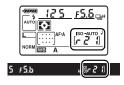
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影ができます。

✔ 連続撮影についてのご注意

- 連続撮影が終了しても、カードの性能や撮影条件によっては、最大で1分間程度、SDカードアクセスランプが点灯しつづける場合があります。
- 連続撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合は、連続撮影は中止され、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて電源がOFFになります。

連続撮影可能コマ数の表示

- シャッターボタンを押している間、rと連続撮影可能コマ数（連続撮影速度を維持したまま続けて撮影できるコマ数）が、表示パネルとファインダー内下部に表示されます。右図の場合、連続撮影速度を維持したままで、あと最低21コマ続けて撮影できることを示しています。

- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、[r00]になったときは、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。

連続撮影時の構図の縦位置・横位置情報について

縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されませんのでご注意ください。

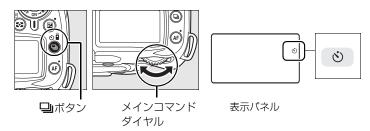
関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（P.281）

セルフタイマーを使って撮影する（⏲）

シャッターボタンを押してから、約10秒後（初期設定）にシャッターがきれます。記念写真など、自分も一緒に写りたいときに便利な機能です。

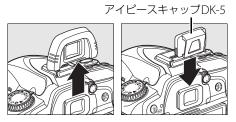
1 三脚などでカメラを固定する

2 ⧉ ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、⏲（セルフタイマー）を選ぶ

- ⧉ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すたびに、表示パネルのレリーズモード表示が変化します。⏲マークに合わせてください。

3 構図を決める

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**（P.80）でフラッシュを使って撮影したいときは、⚡ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内下部の⚡が点灯するまでお待ちください（P.72）。タイマーの作動中にフラッシュを上げると、タイマーは停止します。

ファインダーから離れてシャッターをきる場合には

構図を決めた後に、ファインダーから光が入り、露出が変わることを防ぐため、接眼目当てを外し、付属のアイピースキャップDK-5を、右図のように取り付けてください。

4 撮影をはじめる

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、全押ししてください。タイマーが作動し、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になると点灯に変わります。
- タイマーの作動中は電子音も繰り返し鳴ります。撮影2秒前になると間隔が短くなります。
- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではタイマーは作動しません。

5 シャッターがきれる

- シャッターボタンを全押ししてから10秒後にシャッターがきれます。

セルフタイマーの解除について

- 作動中のタイマーを解除するには、他のレリーズモードに切り換えてください。
- 撮影後もセルフタイマーの設定は解除されません。セルフタイマーを解除したいときは、他のレリーズモードに変更してください。
- 電源をOFFにすると、レリーズモードは S（1コマ撮影）、□L（低速連続撮影）または □H（高速連続撮影）モードに戻ります。

シャッタースピードを bulb にしてセルフタイマー撮影をした場合

- 撮影モードMでシャッタースピードを bulb にしてセルフタイマー撮影を行うと、シャッタースピードは約1/10秒になります。

関連ページ

セルフタイマーの作動時間や撮影コマ数を変更する → c3［**セルフタイマー**］（P.186）
セルフタイマー撮影時の電子音を消す → d1［**電子音設定**］（P.187）

別売のリモコンを使って撮影する（）

別売のリモコン（ML-L3）（P.255）を使って、カメラから離れた場所からシャッターをきることができます。記念写真など自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押すときの手ブレを軽減したいときなどにお使いください。

1 三脚などでカメラを固定する

- リモコンは、カメラから5m以内の距離でお使いください。

2 ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、リモコンモード（ または）を選ぶ

- ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すたびに、表示パネルのレリーズモード表示が変化します。設定したいリモコンモードに合わせてください。

	2秒リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。
	瞬時リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。

- リモコンモードに合わせると、カメラは受信待機状態になります。操作のないまま約1分（初期設定）が過ぎると、リモコンモードから、S（1コマ撮影）、L（低速連続撮影）または H（高速連続撮影）モードに戻ります。

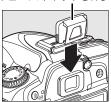
3 構図を決める

- オートフォーカスでの撮影時には、ここでカメラのシャッターボタンを半押しすることで、あらかじめピントを合わせておくことができます。ただし、カメラのシャッターボタンでシャッターをきることはできません。

リモコンをはじめてお使いになるときのご注意

リモコンをお使いになる前に、リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。

4 付属のアイピースキャップを取り付ける

- ファインダーから光が入り、露出が変わることを防ぎます。
- 接眼目当てを外し、付属のアイピースキャップDK-5を、右図のように取り付けてください。

アイピースキャップDK-5

5 撮影をはじめる

- リモコン送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください。

6 シャッターがきれる

- 2秒リモコンモードではセルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- 瞬時リモコンモードではすぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。
- リモコン撮影時のフォーカス動作は以下のように、AFモード（P.54）の設定によって異なります。

AF-A **AF-S**	ピントが合ってから約2秒後、または瞬時にシャッターがきれます。ピントが合わない場合は、待機状態に戻ります。ただし、すでにピントが合っているときやマニュアルフォーカス撮影時はピント合わせを行わず、シャッターがきれます。
AF-C	ピント合わせは行わず、リモコンの送信ボタンを押してから約2秒後、または瞬時にシャッターがきれます。

☑ リモコン撮影の解除について

- リモコンの待機状態を解除するには、他のレリーズモードに切り換えてください。
- 撮影後もリモコン撮影の設定は解除されません。ただし、リモコン受信待機時間（初期設定で1分）が経過するか電源をOFFにすると、S（1コマ撮影）、⧉L（低速連続撮影）または ⧉H（高速連続撮影）モードに戻ります。

リモコン撮影時のフラッシュについて

- 撮影モード AUTO、ポートレート、こどもスナップ、クローズアップでは、リモコンの受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にリモコンの送信ボタンを押すと、必要に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がり発光します。フラッシュの充電中にリモコンの送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。しばらく待ってから送信ボタンを押してください。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でフラッシュを使って撮影したいときは、リモコンの受信待機状態で ⚡ ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内下部の ⚡ が点灯するまでお待ちください（P.72）。2秒リモコンモードで、リモコンの送信ボタンを押した後にフラッシュを上げると、リモコンの撮影は中止されます。
- 瞬時リモコン撮影の場合、赤目軽減発光（P.73）を組み合わせたフラッシュモードでは、赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。2秒リモコン撮影の場合、セルフタイマーランプが約2秒間点灯した後、赤目軽減のために赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。

関連ページ

リモコン撮影の受信待機時間を変更する → c5［**リモコン待機時間**］（P.186）
リモコン撮影時の電子音を消す → d1［**電子音設定**］（P.187）

内蔵フラッシュを使う

撮影状況に合わせて、カメラの内蔵フラッシュを発光させたり、発光方式（フラッシュモード）を切り換えたりすることで、暗い場所や逆光下など、様々な場所での撮影を楽しむことができます。

■内蔵フラッシュを使うには

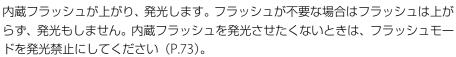
内蔵フラッシュを使って撮影する手順は、撮影モードによって以下のように異なります。

撮影モード AUTO、、、

①撮影モードを設定する

②フラッシュモードを設定する（P.73）

③シャッターボタンを半押しする

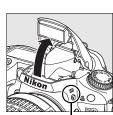
暗いときや逆光のときなど、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。フラッシュが不要な場合はフラッシュは上がらず、発光もしません。内蔵フラッシュを発光させたくないときは、フラッシュモードを発光禁止にしてください（P.73）。

撮影モードP、S、A、M

①撮影モードを設定する

② ⚡ ボタンを押して、内蔵フラッシュを手動で上げる

③フラッシュモードを設定する（P.73）

④測光モードや露出を決定してから、撮影する

内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。発光させないようにするには、内蔵フラッシュを収納（P.75）してください。

フラッシュモードを設定する

フラッシュモードは、表示パネルと情報画面に表示されます。設定できるフラッシュモードは、撮影モードによって異なります。詳しくは「フラッシュモードについて」をご覧ください。

⚡ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのフラッシュモード表示が、撮影モードに応じた内容で変化します（P.74）。設定したいフラッシュモードに合わせてください。

フラッシュモードについて

フラッシュモードの見方は以下の通りです。なお、発光禁止のときは⊘が表示されます。

👁：赤目軽減発光

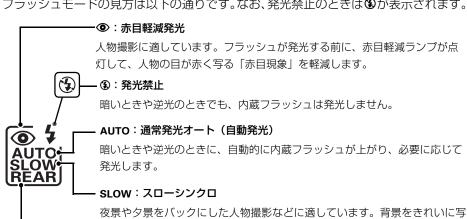
人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。

⊘：発光禁止

暗いときや逆光のときでも、内蔵フラッシュは発光しません。

AUTO：通常発光オート（自動発光）

暗いときや逆光のときに、自動的に内蔵フラッシュが上がり、必要に応じて発光します。

SLOW：スローシンクロ

夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードが遅くなります。

REAR：後幕発光

シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。詳しくは「後幕発光とは」（P.74）をご覧ください。この表示が無いフラッシュモードでは、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光します。

フラッシュモードは、撮影モードによって以下のように異なります。

撮影モードP、A

通常発光

赤目軽減発光

後幕発光＋
スローシンクロ※

SLOW
REAR

SLOW

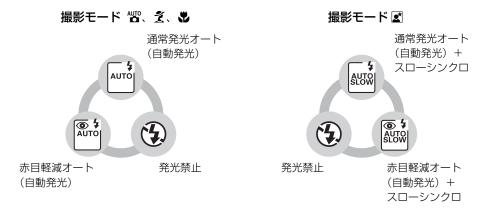
SLOW

赤目軽減発光＋
スローシンクロ

通常発光＋
スローシンクロ

撮影モードS、M

通常発光

REAR

赤目軽減発光

後幕発光

※メインコマンドダイヤルでフラッシュモードを操作している間は、**SLOW**の文字は表示されません。

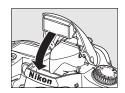
後幕発光とは

通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光するため、動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。

先幕発光

後幕発光

■ 内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは常に収納してください。

内蔵フラッシュについてのご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から60cm以上離れてください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズは、焦点距離が18～300mmのCPUレンズと、焦点距離が18～200mmの非CPUレンズです。詳しくはP.242をご覧ください。なお、内蔵フラッシュの自動調光は、CPUレンズ装着時しか機能しません。フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、□L（低速連続撮影）または□H（高速連続撮影）モードでも、連続撮影はできません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。

関連ページ

- フラッシュの調光量を固定して撮影する → 「調光量を固定して撮影する（FVロック）」（P.206）
- フラッシュ時のシャッタースピードを制限する → e1［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］（P.193）
- 内蔵フラッシュの発光方式を変更する → e2［**内蔵フラッシュ発光**］（P.193）
- 内蔵フラッシュをコマンダーモードで使用する → e2［**内蔵フラッシュ発光**］（P.193）
- フラッシュの効果を撮影前に確認する → e3［**モデリング発光**］（P.199）
- 別売スピードライト（フラッシュ）を使って撮影する → 「使用できるスピードライト」（P.247）
- 「フラッシュ撮影時の発光量制御について」（P.284）
- 「内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限」（P.284）
- 「内蔵フラッシュの調光範囲と限界絞り値」（P.285）

ISO感度を設定する

暗い場所で撮影するときは、シャッタースピードが遅くなり手ブレしやすくなりますが、ISO感度を標準（ISO200相当）よりも高くすれば、シャッタースピードが速くなり、手ブレしにくくなります。ISO感度はISO200～3200相当の間で、1/3段刻みで設定できます。また、ISO 200相当から約0.3段～約1段感度を下げることと、ISO3200相当から、さらに約0.3段～約1段感度を上げることもできます。

■ISO感度の設定方法

液晶モニターの消灯時に、（ISO）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのISO感度表示が変化します。設定したいISO感度に合わせてください。

（ISO）ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

- 設定できるISO感度は、撮影モードによって以下のように異なります。

	AUTO（オート；初期設定）、L 1.0、L 0.7、L 0.3、200～3200、H 0.3、H 0.7、H 1.0
P、S、A、M	L 1.0、L 0.7、L 0.3、200～3200、H 0.3、H 0.7、H 1.0

- AUTO（オート）ではカメラが自動的にISO感度を決めます。表示パネルとファインダー内表示に、**ISO-AUTO**が表示されます。
- ISO3200よりもさらに高い感度は、H 0.3（ISO4000相当）、H 0.7（ISO5000相当）、H 1.0（ISO6400相当）と表示されます。これらの超高感度域で撮影した画像には、ざらつきや色むらが特に発生しやすくなります。
- ISO200よりもさらに低い感度は、L 0.3（ISO160相当）、L 0.7（ISO125相当）、L 1.0（ISO100相当）と表示されます。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では［**200**］以上をご使用ください。
- ISO感度は、撮影メニュー（P.170）でも設定できます。

ISO感度とは

フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当します。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。このため、暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的ですが、一方で、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

ISO感度についてのご注意

［**ISO感度**］を［**AUTO**］にしてから撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかに切り換えた場合は、以前に設定したISO感度に戻ります。

関連ページ

- 高感度撮影時のノイズを低減する　→　［**高感度ノイズ低減**］（P.173）
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でISO感度を自動制御する　→　［**感度自動制御**］（P.170）

最初の設定に戻す（ツーボタンリセット）

カメラの撮影に関する設定を初期状態に戻すことができます。ボタンと AF ボタン（それぞれのボタンに緑色の ● 印がついています）を同時に約2秒間押すと、表示パネルがいったん消灯してから再点灯し、各機能が以下の初期設定状態に戻ります。

- ツーボタンリセットではカスタムメニューはリセットできません。［**カスタムメニューのリセット**］でリセットしてください（P.178）。

ボタン

AFボタン

項目			初期設定
レリーズモード（P.64）			1コマ撮影
画質モード（P.62）			NORMAL
画像サイズ（P.63）			L
ISO感度設定（P.76）			
	撮影モード	AUTO	AUTO
		P、S、A、M	200
ホワイトバランス（P.97、170）			オート
	微調整値（P.99）		解除（0）
	色温度設定（P.101）		5000K
［ピクチャーコントロール］の調整値（P.113）※1			解除
AFモード（P.54）			AF-A
ライブビュー時のAFモード（P.44）			
	撮影モード		顔認識AF
		AUTO P、S、A、M	ワイドエリアAF
			ノーマルエリアAF

項目			初期設定
フォーカスポイント（P.56）			中央※2
測光モード（P.89）			マルチパターン測光
AE/AFロックボタンのホールド状態（P.90、208）			解除
プログラムシフト（P.82）			解除
露出補正（P.92）			解除
調光補正（P.93）			解除（0.0）
オートブラケティング（P.94）			解除（0.0）※3
FVロック（P.206）			解除（0.0）
フラッシュモード（P.73）			
	撮影モード	AUTO	通常発光オート
			通常発光オート＋スローシンクロ
		P、S、A、M	通常発光
多重露出（P.124）			解除

※1 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

※2 カスタムメニュー a1［**AF エリアモード設定**］（P.179）が［**オートエリア AF モード**］のときは、フォーカスポイントは表示されません。

※3 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュブラケティングの補正ステップは1段に、WBブラケティングの補正ステップは1になります。

関連ページ

「初期設定一覧」（P.279）

P、S、A、Mモードで撮影する

ここでは、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**だけで使うことができる高度な機能について説明しています。これらのモードでは、シャッタースピードや絞り値を撮影者自身で選んだり、画像の明るさ、フラッシュの発光量、ホワイトバランスなどさまざまな調整を行って撮影できるので、オートモードやシーンモード撮影に比べ、撮影者の作画意図をより反映した撮影が可能です。

撮影モードP、S、A、Mを使う P.80

P：マルチプログラムオートでの撮影方法 P.82

S：シャッター優先オートでの撮影方法 P.83

A：絞り優先オートでの撮影方法 P.84

M：マニュアルでの撮影方法 P.85

長時間露出で撮影する P.87

明るさを測る方法を設定する（測光モード） P.89

明るさを固定して撮影する（AEロック撮影） P.90

画像の明るさを調整する（露出補正） P.92

フラッシュの発光量を調整する（調光補正） P.93

明るさやフラッシュの発光量をずらして撮影する（オートブラケティング撮影） P.94

画像の色を見た目の色に合わせる（ホワイトバランス） P.97

ホワイトバランスの微調整 P.99

色温度設定 P.101

プリセットホワイトバランス P.102

画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール） P.110

ピクチャーコントロールを調整する P.113

カスタムピクチャーコントロールを登録する P.116

ピクチャーコントロールを管理する P.120

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブD-ライティング） P.122

1つの画像に重ねて写し込む（多重露出撮影） P.124

GPS情報を画像に記録する P.127

撮影モードP、S、A、Mを使う

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞りのそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。

P	**マルチプログラムオート（P.82）**	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞りの両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート（P.83）**	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞りはカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート（P.84）**	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞りを自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル（P.85）**	シャッタースピードと絞りの両方を自分で設定します。長時間露光（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

撮影モードP、S、A、Mについてのご注意

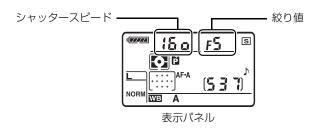
- CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリング（P.242）は、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 非CPUレンズをお使いの場合は、撮影モード**M**で撮影してください（撮影モード**P**、**S**、**A**ではシャッターがきれません）。絞りの設定や確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。カメラの露出計（露出インジケーター）や感度自動制御（P.170）は利用できません。詳しくは「装着可能なレンズと使用可能な機能」（P.242）をご覧ください。

関連ページ

- ISO感度をカメラに自動制御させる → ［**感度自動制御**］（P.170）
- 露出値の刻み幅を変更する → b1［**露出設定ステップ幅**］（P.183）
- メイン/サブコマンドダイヤルの役割を変更する → f5［**コマンドダイヤルの設定**］（P.208）

露出について

シャッタースピードと絞りを調整して、画像を意図した明るさ（露出）で撮影することを、「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞りの組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。

表示パネル

速いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1/1600秒

遅いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1秒

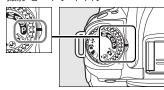
絞りを絞り込んだとき
（絞り値が大きいとき）
絞り値：F36

絞りを開いたとき
（絞り値が小さいとき）
絞り値：F3

P：マルチプログラムオートでの撮影方法

被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。

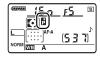
1　撮影モードダイヤルをPに合わせる

撮影モードダイヤル

2　構図を決め、ピントを合わせて撮影する

プログラムシフト

撮影モードPで半押しタイマー作動中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は表示パネルに P* マークが点灯します。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくしたい）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにしたい）場合にはメインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きくしたい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにしたい）場合にはメインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク P* が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

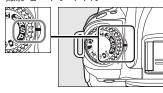
メインコマンドダイヤル

表示パネル

関連ページ

プログラム線図　→　資料集（P.282）

S：シャッター優先オートでの撮影方法

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

1　撮影モードダイヤルをSに合わせる

2　半押しタイマーがオンのときに、シャッタースピードを設定する

- メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部のシャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（1/4000秒～30秒）に合わせてください。

メインコマンドダイヤル

表示パネル

3　構図を決め、ピントを合わせて撮影する

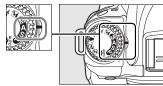
関連ページ

bulb / - -が点滅したときは　→　警告メッセージ（P.271）

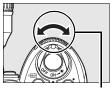
A：絞り優先オートでの撮影方法

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）ことによって、近くから遠くまでピントのあった風景写真を撮影したり、絞りを開く（絞り値を小さくする）ことによって背景をぼかし、メインとなる被写体を浮き立たせた写真を撮影するなど、被写界深度を調節して撮影する場合に適しています。

1　撮影モードダイヤルをAに合わせる

撮影モードダイヤル

2　半押しタイマーがオンのときに、絞りを設定する

- サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部の絞り値表示が変化します。設定したい絞り値に合わせてください。
- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。

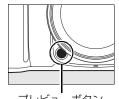
サブコマンドダイヤル

表示パネル

3　構図を決め、ピントを合わせて撮影する

被写界深度とは

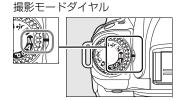
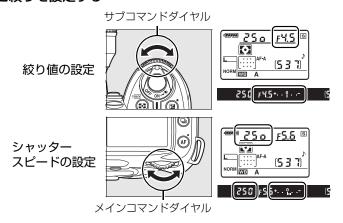
ピントを合わせた位置を挟んで、その奥と手前でピントが合って見える範囲のことです。被写界深度が浅いほどピントを合わせた位置以外の部分がぼけて写り、深いほど画像全体がシャープに写ります。被写界深度は、絞りを開く（絞り値を小さくする）ほど浅くなり、絞り込む（絞り値を大きくする）ほど深くなります（被写界深度は絞り値だけでなく、焦点距離や撮影距離によっても左右されます）。一般に、ポートレート写真では被写界深度を浅くして背景をぼかし、風景写真では被写界深度を深くとって全体をシャープに写すと効果的です。

被写界深度のプレビュー

プレビューボタンを押し続けると、現在の設定で撮影する場合の絞り値まで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

プレビューボタン

M：マニュアルでの撮影方法

シャッタースピードと絞りの両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露光（バルブ撮影、タイム撮影、P.87）で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

2 ファインダー内下部の露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞りを設定する

- メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部のシャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（1/4000秒～30秒またはbulb）に合わせてください。
- サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部の絞り値表示が変化します。設定したい絞り値に合わせてください。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

露出インジケーターについて

設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が、ファインダー内下部に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は以下のとおりです（表示内容はカスタムメニューb1［**露出設定ステップ幅**］（P.183）の設定によって変化します）。

表示	内容
+. . 0 . .−	適正露出
+. . 0 . .− （1/3段アンダー）	インジケーターが−側に振れているときは画像が適正露出よりも暗いことを意味しています。
+. . 0 . .− （2段以上オーバー）	インジケーターが＋側に振れているときは画像が適正露出よりも明るいことを意味しています。

- 被写体が明るすぎ、または暗すぎてカメラの測光範囲を超えた場合は、露出インジケーターが点滅します。
- 長時間露光（バルブ、タイム）撮影時（P.87）と非CPUレンズ使用時は、露出インジケーターは表示されません。

関連ページ

インジケーター表示の＋/−方向を変更する → f7［**インジケーター表示の＋/−方向**］（P.210）

長時間露出で撮影する

撮影モードMのみ

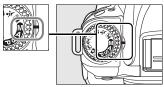
長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、天体写真の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚や別売のリモコン（P.255）、リモートコード（P.255）が必要です。

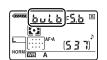
バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	リモコンの送信ボタンを一度押すとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。D90でタイム撮影をするには、別売のリモコンML-L3（P.255）が必要です。

❚❚長時間露出撮影の方法

1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 撮影モードダイヤルをMに合わせる

撮影モードダイヤル

3 半押しタイマーがオンのときに、メインコマンドダイヤルを回して、シャッタースピードをbulbに設定する

- タイム撮影の場合は、シャッタースピードを bulb にしてからレリーズモード（P.64）を2秒リモコンまたは瞬時リモコンモードにしてください。シャッタースピードの表示が - - に変わります。

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。
- 手ブレを抑えるために、別売のリモートコードを使用することをおすすめします。リモートコードを使用する場合は、リモートコードのシャッターボタンを全押ししてください。

タイム撮影：

- リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後または瞬時にシャッターが開き、長時間露出撮影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。

タイム撮影：

- リモコンの送信ボタンをもう一度押すと、長時間露出撮影を終了します。ただし、シャッターが開いてから30分経つと自動的に閉じます。

シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

長時間露出について

- 露光時間が長くなると、画像にノイズやむらが発生することがあります。このノイズやむらは、あらかじめ撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］（P.173）を［**する**］にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電した Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3eまたは別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5のご使用をおすすめします。

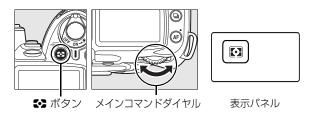
明るさを測る方法を設定する（測光モード）

適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。測光モードは以下の3種類から選ぶことができます※。

マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図など様々な情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光	画面中央のφ8mm相当（初期設定）の円内を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。
スポット測光	フォーカスポイントに重なるφ3.5mm相当（全画面の約2.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、［**AFエリアモード**］（P.54）が［**オートエリアAFモード**］のときは、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

※撮影モード AUTO、⊕、、、、、 の場合、測光モードは常に［**マルチパターン測光**］になります。

測光モードの設定方法

ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの測光モード表示が変化します。設定したい測光モードに合わせてください。

フィルター係数のかかるフィルター（露出に影響するフィルター）使用時のご注意

フィルター係数のかかるフィルター（P.253）をお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。マルチパターン測光では充分な効果が得られない場合があります

マルチパターン測光について

このカメラは420分割RGBセンサーを搭載しています。GタイプまたはDタイプレンズ（P.242）使用時は、このセンサーから得られる様々な情報を最大限に利用できる「3D-RGBマルチパターン測光II」という測光方式になります。その他のCPUレンズをお使いのときは、距離情報を考慮しない「RGBマルチパターン測光II」という測光方式になります。

関連ページ

中央部重点測光の測光範囲を変更する → b3［**中央部重点測光範囲**］（P.184）

明るさを固定して撮影する（AEロック撮影）

撮影モードP、S、Aのみ

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。撮影モード **P**、**S**、**A**で利用できます※。

※ 撮影モード AUTO、⑤、❷、▲、✿、❁、☑ でもAEロックは作動しますが、マルチパターン測光での撮影となり、充分な効果が得られないため、おすすめできません。

1 測光モード（P.89）を［中央部重点測光］または［スポット測光］にする

ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたままAE/AF ロックボタンを押して、露出を固定（ロック）する

- AE/AF ロックボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません
- ファインダー内下部に**AE-L**が点灯します。
- オートフォーカス撮影時は、ピントも同時にロックされるので、ピント表示●の点灯もご確認ください。

シャッターボタン

AE/AFロックボタン

3 AE/AF ロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影する

AEとは

Automatic Exposureの略で、露出をカメラが自動的に制御する「自動露出」の意味です。AEによって決定された露出を固定することを「AEロック」といいます。

シャッタースピードと絞り値の変更

AE/AFロックボタンを押している間も以下の操作ができます。

撮影モード	操作
P（マルチプログラムオート）	プログラムシフト（P.82）
S（シャッター優先オート）	シャッタースピードの変更
A（絞り優先オート）	絞り値の変更

- 表示パネルやファインダー内下部には変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ

AEロックの操作方法を変更する → c1［**半押しAEロック**］（P.185）
f4［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.208）

画像の明るさを調整する（露出補正）

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることで、画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（P.89）を［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］にすると効果的です。

露出補正の方法

☒ ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの露出補正表示が変化（1/3段または1/2段刻みで±5段）します。設定したい補正量に合わせてください。

☒ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に☒ マークが表示されます。
- ☒ ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で補正量を確認できます。

補正なし（⚡（☒）ボタンを押したとき）　－0.3段補正　＋2段補正

- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正します。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

－1段補正　露出補正なし　＋1段補正

撮影モードMでの露出補正

露出補正が設定されていても、撮影モード**M**では、手動で設定したシャッタースピードと絞り値で撮影されます。

撮影モード**M**では、露出補正値を0.0以外に設定すると、露出インジケーターの基準値が変わります。

関連ページ

- 露出補正の刻み幅を変更する　→　✎ b1［**露出設定ステップ幅**］（P.183）
- ボタンを使わずに露出補正を行う　→　✎ b2［**露出補正簡易設定**］（P.183）

フラッシュの発光量を調整する（調光補正）

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくしてメインの被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

調光補正の方法

⚡（☒）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの調光補正表示が変化（1/3段または1/2段刻みで－3段～＋1段）します。設定したい補正量に合わせてください。

⚡（☒）ボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に ☒ マークが表示されます。
- ⚡（☒）ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で補正量を確認できます。

補正なし（⚡（☒）ボタンを押したとき）　－0.3段補正　＋1段補正

- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

別売スピードライト装着時の調光補正

別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200装着時も、調光補正を行うことができます。

関連ページ

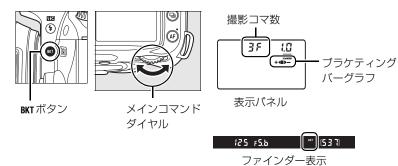
- 調光補正の刻み幅を変更する　→　b1［**露出設定ステップ幅**］（P.183）

明るさやフラッシュの発光量をずらして撮影する（オートブラケティング撮影）

露出の調整が難しい状況などでの撮影に効果的な機能で、シャッターボタンを押すたびに、露出などを少しずつずらした画像を続けて撮影することができます。ここでは初期設定の［**AE•フラッシュブラケティング**］（露出とフラッシュの発光量をずらしながら撮影する）について説明します。カスタムメニュー e4［**オートブラケティングのセット**］（P.199）の設定を変更すると、露出だけ、またはフラッシュの発光量だけを単独でずらすことや、アクティブD-ライティングの効果やホワイトバランスをずらして撮影することもできます。

AE・フラッシュブラケティング撮影の方法

1 撮影コマ数（2コマまたは3コマ）を設定する

- BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの撮影コマ数とブラケティングバーグラフの表示が変化します。設定したい撮影コマ数に合わせてください。

撮影コマ数設定時の表示の見方：

撮影コマ数	ブラケティングバーグラフ	意味
3F	+◀■▶−	「補正なし」→「−側に補正」→「+側に補正」の順に3コマ撮影します。
+2F	+◀■	「補正なし」→「+側に補正」の順に2コマ撮影します。
−2F	■▶−	「補正なし」→「−側に補正」の順に2コマ撮影します。

関連ページ

- ブラケティング撮影の撮影コマ数と補正段数の組み合わせ → 資料集（P.283）
- オートブラケティングの補正段数の刻み幅を変更する → b1［**露出設定ステップ幅**］（P.183）
- オートブラケティングの撮影順を変更する → e6［**BKTの順序**］（P.203）

2 補正ステップ（0.3段～2段）を設定する

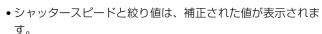
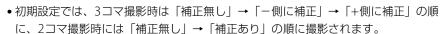
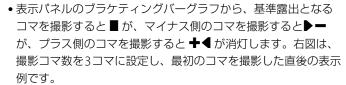
- BKT ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの補正ステップ表示が変化します。設定したい補正ステップに合わせてください。

3 構図を決めて1コマ目を撮影し、続けて残りのコマを撮影する

- シャッタースピードと絞り値は、補正された値が表示されます。

- 初期設定では、3コマ撮影時は「補正無し」→「－側に補正」→「+側に補正」の順に、2コマ撮影時には「補正無し」→「補正あり」の順に撮影されます。

- 表示パネルのブラケティングバーグラフから、基準露出となるコマを撮影すると ■ が、マイナス側のコマを撮影すると▶━ が、プラス側のコマを撮影すると ✚◀ が消灯します。右図は、撮影コマ数を3コマに設定し、最初のコマを撮影した直後の表示例です。

補正ステップ：0
■

補正段数：–1
▶━

補正段数：+1
✚◀

ブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルの撮影コマ数を0Fにしてください（BKT が消灯します）。ただし、設定した補正段数は記憶されます。

ブラケティングと露出補正の組み合わせについて

ブラケティングに露出補正（P.92）を組み合わせると、露出補正値を基準にしてブラケティング撮影ができます。

AE・フラッシュブラケティングについてのご注意

- 連続撮影L（低速連続撮影）または連続撮影H（高速連続撮影）モードでも、ブラケティング撮影が終了した時点で撮影はいったん停止します。
- 撮影中に電源をOFFにしても、再びONにすれば残りの撮影を再開できます。いったん電源をOFFにしてSDカードを交換したときも同様です。
- 撮影中に**P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードに変更すると、ブラケティング撮影は終了します。ただし、撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかに戻すと、以前設定した撮影コマ数と補正段数で、AE・フラッシュブラケティングが設定されます。
- 撮影中にカスタムメニューe4［**オートブラケティングのセット**］（P.199）を［**WBブラケティング**］または［**ADLブラケティング**］に変更すると、AE・フラッシュブラケティングは終了します。

AEブラケティング

AEブラケティングでは、撮影モードによって補正される内容（シャッタースピード/絞り値）が異なります。

撮影モード	変化する内容
P（マルチプログラムオート）	シャッタースピードと絞り値※1
S（シャッター優先オート）	絞り値※1
A（絞り優先オート）	シャッタースピード※1
M（マニュアル）	シャッタースピード※2

※1 撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］（P.170）が［**する**］のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

※2 撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］（P.170）が［**する**］のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブラケティングでシャッタースピードを変化させます。

画像の色を見た目の色に合わせる（ホワイトバランス）

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定のAUTO（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランスは以下の種類から選ぶことができます。

ホワイトバランス		設定される色温度	内容
AUTO オート（初期設定）		約3500～8000K※	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。 AUTO（オート）で充分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。内蔵フラッシュまたは別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
電球		約3000K※	白熱電球下での撮影に適しています。
蛍光灯		—	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
	ナトリウム灯混合光	約2700K※	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
	電球色蛍光灯	約3000K※	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
	温白色蛍光灯	約3700K※	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	白色蛍光灯（蛍光灯の初期設定）	約4200K※	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	昼白色蛍光灯	約5000K※	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
	昼光色蛍光灯	約6500K※	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
	高色温度の水銀灯	約7200K※	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
晴天		約5200K※	晴天の屋外での撮影に適しています。
フラッシュ		約5400K※	内蔵フラッシュや別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
曇天		約6000K※	曇り空の屋外での撮影に適しています。
晴天日陰		約8000K※	晴天の日陰での撮影に適しています。
K 色温度設定		約2500～10000K	色温度を直接指定できます（P.101）。
PRE プリセットマニュアル		—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます（P.102）。

※微調整が0の場合の値です。

ホワイトバランスの変更方法

?/⊶（WB）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのホワイトバランス表示が変化します。設定したいホワイトバランスに合わせてください。

?/⊶（WB）ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

- 蛍光灯アイコン（蛍光灯）の種類は、撮影メニュー（P.169）で選択してください。
- ホワイトバランスは撮影メニューでも設定できます。

オートモードまたはシーンモードのときのホワイトバランスについて

撮影モードがオートモードまたはシーンモード（P.6）のときのホワイトバランスは、［**オート**］になります。

関連ページ

- ホワイトバランスを変えながら撮影する　→　e4［**オートブラケティングのセット**］（P.199）

ホワイトバランスの微調整

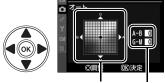
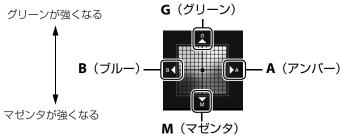
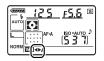
設定したホワイトバランスを、さらに微調整することができます。

▮▮撮影メニューの［ホワイトバランス］で設定する場合

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］でホワイトバランスを選ぶ

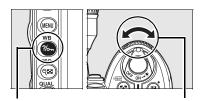
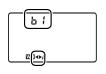
- ホワイトバランスを選んでマルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**蛍光灯**］の場合は、該当する蛍光灯の種類を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**色温度設定**］の場合は、該当する色温度を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**プリセットマニュアル**］の場合は、該当するプリセットマニュアルデータを設定すると（P.108）、微調整画面が表示されます。

2 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。設定した座標上の色に画像を補正します。
- 座標とホワイトバランスの効果の関係は次の図のようになります。

- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- AまたはB方向に微調整した場合、表示パネルにホワイトバランス微調整表示◂▸が点灯します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整ができます。

3 微調整値を決定します

- ⓚボタンを押して微調整値を決定すると、撮影メニューに戻ります。

■ ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

?/⊶（WB）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのホワイトバランス微調整値表示が変化します。設定したい微調整値に合わせてください。

?/⊶（WB）ボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

- ?/⊶（WB）ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）からB（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます（P.99）。各方向6段まで微調整できます。
- 1段は約5ミレッドに相当します（P.100）。
- サブコマンドダイヤルを左に回すとA（アンバー）方向に、右に回すとB（ブルー）方向に色温度の高さを微調整できます。
- 微調整値を0以外に設定すると、表示パネルにホワイトバランス微調整表示 ◂▸ が点灯します。
- ?/⊶（WB）ボタンの操作では、K（色温度設定）、PRE（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。撮影メニューで微調整してください（P.99）。

☑ ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを✱（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ミレッド（MIRED）について

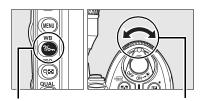
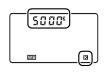
色温度の逆数を百万倍（10^6）したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差 （M：ミレッド）
4000K－3000K＝1000 K ：83 M
7000K－6000K＝1000 K ：24 M

色温度設定

ホワイトバランスを K（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定してください。

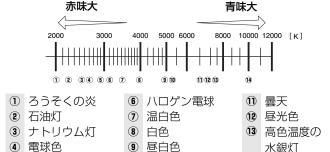
色温度の設定方法

?/⊶（WB）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの色温度表示が変化します。設定したい色温度（K：ケルビン相当）に合わせてください。

?/⊶（WB）ボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

- 色温度設定は、撮影メニュー（P.169）でも行えます。

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

①	ろうそくの炎	⑥	ハロゲン電球	⑪	曇天
②	石油灯	⑦	温白色	⑫	昼光色
③	ナトリウム灯	⑧	白色	⑬	高色温度の水銀灯
④	電球色	⑨	昼白色	⑭	快晴の空
⑤	白熱電球	⑩	晴天昼光		

色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ 蛍光灯マーク（蛍光灯）、フラッシュマーク（フラッシュ）に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。
- ?/⊶（WB）ボタンとサブコマンドダイヤルで色温度を設定すると、撮影メニュー［**ホワイトバランス**］の［**色温度設定**］で設定した微調整値は解除されます。

プリセットホワイトバランス

特殊な照明の下で撮影するときなど、AUTO（オート）や（電球）などの設定では望ましい結果が得られない場合や、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したいときは、事前に取得（プリセット）したホワイトバランスを使うことができます。

プリセットデータはカメラで取得する方法と、SDカードから読み込む方法があります。

プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（P.103）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	SDカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（P.107）。

プリセットマニュアルデータは、d-0～d-4の5つの場所に保存できます。また、各プリセットマニュアルデータにはコメントを添付できます（P.109）。

d-0

カメラで新規取得（P.103）したプリセットマニュアルデータを保存します。新規取得するごとに新しいプリセットマニュアルデータに上書きされます。

d-1～d-4

プリセットマニュアルデータとして保存します。

- d-0に保存されているプリセットマニュアルデータのコピー（P.106）

- メモリーカードにある画像のホワイトバランスをコピー（P.107）

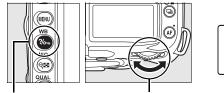
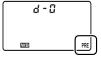
▮プリセットマニュアルデータの新規取得

プリセットマニュアルデータは次の方法で新規取得します。

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、白またはグレー（無彩色）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 白またはグレーの被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードが**M**の場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（P.86）。

1　撮影時に使う照明と、白またはグレーの被写体を用意する

2　液晶モニターの消灯時に、?/⊶（WB）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルのホワイトバランス表示を PRE に合わせる

?/⊶（**WB**）ボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

3　プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん ?/⊶（**WB**）ボタンから指を放し、再度 ?/⊶（**WB**）ボタンを押し続けると、プリセット取得モードになり、表示パネルにPrEの文字と**PRE**が、ファインダー内表示にPrEの文字が、それぞれ約6秒間（初期設定）点滅します。
- プリセット取得をやめるには、もう一度?/⊶（**WB**）ボタンを押してください。

表示パネル

ファインダー内表示

4 PrEの点滅中に、撮影時に使う照明の下で、用意した白またはグレー（無彩色）の被写体をファインダーいっぱいにとらえて、シャッターボタンを押す

- プリセットマニュアルデータが取得され、d-0に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットデータは正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。

5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- データが取得されると、シャッタースピード表示部にGoodの文字が、ファインダー内表示のシャッタースピード表示部にGdの文字が、それぞれ約6秒間（初期設定）点滅し、プリセットマニュアル取得モードを終了します。
- 約6秒間点滅後、撮影できる状態に戻ります。点滅中にシャッターボタンを半押しすれば、すぐに撮影できます。
- 表示パネルとファインダー内表示のシャッタースピード表示部/絞り値表示部および表示パネルにno Gdの文字が、それぞれ約6秒間（初期設定）点滅表示された場合、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎることが考えられます。シャッターボタンを半押しすると点滅表示が消え、手順4の状態に戻ります。

6 新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用する

- 新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用するには、?/On（**WB**）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回してd-0を選択します。

データ取得についてのご注意

- ホワイトバランスを厳密に合わせたいときは、市販のホワイトバランス取得用の18%標準反射板を使ってプリセットデータを取得してください。
- 適正露出で撮影してください。

プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニューc2［**半押しタイマー**］（P.185）で設定した時間（初期設定では6秒）が過ぎると解除されます。

プリセットマニュアルデータについて

- 新規に取得したプリセットマニュアルデータは常にd-0に保存され、以前のプリセット値は警告なしに上書きされます。他のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-4）を選択している場合、そのままでは新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用できません。新規に取得したプリセットマニュアルデータを使用するには、プリセットマニュアルデータとしてd-0を選択してください。
- 取得したプリセットマニュアルデータは、d-1～d-4にコピーできます（P.106）。
- ご購入時のプリセットマニュアルデータd-0～d-4は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 取得したプリセットマニュアルデータは、プリセットマニュアルデータの保存場所一覧画面で、右のような撮影画像のサムネイルで表示されます。

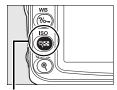
■ 新規取得したプリセットマニュアルデータ（d-0）をコピーする

d-0で取得したプリセットマニュアルデータを、選択したプリセットマニュアルデータの保存場所にコピーできます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1～d-4の中からコピー先を選びます。
- 🔍ボタンを押すと設定画面が表示されます。

🔍ボタン

3 ［d-0をコピー］を選ぶ

- ［**d-0をコピー**］を選んで、OKボタンを押します。
- d-0のプリセットマニュアルデータにコメント（P.109）がある場合、コメントもコピーされます。

✎ 設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセレクターの▲を押してプリセットマニュアルデータ（d-0～d-4）を選び、▶を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。

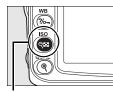
■撮影済み画像のホワイトバランスデータをd-1～d-4へコピーする

選択したプリセットマニュアルデータの保存場所に、SDカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1～d-4の中からコピー先を選びます。
- を押すと設定画面が表示されます。
- d-0には、撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーすることはできません。

ボタン

3 ［使用する画像の選択］を選ぶ

- ［**使用する画像の選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、SDカード内の画像が一覧表示されます。

4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 選択した画像は、ボタンを押している間、拡大して確認できます。

5 ホワイトバランスデータをコピーする

- Ⓞを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選択した画像に画像コメント（P.214）がある場合、画像コメントもコピーされます。

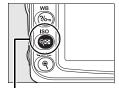
プリセットマニュアルデータを設定する

選択したプリセットマニュアルデータを撮影で使用するホワイトバランスに設定します。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

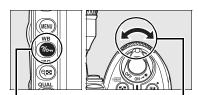
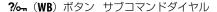
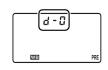
- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- ボタンを押すと設定画面が表示されます。
- ボタンを押す代わりに㊉ボタンを押すと、選択されているプリセットマニュアルデータがそのまま設定されて、微調整の画面が表示されます（P.99）。

ボタン

3 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選んで▶を押すと、微調整の画面が表示されます（P.99）。必要に応じて微調整を行い、㊉ボタンを押して設定します。

プリセットマニュアルデータの選択について

ホワイトバランスを**PRE**（プリセットマニュアル）に設定している場合は、?/⊶（**WB**）ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回してプリセットマニュアルデータを選択できます。?/⊶（**WB**）ボタンを押している間、選択中のプリセットマニュアルデータ番号が表示パネルに表示されます。

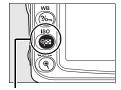
?/⊶（**WB**）ボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

選択したプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力します。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- ボタン押すと設定画面が表示されます。

ボタン

3 ［コメント編集］を選ぶ

- ［**コメント編集**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

4 コメントを入力する

- 最大36文字入力できます。コメントの入力方法は、［**画像コメント**］をご覧ください（P.214）。

画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、対応するカメラまたはソフトウェアで調整した画像調整の設定を相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

カメラに搭載されたピクチャーコントロールからお好みのメニューを選ぶだけで、撮影する画像の仕上がりを簡単に設定できます。さらに、明るさやコントラストを簡単に調整したり、5つの要素（輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ（彩度）、色合い（色相））を細かく調整することもできます。また、ピクチャーコントロールを搭載するカメラであれば、「ピクチャーコントロール」の設定を同じにすることで、どのカメラでもほぼ同じ仕上がりの画像を撮影することができるようになります。

好みに合わせて調整したピクチャーコントロールは、「カスタムピクチャーコントロール」としてカメラに登録できます。「カスタムピクチャーコントロール」は、任意に名前を付けたり、後から編集することも可能です。また、カメラに登録した「カスタムピクチャーコントロール」をSDカードに保存して対応ソフトウェアで活用したり、ソフトウェアで作成した「カスタムピクチャーコントロール」をカメラに登録することもできます。

「ピクチャーコントロール」を使うことで、画像調整の設定を対応カメラとソフトウェアで相互利用でき、写真表現がさらに広がります。

ピクチャーコントロールを活用する

このカメラでピクチャーコントロールを活用するには、次のような方法があります。

- **ニコンピクチャーコントロールを選択する** P.112

  カメラに搭載されているニコンピクチャーコントロールを選びます。

- **ピクチャーコントロールを調整する** P.113

  ピクチャーコントロールは好みや撮影目的に合わせて、コントラストや明るさ、色の濃さ（彩度）などを調整できます。

- **カスタムピクチャーコントロールを登録する** P.116

  カメラに搭載されたニコンピクチャーコントロールを元にして、新たにピクチャーコントロールを登録したり、編集したりできます。

- **SDカードを使って、ピクチャーコントロールを対応ソフトウェアと共用する** P.118

  付属のViewNXなどの対応ソフトウェアで使えるように、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをSDカードに保存できます。また、対応ソフトウェアで作成したカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録することもできます。

- **ピクチャーコントロールを管理する** P.120

  カスタムピクチャーコントロールの名前を変更したり、削除することができます。

ニコンピクチャーコントロールとカスタムピクチャーコントロールについて

ニコンが提供するピクチャーコントロールを総称して「ニコンピクチャーコントロール」といいます。「ニコンピクチャーコントロール」には、カメラにあらかじめ搭載されているピクチャーコントロールとニコンのホームページからダウンロードできる「オプションピクチャーコントロール」があります。この「ニコンピクチャーコントロール」を元に、使用する方がお好みで調整してカスタム登録したものを「カスタムピクチャーコントロール」といいます。「ニコンピクチャーコントロール」および「カスタムピクチャーコントロール」は、対応カメラとソフトウェアで相互に利用することができます。

ニコンピクチャーコントロールを選択する

ピクチャーコントロールには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる6種類の「ニコンピクチャーコントロール」が搭載されています。

SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 • ほとんどの撮影状況に適しています。
NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 • 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 • 青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。
MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。

1 撮影メニューの［ピクチャーコントロール］を選ぶ

- ［**ピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、ピクチャーコントロールの一覧画面が表示されます。

2 ピクチャーコントロールを選ぶ

- 一覧画面から設定したいピクチャーコントロールを選びます。
- ⓞボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールのグリッド表示

- ピクチャーコントロールの一覧画面で ボタンを押すと、一覧表示からグリッド表示に切り替わります。グリッド表示では、現在選択しているピクチャーコントロールのコントラスト（Contrast）と彩度（Saturation）が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。
- マルチセレクターの▲または▼で他のピクチャーコントロールに切り換えられます。▶を押すと調整画面（P.113）が表示され、ⓞボタンを押すと設定できます。
- ［**モノクローム**］のグリッド表示は、コントラストの縦軸のみ表示されます。

撮影中のピクチャーコントロールの確認について

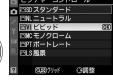
使用しているピクチャーコントロールは、Infoボタンを押すと、表示される情報画面で確認できます。

ピクチャーコントロールアイコン

ピクチャーコントロールを調整する

ニコンピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールの設定は、好みや撮影目的に合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

1 ピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面（P.112）で、マルチセレクターの▶を押します。

2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目（P.114）を選んで、◀または▶で値を設定します。
- ［**クイック調整**］を選ぶと、各項目のレベルを自動的に調整します（P.114）。
- 🗑ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

3 設定する

- ㊝ボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンと項目名の末尾にアスタリスク（*）が表示されます。

レベル調整の設定項目

<table>
<tr><td colspan="2">クイック調整※1</td><td>輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。［－2］～［＋2］まで5段階の調整ができます。
• －側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、＋側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。たとえば［ビビッド］を選んで＋側にクイック調整すると、色の鮮やかさを強調します。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">手動調整</td><td>輪郭強調</td><td>輪郭の強弱を調整します。［0］（輪郭強調しない）～［9］まで10段階の調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。
• 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。</td></tr>
<tr><td>コントラスト※2</td><td>画像のコントラストを調整します。［－3］～［＋3］まで7段階の調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。
• －側にすると軟調な画像になり、＋側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは－側が、霞んだ遠景の撮影などには＋側が適しています。</td></tr>
<tr><td>明るさ※2</td><td>白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。［－1］～［＋1］まで3段階の調整ができます。
• －側にすると暗くなり、＋側にすると明るくなります。</td></tr>
<tr><td>色の濃さ（彩度）※3</td><td>画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整します。［－3］～［＋3］まで7段階の調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。
• －側にすると鮮やかさが抑えられ、＋側にするとより鮮やかになります。</td></tr>
<tr><td>色合い（色相）※3</td><td>画像の色合いを調整します。［－3］～［＋3］まで7段階の調整ができます。
• 肌色を基準にした場合、＋側にすると黄色みが増し、－側にすると赤みが増します。</td></tr>
<tr><td>フィルター効果※4</td><td>白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［OFF］（初期設定）、［Y］、［O］、［R］、［G］から選べます（P.115）。</td></tr>
<tr><td>調色※4</td><td>印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は［B&W］（初期設定）、［Sepia］、［Cyanotype］、［Red］、［Yellow］、［Green］、［Blue Green］、［Blue］、［Purple Blue］、［Red Purple］から選べます（P.115）。</td></tr>
</table>

※1［**ニュートラル**］と［**モノクローム**］はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（P.116）の場合も、クイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

※2［**アクティブD-ライティング**］（P.122）を設定している場合、調整できません。手動調整した後に［**アクティブD-ライティング**］を設定すると、手動調整で設定した値は無効になります。

※3［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示されません。

※4［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示されます。

☑ ［コントラスト］、［色の濃さ（彩度）］の［A］（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。
- ［**コントラスト**］または［**色の濃さ（彩度）**］に［**A**］（オート）が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時はアイコンが緑色で表示されます。また、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。

ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

ピクチャーコントロール調整中に⊕ボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。ボタンを放すと、調整画面に戻ります。

ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。

［モノクローム］の［フィルター効果］について

［**フィルター効果**］には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
O（オレンジ※）	
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。［**フィルター効果**］で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

［モノクローム］の［調色］について

［**調色**］の項目（［**B&W**］以外）を選んでマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀または▶を押して選んでください。

カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ニコンピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 撮影メニューの［カスタムピクチャーコントロール］を選ぶ

- ［**カスタムピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［カスタムピクチャーコントロール］画面が表示されます。

2 ［編集と登録］を選ぶ

- ［**編集と登録**］を選んで▶を押すと、［編集・登録対象を選択］画面が表示されます。

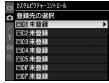
3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合はⓀボタンを押します。［登録先の選択］画面が表示されます（手順5へ）。

4 ピクチャーコントロールを調整する

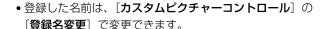
- 項目の内容や調整方法は［**ピクチャーコントロール**］と同じです。
- Ⓚボタンを押すと［登録先の選択］画面が表示されます。
- 🗑ボタンを押すと調整前の内容に戻ります。

5 登録先を選択する

- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選んで▶を押すと、［登録名変更］画面が表示されます。

6 名前を入力する

キーボードエリア
名前エリア

- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名) -XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 19文字まで入力できます。
  文字はカーソル位置に挿入されます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの🔍ボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、🔍ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押します。
- 名前を1文字削除する場合は、🔍ボタンを押しながらマルチセレクターを操作して削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑ボタンを押します。
- 名前を入力したらⓄⓚボタンを押します。
- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

- 登録した名前は、[**カスタムピクチャーコントロール**]の[**登録名変更**]で変更できます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったニコンピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ニコンピクチャー
コントロール

カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

SDカードを使ってピクチャーコントロールを対応ソフトウェアと共用する

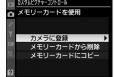
付属のViewNXや別売のCapture NX 2のピクチャーコントロールユーティリティ（Picture Control Utility）で作成したカスタムピクチャーコントロールを、SDカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーすることができます。

■SDカードにあるピクチャーコントロールをカメラに登録する

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［メモリーカードを使用］を選ぶ

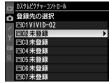
- ［**メモリーカードを使用**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［メモリーカードを使用］画面が表示されます。

2 ［カメラに登録］を選ぶ

- ［**カメラに登録**］を選んで▶を押すと、［カメラに登録］画面が表示されます。

3 カメラに登録するピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、設定内容を確認できます。
- ㉷ボタンを押すと、［登録先の選択］画面が表示されます。

4 登録先を選択する

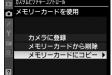
- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選んで▶を押すと、［登録名変更］画面が表示されます。

5 名前を入力する

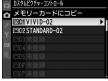
- 入力できる文字数は最大19文字です。名前の入力方法については、P.117をご覧ください。
- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

- 登録した名前は、［**カスタムピクチャーコントロール**］の［**登録名変更**］で変更できます。

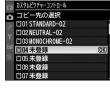
カメラにあるピクチャーコントロールをSDカードにコピーする

1 ［メモリーカードを使用］画面で［メモリーカードにコピー］を選ぶ

- ［**メモリーカードにコピー**］を選んで▶を押すと、［メモリーカードにコピー］画面が表示されます。

2 SDカードにコピーするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、［コピー先の選択］画面が表示されます。

3 コピー先を選択する

- 1〜99の中からコピー先を選んでⓀボタンを押すと、SDカードに登録されます。
- 選択したコピー先番号がすでに登録されている場合は、新しいピクチャーコントロールに上書きします。

SDカードへのコピーについて

- カメラに搭載されているニコンピクチャーコントロールは、コピーできません。
- SDカードに保存できるピクチャーコントロールは、99個までです。

ピクチャーコントロールを管理する

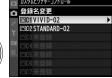
カメラに登録したピクチャーコントロールの名前を変更したり、削除することができます。

ピクチャーコントロールの名前を変更する

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［登録名変更］を選ぶ

- ［**登録名変更**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、ピクチャーコントロール選択画面が表示されます。

2 名前を変更するピクチャーコントロールを選ぶ

- C-1～9（カスタム1～9）の中から名前を変更するピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、［登録名変更］画面が表示されます。

3 名前を入力する

- 入力できる文字数は最大19文字です。名前の入力方法については、P.117をご覧ください。

ピクチャーコントロールを削除する

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［削除］を選ぶ

- ［**削除**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、ピクチャーコントロール選択画面が表示されます。

2 削除するピクチャーコントロールを選ぶ

- C-1～9（カスタム1～9）の中から削除するピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、［削除］画面が表示されます。

3 ［はい］を選ぶ

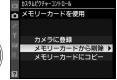
- ［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、ピクチャーコントロールを削除します。

SDカードにあるピクチャーコントロールを削除する

1 [カスタムピクチャーコントロール] 画面で[メモリーカードを使用] を選ぶ

- [**メモリーカードを使用**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[メモリーカードを使用] 画面が表示されます。

2 [メモリーカードから削除] を選ぶ

- [**メモリーカードから削除**] を選んで▶を押すと、ピクチャーコントロール選択画面が表示されます。

3 削除するピクチャーコントロールを選ぶ

- 1～99の中から削除するピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、設定内容を確認できます。

- Ⓞボタンを押すと、[メモリーカードから削除] 画面が表示されます。

4 [はい] を選ぶ

- [**はい**] を選んでⓄボタンを押すと、ピクチャーコントロールを削除します。

ニコンピクチャーコントロールの登録名変更と削除について

ニコンピクチャーコントロール（スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景）は、登録名変更や削除ができません。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブD-ライティング）

撮影の前にあらかじめ［**アクティブD-ライティング**］を設定しておくと、ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。

- アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードを ⊡（マルチパターン測光）に設定して撮影することをおすすめします（P.89）。

1 撮影メニューの［アクティブD-ライティング］を選ぶ

- ［**アクティブD-ライティング**］を選んで、▶を押します。

2 効果の度合いを選ぶ

- 効果の度合いを選び、㊙ボタンを押します。
- ［**オート**］、［**より強め**］、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］、［**しない**］に設定できます。
- ［**オート**］に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

アクティブD-ライティングについてのご注意

- ［**ピクチャーコントロール**］（P.114）の［**コントラスト**］と［**明るさ**］のレベル調整は選択できません。
- アクティブD-ライティングを設定して高感度で撮影をするとき、撮影シーンによっては、ざらつき、すじ、むらが強調される場合があります。
- 撮影モードが **M**のときは、［**オート**］に設定していても［**標準**］相当の度合いに固定されます。

撮影メニュー［アクティブD-ライティング］と画像編集メニュー［D-ライティング］の違い

［**アクティブD-ライティング**］を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、［**D-ライティング**］は、すでに撮影済みの画像に対して、階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

アクティブD-ライティングを変えながら撮影するには

カスタムメニュー e4［**オートブラケティングのセット**］（P.199）を［**ADLブラケティング**］に設定すると、アクティブD-ライティングを設定していない画像と設定した画像を続けて撮影することができます。詳しくは「ADLブラケティングの撮影方法」（P.202）をご覧ください。

1つの画像に重ねて写し込む（多重露出撮影）

多重露出撮影は2コマまたは3コマを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。多重露出は全ての画質モードで撮影できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

多重露出の撮影方法

多重露出撮影中に、何も操作しないで30秒経過すると、カメラが待機状態に入り、撮影は中断して、撮影した画像を記録します。

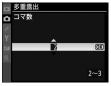
1 撮影メニューの［多重露出］を選ぶ

- ［**多重露出**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

2 ［コマ数］を選ぶ

- ［**コマ数**］を選んで、▶を押します。

3 露光回数（2コマまたは3コマ）を設定する

- ▲または▼を押して露光回数を設定し、㊊ボタンを押します。

4 ［自動ゲイン補正］を選ぶ

- ［**自動ゲイン補正**］を選んで、▶を押します。

撮影間隔が長くなる場合について

撮影間隔が長くなる場合は、再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（P.168）を［**する**］に設定して、カスタムメニューc4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］の［**撮影直後の画像確認**］（P.186）を長めに設定することをおすすめします。カメラが待機状態に入るまでの時間が、c4で設定した時間に30秒を加えたものに延長されます。

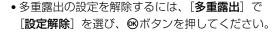
5 自動ゲイン補正を設定する

- 自動ゲイン補正の設定後、Ⓞボタンを押します。

する （初期設定）	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。ただし、背景が暗いときは［**しない**］にすることをおすすめします。 • 各コマのゲインは、「1 ÷露光回数」となります。露光回数が「2 コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

6 ［設定終了］を選ぶ

- 設定が終了したら、［**設定終了**］を選んで、Ⓞボタンを押します。
- 多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに▣マークが点灯します。

- 多重露出の設定を解除するには、［**多重露出**］で［**設定解除**］を選び、Ⓞボタンを押してください。

7 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、▣マークが点滅します。

8 2回目以降の撮影をする

- 設定した回数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、▣マークが消灯します。

多重露出撮影を中断するには

多重露出撮影中に、撮影メニューの［**多重露出**］を選ぶと、右の画面が表示されます。この画面で［**中断**］を選んで㊗ボタンを押すと、多重露出撮影は途中で終了し、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（［**自動ゲイン補正**］を［**する**］にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。多重露出撮影の設定も解除されるので、もう一度多重露出撮影を行うには、［**多重露出**］の設定を最初からやり直してください。

このほか、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット（P.78）を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき

多重露出撮影時のご注意

- ライブビュー撮影中は、多重露出撮影はできません。
- 多重露出による撮影中は、SDカードを交換しないでください。
- レリーズモード（P.64）を⧉Lまたは⧉Hに設定して撮影する場合は、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数が終了した時点で画像が記録され、多重露出が解除されます。
- 多重露出の撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、1コマ目の内容になります。

多重露出撮影時に利用できない機能について

多重露出撮影中は、次の機能を利用することができません。

- ［**ホワイトバランス**］を除いた撮影メニュー全項目
- オートブラケティング
- SDカードの初期化
- クリーニングミラーアップ
- イメージダストオフデータ取得

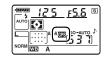
GPS情報を画像に記録する

このカメラは、アクセサリーターミナル（P.4）に接続した別売のGPSユニットGP-1と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。

▌GP-1機器との接続について

- カメラの電源をOFFにしてから、GP-1に付属のケーブルをアクセサリーターミナルに接続します。詳しくはGP-1の使用説明書をご覧ください。

▌GP-1との通信について

- GP-1との通信が開始されると、表示パネルにGPS通信マークGPSが表示されます。この状態で撮影すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTCが記録されます。

- GP-1との通信が2秒以上途絶えると、表示パネルからGPS通信マークGPSが消灯します。この状態で撮影した画像データにはGPSデータは記録されません。
- GP-1と通信して撮影した画像には、再生時の画像情報に GPS データのページ（P.135）が追加されます。

GPSを使用した撮影について

GP-1と接続していても、GPS通信マークGPSが点灯するまでGPSデータは記録されません。撮影時に表示パネルのGPS通信マークGPSが点灯していることを確認してください。

- GP-1を接続した直後など、GPS通信マークGPSが点滅する場合は、GP-1が取得している情報が確定していないため、GPSデータは記録されません。GPS通信マークGPSが点灯するまでお待ちください。

GP-1と接続中の半押しタイマーの設定や情報表示について

セットアップメニューの［**GPS**］で、GP-1と接続中の半押しタイマーの設定や、取得したGPS情報を表示できます。

- ［**半押しタイマー**］では、カメラとGP-1を接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効（初期設定）	カメラを操作していないときは、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］で設定された時間でオフになります。カメラの電池の消耗を少なくすることはできますが、半押ししている時間が短いと、GPSデータを記録できないことがあります。
無効	GP-1と接続中は、半押しタイマーがオフになりません。 いつ撮影してもGPSデータを記録できます。

- ［**情報表示**］では、GP-1接続時に取得した情報を表示します。

緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
UTC	UTC（協定世界時）を表示

UTCについて

UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

画像の再生

ここでは、撮影した画像を再生する方法や再生中の操作について説明します。

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）................. P.130
1コマ表示モードでの操作方法 P.130
画像情報を表示する.. P.131
複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）........ P.137
サムネイル表示モードでの操作方法... P.137
撮影した日付ごとに画像を表示する
（カレンダー表示モード）... P.138
カレンダー表示モードでの操作方法... P.139
画像を拡大表示する.. P.140
拡大表示中の操作方法 P.140
画像を保護する（プロテクト）... P.141
画像を削除する.. P.142
画像効果やBGMにのせて画像を再生する（Pictmotion）... P.143
スライドショーで再生する P.146

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

1コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る	◀ OK ▶	◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の表示	▲ OK ▼	表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（P.131）。
複数画像を一覧表示する	サムネイルボタン	サムネイル表示モード（P.137）に切り替わります。
画像を拡大する	拡大ボタン	表示中の画像を拡大表示します（P.140）。
画像を削除する	削除ボタン	表示中の画像を削除します（P.142）。
画像を保護する	?/On	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.141）。
撮影に戻る	シャッターボタン半押し / ▶	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（P.164）。
画像編集メニューを表示する	OK	表示中の画像について、画像編集メニュー（P.220）が表示されます。
動画を再生する	OK	動画マークが表示されている画像の場合、動画を再生します（P.52）。

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（P.168）を［**する**］に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。

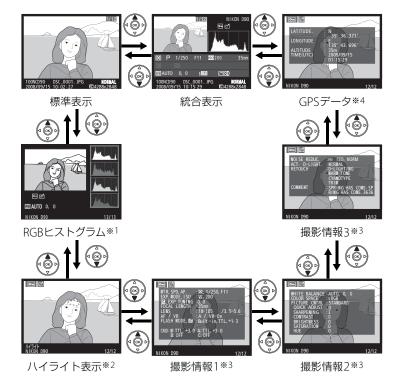
撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（P.168）を［**する**］に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に約4秒間（初期設定）液晶モニターに表示します。

関連ページ

液晶モニターの点灯時間を変更する → c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（P.186）

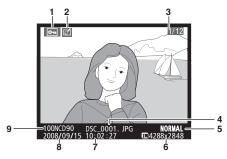
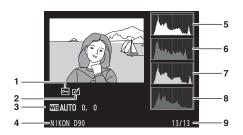
画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、マルチセレクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わり、画像についての詳しい情報を見ることができます。

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.167）で［**RGBヒストグラム**］を設定している場合のみ表示します。

※2 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.167）で［**ハイライト**］を設定している場合のみ表示します。

※3 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.167）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

※4 GPS（P.127）を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

標準表示

1	プロテクト設定の有無...141	4	ファイル名........................61	7	撮影時刻............................27
2	画像編集の有無..............220	5	画質モード........................62	8	撮影日付............................27
3	コマ番号/フォルダー内全画像数	6	画像サイズ........................63	9	フォルダー名................. 174

RGBヒストグラム※

1	プロテクト設定の有無... 141	4	カメラ名	7	緑色（G）のヒストグラム
2	画像編集の有無.............. 220	5	RGBのヒストグラム	8	青色（B）のヒストグラム
3	ホワイトバランス.............97 ホワイトバランスの微調整値..99	6	赤色（R）のヒストグラム	9	コマ番号/フォルダー内全画像数

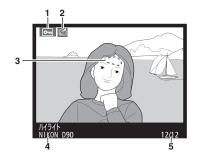
※再生メニューの［**再生画面設定**］（P.167）で［**RGBヒストグラム**］を設定している場合のみ表示します。

拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示でボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、通常の拡大表示（P.140）と同じように操作することができます。

D90のヒストグラム表示について

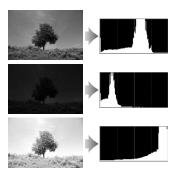
D90のヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてご使用ください。

ハイライト表示※

1	プロテクト設定の有無...141	3	画像のハイライト部分が点滅表示されます。	5	コマ番号/フォルダー内全画像数
2	画像編集の有無..............220	4	カメラ名		

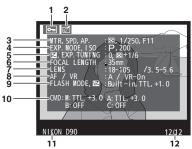
※ハイライトとは、画像の中の非常に明るい部分です。露出補正などで画像の明るさを調整する際に、点滅しているハイライト部分を目安にしてください。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。

露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。

屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

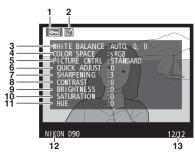
撮影情報1※1

1	プロテクト設定の有無...141	**5**	露出補正値.........................92	**9**	フラッシュモード.............73
2	画像編集の有無...............220		基準露出レベルの調節値※3 184		調光補正値.........................93
3	測光モード........................89	**6**	焦点距離......................... 242	**10**	コマンダーモード/主灯（補助灯グループ名）、発光モード、調光補正量..196
	シャッタースピード...83、85	**7**	レンズ情報	**11**	カメラ名
	絞り値....................... 84、85	**8**	フォーカスモード.... 54、59	**12**	コマ番号/フォルダー内全画像数
4	撮影モード............... 41、80		レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF※4 26		
	ISO感度※2 76				

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.167）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

※2 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※3 カスタムメニューb4［**基準露出レベルの調節**］（P.184）を0以外に設定している場合のみ表示します。

※4 VRレンズ装着時のみ表示します。

撮影情報2※1

1	プロテクト設定の有無...141	**5**	ピクチャーコントロール....110	**10**	色の濃さ（彩度）※4 114
2	画像編集の有無...............220	**6**	クイック調整※2 114		フィルター効果※5 114
3	ホワイトバランス.............97		元になったピクチャーコントロール※3 117	**11**	色合い（色相）※4 114
	ホワイトバランス色温度.... 101	**7**	輪郭強調......................... 114		調色※5 114
	ホワイトバランス微調整....99	**8**	コントラスト................. 114	**12**	カメラ名
	プリセットマニュアル....102	**9**	明るさ............................ 114	**13**	コマ番号/フォルダー内全画像数
4	色空間.............................172				

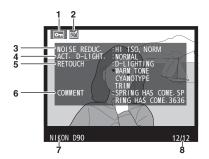
※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（P.167）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

※2 ［**スタンダード**］、［**ビビッド**］、［**ポートレート**］、［**風景**］のとき表示します。

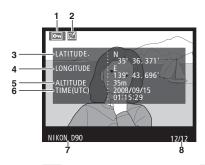
※3 ［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］、カスタムピクチャーコントロールのとき表示します。

※4 ［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示しません。

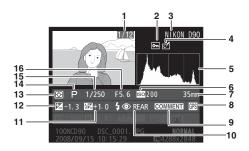
※5 ［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示します。

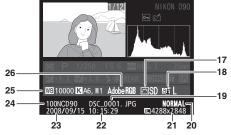
■撮影情報3※

1	プロテクト設定の有無…141
2	画像編集の有無……………220
3	高感度ノイズ低減…………173 長秒時ノイズ低減…………173
4	アクティブD-ライティング………………………………122
5	画像編集メニュー（P.220）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。 複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
6	画像コメント……………… 214
7	カメラ名
8	コマ番号/フォルダー内全画像数

※再生メニューの［**再生画面設定**］(P.167)で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

■GPSデータ※1

1	プロテクト設定の有無…141
2	画像編集の有無……………220
3	緯度
4	経度
5	標高
6	UTC（協定世界時）
7	カメラ名
8	コマ番号/フォルダー内全画像数

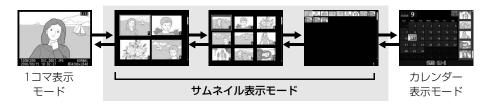
※1 GPS（P.127）を使用して撮影した画像に対して表示します。

統合表示

1	コマ番号/フォルダー内全画像数
2	プロテクト設定の有無...141
3	カメラ名
4	画像編集の有無...............220
5	画像のヒストグラムを表示します。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を表します。
6	ISO感度※...................................76
7	焦点距離 242
8	GPSデータの有無 127
9	画像コメントの有無 214
10	フラッシュモード.............73
11	調光補正値.........................93
12	露出補正値.........................92
13	測光モード.........................89
14	撮影モード................41、80
15	シャッタースピード ....83、85
16	絞り値 ....84、85

※ 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

17	ピクチャーコントロール 110
18	アクティブD-ライティングの強度 122
19	ファイル名 61
20	画質モード.........................62
21	画像サイズ.........................63
22	撮影時刻 27
23	撮影日付 27
24	フォルダー名................. 174
25	ホワイトバランス ....97 ホワイトバランス色温度.....101 ホワイトバランス微調整 ... 99 プリセットマニュアル.... 102
26	色空間 172

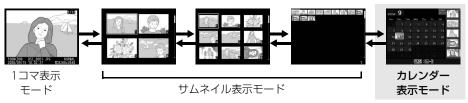
複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）

1コマ表示モードのときに⊖▦ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。⊖▦ボタンを押すたびにサムネイル画像が小さくなり、⊕ボタンを押すたびに大きくなります。

1コマ表示モード　サムネイル表示モード　カレンダー表示モード

サムネイル表示モードでの操作方法

表示コマ数を増やす	⊖▦	1コマ表示時にボタンを押すと4 コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと9コマ表示に、9コマ表示時にボタンを押すと72コマ表示に切り替わります。
表示コマ数を減らす	⊕	72コマ表示時にボタンを押すと9 コマ表示に、9コマ表示時にボタンを押すと4 コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと1コマ表示に切り替わります。
1コマ表示に戻す	OK	サムネイル表示モードを終了して、1コマ表示モードに戻ります。
画像を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターを操作すると、黄色の枠（カーソル）が動いて、拡大表示（P.140）や削除（P.142）、プロテクトの対象となる画像を選べます。 マルチセレクターの▲▼の代わりにサブコマンドダイヤルを、◀▶の代わりにメインコマンドダイヤルを使うこともできます。
画像を削除する	🗑	選んだ画像を削除します（P.142）。
画像を保護する	?/O-π	選んだ画像にプロテクト（保護）を設定します（P.141）。
撮影に戻る	シャッターボタン / ▶	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（P.164）。

撮影した日付ごとに画像を表示する
（カレンダー表示モード）

72コマ表示時（P.137）に Q⊞ ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。カレンダー表示モードは、選択している画像の撮影日付を表示します。

カレンダー表示時は、マルチセレクターで黄色の枠（カーソル）を動かして、表示したい画像のある日付を選びます。Q⊞ ボタンを押すと 黄色の枠は右側の撮影日サムネイル表示へ移動して、その日に撮影した画像が選べるようになります。

カレンダー表示モードでの操作方法

表示を切り換える		• カレンダー表示時にボタンを押すと 、黄色の枠（カーソル）で選んでいる日付の画像が選べる「撮影日サムネイル表示」に移行します。 • 撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、カレンダー表示に移行します。
表示コマ数を減らす/画像を拡大する		• カレンダー表示時は72コマ表示に切り替わります。 • 撮影日サムネイル表示時は拡大表示をします。
1コマ表示する	OK	• カレンダー表示時に選択した日付に撮影した画像がある場合は、その日付の最初の画像を1コマ表示します。 • 撮影日サムネイル表示時は、選択した画像を1コマ表示します。
日付を選ぶ/画像を選ぶ	OK	• カレンダー表示時は、マルチセレクターを操作すると黄色の枠（カーソル）が動いて、撮影した日付を選べます。 • 撮影日サムネイル表示時は、マルチセレクターの▲▼を押して1 コマ表示（P.130）や拡大表示（P.140）、プロテクト（P.141）、削除（P.142）の対象となる画像を選べます。
画像を削除する		• カレンダー表示時にボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。 • 撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別に削除します（P.142）。
画像を保護する	?/	撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別にプロテクトします（P.141）。
撮影に戻る	/	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（P.164）。

画像を拡大表示する

画像の再生中に🔍ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズがLの場合は約27倍、Mでは約20倍、Sでは約13倍です。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大10人までの顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して瞬時に移動することができます。

拡大表示中の操作方法

操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	🔍	ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えます。
拡大率を下げる		ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる	OK	画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
人物の顔へ移動させる		拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。その状態でサブコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率で白枠の位置へ瞬時に移動します。	
1コマ表示する	OK	拡大表示を終了して、1コマ表示モードに戻ります。	
前後の画像を見る		メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像を表示します。	
画像を保護する	?/O-n	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.141）。	
撮影に戻る	/ ▶	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。	
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（P.164）。	

画像を保護する（プロテクト）

大切な画像を誤って削除してしまうことを防ぐために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット：P.30、211）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

【1コマ表示モード/拡大表示のとき】
プロテクトする画像を表示します。

【サムネイル表示モードのとき】
プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 ?/⊶ボタンを押す

- ⊶アイコン が表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、?/⊶ボタンを押します。

プロテクトの一括解除について

?/⊶ボタンと🗑ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトを設定した画像は削除できません。

1 削除する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードのときは、削除する画像を選択します。

2 🗑ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。

1コマ表示モード

サムネイル表示モード

- 再度🗑ボタンを押すと、表示中の画像が削除されます。

- ▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。

関連ページ

- 複数の画像をまとめて削除する → ▶［**削除**］（P.166）
- 選んだ日付の画像を全て削除する →「カレンダー表示モード」（P.139）

画像効果やBGMにのせて画像を再生する（Pictmotion）

撮影した画像をつなげ、お好みの「スタイル」（画像効果）やBGMにのせて再生する「Pictmotion（ピクトモーション）」を楽しむことができます。

開始	Pictmotionを開始します。
再生画像選択	再生する画像を選択します。
BGM（P.144）	BGMを選択します。
画像効果（P.144）	画像効果を選択します。

再生する画像や、BGM、画像効果を選択する

Pictmotionを楽しむには、まず再生する画像を選びます。

1 再生メニューの［Pictmotion］を選ぶ

2 ［再生画像選択］を選ぶ

画像を選択します。

選択画像	再生する画像を選びます。
DATE 日付選択	プレビュー付きのカレンダー表示から日付を選択し、その日付の画像を全て選択します。
ALL 全画像	全ての画像を選択します。

- 選ぶことができるのは、再生メニュー「再生フォルダー設定」（P.166）で設定したフォルダー内の画像だけです。また、D90で表示できない画像や、非表示設定（P.167）を行った画像を選ぶことはできません。

Pictmotionについてのご注意

- 動画を含んだPictmotionを再生することもできますが、動画の再生は最初の数秒間になります。
- 画像サイズによっては、［**画像効果**］は機能しません。

3 ［BGM］と［画像効果］を選ぶ

お好みに応じて［**BGM**］と［**画像効果**］を選べます。
［**BGM**］と［**画像効果**］を選ばないで再生する場合は、「Pictmotionを再生する」をご覧ください。

BGM：

［Pictmotion］画面から［**BGM**］を選択します。▲または▼を押してBGMを選択し、Ⓚボタンを押します。

♪1ハイスピード	♪3ナチュラル	♪5リラックス
♪2エモーショナル	♪4アップテンポ	

画像効果：

［Pictmotion］画面から［**画像効果**］を選択します。▲または▼を押して画像効果を選択し、Ⓚボタンを押します。

1バウンド	3ブレンド	5フェード
2ズーム	4ワイプ	

▌Pictmotionを再生する

［**開始**］を選んでⓀボタンを押すと、Pictmotionが始まります。Pictmotion再生中は、以下の操作が可能です。

一時停止	OK	Pictmotionが一時停止し、右のような画面が表示されます。再開するには、「再開」を選んでⓀボタンを押します。「終了」を選んでⓀボタンを押すと、再生メニューに戻ります。
音量を大きくする	🔍+	ボタンを押すごとに音量が大きくなります。
音量を小さくする	🔍−	ボタンを押すごとに音量が小さくなります。
再生メニューに戻る	MENU	Pictmotionを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	Pictmotionを中止して、1コマ表示モード（P.130）またはサムネイル表示モード（P.137）に戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

スライドショーで再生する

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。［**再生フォルダー設定**］（P.166）で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、［**非表示設定**］（P.167）されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	1コマの画像を表示する時間を設定します。

スライドショーを再生する

［開始］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。

1コマ進む/戻る	◀ OK ▶	◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の切り換え	▲ OK ▼	画像情報の切り換えができます（P.131）。
一時停止	OK	スライドショーが一時停止します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	スライドショーを中止して、1コマ表示モード（P.130）またはサムネイル表示モード（P.137）に戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタン	シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。［**再開**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが再開します。［**終了**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが終了します。

Ⓚボタンを押して一時停止したときも同様にスライドショーを再開できます。この場合、一時停止時に表示していた次の画像から再開します。

テレビ、パソコン、プリンターとの接続

ここでは、D90で撮影した画像をパソコンに転送したり、プリンターでプリントしたり、テレビで再生する方法について説明します。

画像をテレビで見る P.148

AVケーブルを使ってテレビと接続する P.148

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する P.149

画像をパソコンに転送する P.150

USB接続でパソコンに画像を転送する P.151

画像をプリンターで印刷する P.152

カメラとプリンターを直接つないでプリントする
（ダイレクトプリント）........ P.153

画像をテレビで見る

カメラをテレビやビデオなどに接続して、撮影した画像をテレビ画面に表示したり、ビデオデッキで録画したりできます。接続には付属のオーディオビデオケーブルEG-D2（以下、AVケーブル）を使う方法と、市販のHDMIミニ端子用ケーブル（Type C）を使う方法の2種類があります。

AVケーブルを使ってテレビと接続する

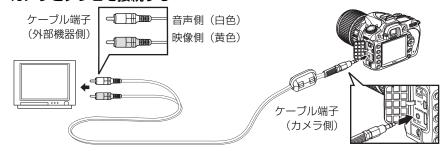
カメラをテレビやビデオデッキに接続する手順を説明します。接続には付属のAVケーブルをご使用ください。

1 セットアップメニューの［ビデオ出力］を、テレビに合わせる（P.212）。

- 日本国内では通常、［NTSC］（初期設定）にしてください。

2 カメラの電源をOFFにする

- AVケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

3 カメラとテレビを接続する

4 テレビの入力をビデオ入力に切り換える

5 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。

画像がテレビに映らないとき

AVケーブルでカメラとテレビを正しくつないでも、画像がテレビに映らないときは、セットアップメニューの［**ビデオ出力**］（P.212）がお使いのテレビに合っているかを確認してください。

テレビでの画像の再生について

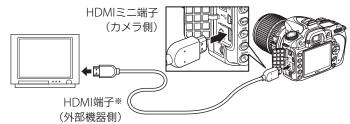
- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のACアダプターEH-5aまたはEH-5をお使いになることをおすすめします。ACアダプター接続中は、液晶モニターのパワーオフ設定は10分に固定されます。

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビやビデオデッキと接続することができます。接続には市販のHDMIミニ端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。

1 カメラの電源をOFFにする

- HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 カメラとハイビジョンテレビを接続する

3 テレビの入力をHDMI入力に切り換える

4 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- カメラをテレビに接続している間、液晶モニターは消灯します。

HDMIについて

HDMIの初期設定は［**オート**］です。接続先のHDMI機器に合わせて自動で映像信号形式を設定します。セットアップメニューの［**HDMI**］（P.212）では、手動で設定することもできます。

画像をパソコンに転送する

このカメラでは、付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとパソコンを接続して、撮影した画像をパソコンに転送できます。ここでは、転送時に必要な操作について説明します。

カメラとパソコンを接続する前に

カメラとパソコンを接続する前に、付属のSoftware Suite CD-ROMを使って、ご使用のパソコンにNikon TransferやViewNXなどのソフトウェアをインストールします。ソフトウェアのインストール方法については、付属のソフトウェアインストールガイドをご覧ください。

カメラを接続できるパソコンのOS

このカメラは、次のパソコンのOS（オペレーティングシステム）に対応しています。

Windows	32bit 版 の Windows Vista Service Pack 1（Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate）、Windows XP Service Pack 3（Home Edition/ Professional） • Windows 2000 Professional Service Pack 4をお使いの方は、カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに転送してください。
Macintosh	Mac OS X（version 10.3.9、10.4.11、10.5.3）

※対応OSに関する最新情報は、カスタマーサポート（P.xix）のホームページのサポート情報でご確認ください。

付属のソフトウェアについて

付属のNikon TransferやViewNXには、次のような機能があります。ソフトウェアの使い方については、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

- **Nikon Transfer**：撮影した画像をカメラからパソコンに簡単に転送するためのソフトウェアです。バックアップの保存や著作権情報などの画像への埋め込みなどもできます。
- **ViewNX**：パソコンに転送した画像を表示するためのソフトウェアです。表示した画像の選別やRAW画像の現像や簡易的な調整、ファイル形式の変換などができます。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

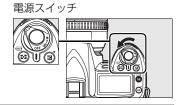
別売のCamera Control Pro 2について

別売のCamera Control Pro 2（P.254）で、パソコンからカメラをコントロールできます。Camera Control Pro 2を起動すると、表示パネルの記録可能コマ数表示部に、PCが表示されます。

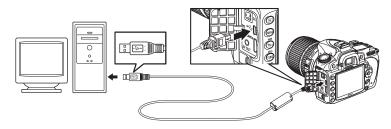
USB接続でパソコンに画像を転送する

付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとパソコンを接続します。カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

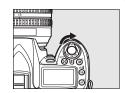
1 カメラの電源をOFFにする

電源スイッチ

2 パソコンを起動する

3 カメラとパソコンを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐに差し込んでください。

✔USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

4 カメラの電源をONにする

5 画像を転送する

- Nikon Transferが自動的に起動しますので、［**転送開始**］ボタンをクリックして画像を転送してください。
- Nikon Transferの使い方については、Nikon Transferのヘルプ をご覧ください。ヘルプは、Nikon Transferを起動し、メニューバーの［ヘルプ］メニューから［**Nikon Transferヘルプ**］を選んで表示してください。

［**転送開始**］ボタン

6 転送が終わったら、カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜く

- 転送が終わると、Nikon Transferは自動的に終了します。

画像をプリンターで印刷する

カメラで撮影した画像をプリント（印刷）します。画像をプリントするには、次のような方法があります。

a カメラとプリンターを直接つないでプリントする（ダイレクトプリント）....... P.153

b SDカードをプリンターのカードスロットに挿入してプリントする

プリンターの使用説明書をご覧ください。

DPOF（P.293）対応プリンターをお使いの場合は、事前にプリント指定（P.161）を行い、指定通りにプリントできます。

c SDカードをプリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼する

事前にプリント指定（P.161）を行ってから、DPOF対応のプリントサービス取扱店にお持ち込みください。

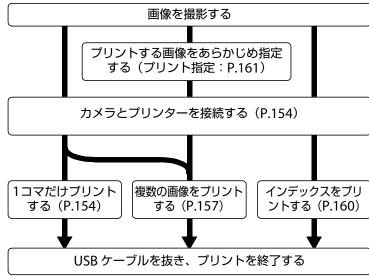
d カメラの画像をパソコンに転送してからプリントする...................................... P.150

画像の転送方法については「画像をパソコンに転送する」（P.150）をご覧ください。パソコンでのプリント方法はお使いになるソフトウェアのヘルプやプリンターの使用説明書をご覧ください。

※a～cの方法では、RAW画像（P.62）はプリントできません。RAW画像は画像編集メニューの［**RAW現像**］（P.232）で作成したJPEG画像をプリントするか、パソコンに転送してから、ViewNX（P.150）や別売のCapture NX 2（P.254）などのソフトウェアを使って、プリントしてください。

カメラとプリンターを直接つないでプリントする

（ダイレクトプリント）

PictBridge（ピクトブリッジ：P.293）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接接続してSDカード内の画像をプリントできます。これを「ダイレクトプリント」といいます。ダイレクトプリントは、次の手順で行います。

次のページから、それぞれの手順について詳しく説明します。

ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のACアダプターEH-5aまたはEH-5をお使いになることをおすすめします。
- ダイレクトプリントする画像を撮影モード **P**、**S**、**A**、**M** で撮影する場合は、撮影メニューの［**色空間**］（P.172）を［**sRGB**］にすることをおすすめします。

USBハブについて

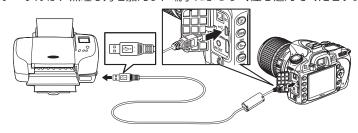
USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

カメラとプリンターを接続する

付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとプリンターを接続します。

1 カメラの電源をOFFにしてからプリンターの電源をONにする

2 カメラとプリンターを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。

3 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、液晶モニターに①の画面が表示された後、②の画面が表示されます。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。
- 縮小ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。拡大ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- 1コマ表示中に拡大ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します（P.140）。▶ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- ▲または▼を押すと、画像情報（P.131）が表示されます。

2 プリント設定画面を表示する

- OKボタンを押すとプリント設定画面が表示されます。

3 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズを選びます。 ［**プリンターの設定**］、［**Lサイズ**］、［**2Lサイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**203×254 mm**］、［**Letter**］、［**A3サイズ**］、［**A4サイズ**］のうち、プリンターが対応するサイズのみが表示されます。 OKボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
枚数指定	▼または▲を押して、プリントする枚数（1～99枚）を設定します。OKボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）または［**なし**］（フチなしプリント）を選びます。 OKボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）または［**なし**］（日付を印刷しない）を選びます。 OKボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

範囲指定	プリント範囲を指定します。 ［**する**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。 右のような画面が表示されます。 黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。 • ボタンを押すと枠が小さく（プリント範囲が狭く）なり、ボタンを押すと枠が大きく（プリント範囲が広く）なります。 • マルチセレクターを操作すると、プリント範囲が移動します。 • ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

4 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んで、ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度ボタンを押してください。

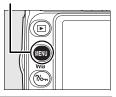
プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

［**用紙設定**］、［**フチ設定**］、［**日付プリント**］の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に［**プリンターの設定**］を選んでください。

■複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（P.154）、次の手順でプリントしてください。

1 右の画面でMENUボタンを押す

MENUボタン

2 ［プリント画像選択］、［日付選択］または［DPOFプリント］を選ぶ

- ［**プリント画像選択**］、［**日付選択**］または［**DPOFプリント**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。
- 事前に再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］（P.168）を行った場合、［**DPOFプリント**］を選ぶと、手順3の画面にプリント指定で設定したプリント枚数が反映されます。

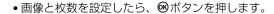
3 プリントする画像と枚数を設定する

［プリント画像選択］または［DPOFプリント］の場合：

- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。
- プリントされる画像には、アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、アイコンが消え、その画像はプリントされません。

ボタン

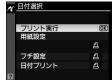
- ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

- 画像と枚数を設定したら、ボタンを押します。

［日付選択］の場合：

- マルチセレクターの▲または▼を押してプリントする日付を選び、▶を押して設定します。
- プリントする枚数は設定できません。選択した日付の画像のすべてが一枚ずつプリントされます。

- 日付を選択中にボタンを押すと、選択中の日付の画像を確認することができます。ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

4 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズを選びます。 Ⓞボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。表示される用紙サイズはプリンターによって異なります（P.155）。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）、［**なし**］（フチなしプリント）を選びます。Ⓞボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）、［**なし**］（日付を印刷しない）を選びます。Ⓞボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。

5 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んでⓄボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを中断したいときは、もう一度Ⓞボタンを押してください。

ダイレクトプリントについてのご注意

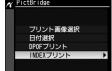
- RAW画像（P.62）はダイレクトプリントできません。RAW画像は画像編集メニューの［**RAW現像**］（P.232）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- ［**フチ設定**］と［**範囲指定**］は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、［**範囲指定**］で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

関連ページ

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」（P.271）をご覧ください。

INDEX（インデックス）プリントする

SDカード内の全てのJPEG画像（P.62）が一覧できる「インデックス」をプリントできます。

1 ［PictBridge］画面（P.157）で［INDEX プリント］を選ぶ

- ［**INDEXプリント**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［INDEXプリント］画面が表示されます。

2 プリント設定画面を表示する

- ⓚボタンを押すと、プリント設定画面が表示されます。

3 プリント設定の項目を設定する

- 「複数の画像をプリントする」の手順4（P.159）と同様に、プリント設定の項目を設定してから、プリントしてください。
- 用紙サイズによっては、インデックスプリントができない場合があります（警告画面が表示されます）。
- インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

▌プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

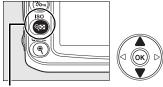
SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（P.153）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

1 再生メニューの［プリント指定（DPOF）］で［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、プリント画像の選択画面が表示されます。

2 プリントする画像と枚数を設定する

ボタン

- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。
- 設定した画像には、アイコンとプリント枚数が表示されます。
- 枚数を0にするとアイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- 画像と枚数を設定したら、ボタンを押します。
- MENUボタンを押すと、画像選択を中止して、再生メニューに戻ります。

3 プリント指定の項目を設定する

- 撮影情報や日付を画像に写し込まない場合は、そのまま［**設定終了**］を選んでボタンを押してください。
- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、［**撮影情報**］または［**日付**］を選んで▶を押して☐に✔を入れてください。

4 プリント指定を終了する

- ［**設定終了**］を選んで、ボタンを押します。

プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、［**プリント指定（DPOF)**］の［**撮影情報**］、［**日付**］の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの［**日付プリント**］を［**あり**］にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像（P.62）は、プリント指定ができません。RAW画像は画像編集メニューの［**RAW現像**］（P.232）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

メニューガイド

ここでは、カメラの各種設定を変更できる各メニューについて説明します。
MENUボタンを押すとメニュー画面が表示され、マルチセレクターの◀を押すとメニューを切り換えるタブに移動します。

再生メニュー：再生で使える便利な機能 P.164

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能........................ P.169

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定..... P.177

セットアップメニュー：
カメラを使いやすくする基本設定.................................. P.211

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能......... P.220

最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる...... P.237

マイメニュー：よく使うメニューを登録する P.238

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

再生メニューには、次の項目があります。

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。マルチセレクターの◀を押して画面左側のタブへ移動して、▲または▼を押して再生メニューを表示します。
- メニューの操作方法についてはP.18をご覧ください。

メニュー項目	ページ
削除	P.166
再生フォルダー設定	P.166
非表示設定	P.167
再生画面設定	P.167
撮影直後の画像確認	P.168

メニュー項目	ページ
縦位置自動回転	P.168
Pictmotion	P.143
スライドショー	P.146
プリント指定（DPOF）	P.161

画像選択方法

再生メニューでの画像の削除（P.166）、非表示設定（P.167）、Pictmotion（P.143）、ダイレクトプリント（P.153）などを行うときの画像の選択方法は、すべての画像が番号順にサムネイル表示される「サムネイル画像選択」と、撮影した日付ごとに一括して選択できる「日付選択」があります。ここでは、再生メニューの［**削除**］を例にして、サムネイル画像選択と日付選択の手順を説明します。

サムネイル画像選択

1 再生メニューの［削除］から［選択画像削除］を選ぶ

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。
- 再生メニュー以外が表示された場合は、画面左側のタブを切り換えて再生メニューを表示します。

2 画像を選ぶ

- マルチセレクターを▲▼◀▶方向に押して画像を選びます。

- ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。ボタンを放すと元に戻ります。

ボタン

3 設定する

- ボタンを押して設定します。設定するとアイコンが表示され、もう一度押すと解除されます。
- プリント関連の設定の場合は、ボタンを押しながらマルチセレクターの▲または▼を押すと、プリント枚数を設定できます。プリント枚数はアイコンの横に表示されます。

4 必要に応じて手順2～3を繰り返す

5 設定を完了する

- ボタンを押して、設定を終了します。
- 画像の削除の場合は、右の画面が表示されます。［**はい**］を選んでボタンを押すと、選択した画像を削除します。

日付選択

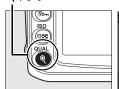
1 再生メニューの［削除］から［日付選択］を選ぶ

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。
- 再生メニュー以外が表示された場合は、画面左側のタブを切り換えて再生メニューを表示します。

2 日付を選ぶ

- マルチセレクターを▲▼方向に押して日付を選びます。
- ボタンを押すと、選択している日付の画像がサムネイルで表示されます。もう一度ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。

- サムネイル表示時は、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。ボタンを放すと元に戻ります。

3 設定する

- 日付選択画面で▶を押すか、サムネイル表示画面で㊊ボタンを押して設定します、設定すると日付の横にチェック☑が入ります。
- 選択している日付を解除する場合は、もう一度日付選択画面で▶を押します。

4 必要に応じて手順2～3を繰り返す

5 設定を完了する

- 日付選択画面で㊊ボタンを押して、設定を終了します。
- 画像の削除の場合は、右の画面が表示されます。［**はい**］を選んで㊊ボタンを押すと、選択した画像を削除します。

削除

複数の画像を一括して削除できます。ただし、🔑がついている画像はプロテクト（P.141）が設定されているため、削除できません。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかる場合があります。

選択画像削除	選択した画像を削除します。
DATE **日付選択**	撮影した日付単位に一括で削除します。
ALL **全画像削除**	［**再生フォルダー設定**］（P.166）で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。

☑ 削除についてのご注意

プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

再生フォルダー設定

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。

画像の再生（P.130）時に、画像の記録に使われているフォルダー（画像が記録される場所）内の画像だけを表示するか、すべての画像を表示するかを設定します。

記録中のフォルダー（初期設定）	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。
全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。

☑ 再生フォルダー設定についてのご注意

- ［**全てのフォルダー**］にした後に撮影を行うと、自動的に［**記録中のフォルダー**］に変更されます。すべてのフォルダーの画像を再生するには、改めて［**全てのフォルダー**］にしてください。
- 画像を記録するフォルダーは撮影メニューの［**記録フォルダー設定**］（P.174）で設定できます。
- ［**記録中のフォルダー**］にして、SDカードを交換した後、撮影を行わずに画像を再生すると、液晶モニターに［**撮影画像がありません**］と表示されます。［**全てのフォルダー**］に変更すると、SDカード内の画像が再生できます。

非表示設定

画像を非表示設定にすると、その画像は非表示設定画面以外では表示されなくなります。

設定	非表示設定のオン/オフを画像ごとに設定します。
DATE **日付選択**	撮影した日付単位に一括で設定します。
ALL **一括解除**	非表示設定を一括で解除します。

☑ 非表示設定についてのご注意

プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

再生画面設定

画像情報（P.131）に、ハイライト表示やRGBヒストグラム表示、撮影情報を追加できます。

次の項目から、画像情報に表示したい項目を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。表示したい全ての項目に✔を入れてから、［**設定終了**］を選んで㊙ボタンを押すと、設定を完了します。

画像情報表示の追加		
	ハイライト	画像情報表示にハイライト表示画面を追加します。画像の中の非常に明るい部分を点滅表示します。
	RGB ヒストグラム	画像情報表示にRGBおよび色別（赤、緑、青）のヒストグラム表示画面を追加します。
	撮影情報	画像情報表示にカメラ名、測光、露出、焦点距離、ホワイトバランス、画像の調整など、詳細な撮影情報画面を追加します。

撮影直後の画像確認

撮影直後に画像を自動的に表示することができます。

する （初期設定）	撮影直後に画像を表示します。
しない	画像を自動表示しません。撮影画像を確認するには▶ボタンを押してください。

縦位置自動回転

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示することができます。

する	縦位置で撮影した画像を自動的に縦位置で表示します。
しない （初期設定）	縦位置で撮影した画像でも、全て横位置で表示します。

✔ 縦位置自動回転についてのご注意

- ［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、セットアップメニューの［**縦横位置情報の記録**］（P.215）を［**しない**］にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

Pictmotion

撮影した画像をつなげ、お好みの「スタイル」（画像効果）やBGMにのせて再生する「Pictmotion（ピクトモーション）」を楽しむことができます（P.143）。

スライドショー

撮影した画像を1コマずつ順番に、連続再生する「スライドショー」を行います（P.146）。

プリント指定（DPOF）

プリントする画像や枚数など、あらかじめカメラで設定できます。設定方法については、「プリントしたい画像を指定する」（P.161）をご覧ください。

- ［**一括解除**］を選ぶと、プリント指定（DPOF)で設定した内容を全て解除します。

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

撮影メニューには、次の項目があります。

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。マルチセレクターの◀を押して画面左側のタブへ移動して、▲または▼を押して撮影メニューを表示します。
- メニューの操作方法についてはP.18をご覧ください。

メニュー項目	ページ
ピクチャーコントロール	P.110
カスタムピクチャーコントロール	P.116
画質モード	P.62
画像サイズ	P.63
ホワイトバランス	P.97
ISO感度設定	P.76、170
アクティブD-ライティング	P.122
色空間	P.172
長秒時ノイズ低減	P.173
高感度ノイズ低減	P.173
記録フォルダー設定	P.174
多重露出	P.124
動画の設定	P.176

ピクチャーコントロール

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。
記録する画像の仕上がり（色の鮮やかさや輪郭の強調度合いなど）を撮影シーンや好みに合わせて設定できます（P.110）。

カスタムピクチャーコントロール

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。
ピクチャーコントロールの設定を自由に編集して登録できます。また、SDカードに保存されているピクチャーコントロールの設定をカメラに登録することや、カメラで編集した設定をSDカードにコピーすることができます（P.116）。

画質モード

すべての撮影モードで使えます。
画像を記録する際の画質を変更します（P.62）。

画像サイズ

すべての撮影モードで使えます。
画像サイズ（大きさ）を変更します（P.63）。

ホワイトバランス

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。
ホワイトバランスを設定できます（P.97）。

ISO感度設定

すべての撮影モードで使えます。
ISO感度（P.76）と感度自動制御を設定します。

■感度自動制御（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）

感度自動制御機能は、設定した感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

する	カメラが自動的にISO感度を変更します。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。 • 制御上限感度と低速限界設定を設定してください。
しない （初期設定）	［**ISO感度設定**］(P.76)で設定したISO感度に固定されます。

• ［**する**］にしたときは、感度の制御条件を設定してください。

制御上限感度	ISO感度が高くなると、低いときに比べて多少ざらついた画像になることがあります。感度自動制御で、ISO感度が高くなり過ぎないように上限感度（400～Hi 1）を設定できます。ISO感度の下限は200になります。
低速限界設定	撮影モード**P**または**A**で感度自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/2000～1秒）を設定できます。ここで選択したシャッタースピードでは露出不足となる場合に、ISO感度を自動的に変更します。ただし、ISO感度を［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

［**感度自動制御**］を［**する**］にすると、表示パネルとファインダー内表示に、**ISO-AUTO**が表示されます。

- **ISO-AUTO** 表示が点灯している場合は、［**ISO 感度**］で設定した感度で撮影されます。
- **ISO-AUTO** 表示が点滅している場合は、設定した感度では適正露出が得られないため、カメラが感度を変更していることを示しています。

感度自動制御についてのご注意

- ［**ISO感度**］で設定したISO感度よりも、［**制御上限感度**］で設定したISO感度が優先されます。
- フラッシュ撮影時は、［**低速限界設定**］で設定したシャッタースピードよりも、カスタムメニュー e1［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］（P.193）で設定したシャッタースピードが優先されます。
- フラッシュ撮影時に、次のような場合は手前の被写体の露出がアンダーになることがあります。
  - 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）する場合
  - 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）する場合
  - 背景が明るい場合

  このようなときは、次のように対処すれば露出アンダーが改善されます。
    - 絞りを開く（P.84、85）
    - スローシンクロを解除する（P.73）

アクティブD-ライティング

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。

撮影時にハイライトの白とびや、暗部の黒つぶれを軽減する機能です（P.122）。［**オート**］、［**より強め**］、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］、［**しない**］に設定できます。初期設定は［**オート**］です。

色空間

すべての撮影モードで使えます。

記録する画像の色空間を指定します。画像の用途によって、適した色空間を選択できます。

sRGB sRGB（初期設定）	画像をsRGB色空間で記録します。画像調整などを行わずに再生やプリントする場合に適しています。
Adobe Adobe RGB	画像をAdobe RGB色空間で記録します。sRGBに比べて色域が広いため、商業印刷に適しています。

1 撮影メニューの［色空間］を選ぶ

- ［**色空間**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［色空間］画面が表示されます。

2 設定したい色空間を選ぶ

- Ⓞボタンを押して設定します。

色空間についてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、sRGB色空間をおすすめします。
- Adobe RGB色空間で記録したJPEG画像は、DCFオプション色空間に対応しています。DCFオプション色空間に対応しているアプリケーションやプリンターの場合、自動的に正しい色空間が設定されます。DCFオプション色空間に対応していないアプリケーションやプリンターの場合は、Adobe RGB色空間に設定してください。詳細については、アプリケーションやプリンターの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、sRGB色空間をおすすめします。Adobe RGB色空間で記録した画像でも、ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスで印刷できることは確認していますが、彩度が低下する場合があります。

ViewNXまたはCapture NX 2をご使用の場合

付属のソフトウェアViewNXまたは別売のCapture NX 2をご使用になると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

色空間とは

色を数値化して表現するときに、どの色にどの数値を対応させるかを定めたもので、「カラースペース」ともいいます。一般にはsRGB 色空間が利用されています。Adobe RGB 色空間は出版・印刷などで使われる場合があります。

長秒時ノイズ低減

すべての撮影モードで使えます。
シャッタースピードが低速になったときに発生する「長秒時ノイズ」を低減することができます。

する	シャッタースピードが8秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない （初期設定）	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示にJob nrが表示されます。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理には、撮影時のシャッタースピードとほぼ同等の時間がかかります。

☑ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- ノイズ低減処理が完了する前に再生すると、液晶モニターにノイズ低減処理を行う前の画像（ノイズが入った画像）が表示される場合があります。
- ［**する**］に設定するとシャッタースピードにかかわらず、連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- ノイズ低減処理中に電源をOFFにすると、処理は行われません。

高感度ノイズ低減

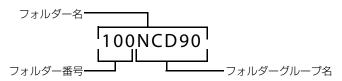
すべての撮影モードで使えます。
ISO感度を高くして撮影したときに発生する「高感度ノイズ」を低減することができます。

HIGH	**強め**	ISO感度が800以上の高感度になると、高感度ノイズの低減処理が行われます。このとき、連続撮影可能コマ数が少なくなります（P.281）。 ノイズ低減の効果は、強い順に［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
NORM	**標準** （初期設定）	
LOW	**弱め**	
	しない	高感度ノイズ低減処理を行いません。ただし、ISO感度がHi 0.3以上の高感度になったときは、常にノイズ低減処理が行われます。この場合のノイズ低減効果は［**弱め**］よりもさらに弱くなります。

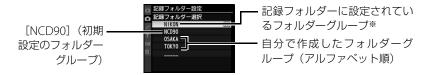
記録フォルダー設定

すべての撮影モードで使えます。

画像を記録するフォルダー（画像が記録される場所）を選んだり、新しく作成することができます。

フォルダー名は3ケタの数字（フォルダー番号）と5ケタの英数字（フォルダーグループ名）で構成されています。

■ 記録フォルダー選択

［**記録フォルダー選択**］を選ぶと、下のような［記録フォルダー選択］画面が表示され、画像を記録するフォルダーグループを選ぶことができます。

フォルダー選択画面の見方は以下の通りです。

※ 記録フォルダーに設定したフォルダーグループは、［**空フォルダー削除**］で削除したり、SDカードを交換した場合でもそのまま表示されます。このフォルダーグループを選んだままで撮影を行うと、同じ名称のフォルダーグループが、再び作成されます。

■新規作成

新しいフォルダーグループを作成します。［**新規作成**］を選ぶと、フォルダー名編集画面が表示されます。5文字までのフォルダーグループ名を入力し、ⓚボタンを押すと、フォルダーグループが作成されます。

入力画面の操作方法

- 文字はカーソル位置に挿入されます。
- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの⊕ボタンを押します。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動する場合は、⊖ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押します。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除する場合は、⊖ボタンを押しながらマルチセレクターを操作して削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑ボタンを押します。
- MENUボタンを押すと、キャンセルして撮影メニューに戻ります。

■フォルダー名変更

［**フォルダー名変更**］を選ぶと、フォルダーグループ名の一覧が表示されます。名称を変更したいフォルダーグループを選ぶと、グループ名編集画面が表示されます。5文字までのグループ名を入力し、ⓚボタンを押すと、グループ名が変更され、同時にそのグループ内のすべてのフォルダーのフォルダー名が変更されます。ただし、フォルダー番号は変更されません。

■空フォルダー削除

画像が1コマも記録されていないフォルダーグループがすべて削除されます。

☑ グループ内に複数のフォルダーがある場合のご注意

使用中のフォルダー内の画像ファイルが999コマに達するか、ファイル番号が9999に達した時に撮影を行うと、同じグループ名で番号が更新されたフォルダーが自動的に作成されます。

グループ内に複数のフォルダーがある場合、［**記録フォルダー選択**］でそのグループを選ぶと、グループ内でフォルダー番号が最大のフォルダーが選ばれます。たとえば、101NCD90、102NCD90というフォルダーがある場合、［**記録フォルダー選択**］で［**NCD90**］を選ぶと、102NCD90に画像が記録されます。

多重露出

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。
2コマまたは3コマまで連続して撮影した画像を重ねて、1コマの画像として記録します（P.124）。

動画の設定

すべての撮影モードで使えます。
動画を記録するときの記録サイズと音声の設定ができます（P.50）。

■画像サイズ

1280×720(16:9)	1280×720の解像度で記録します。もっとも高解像度になりますが、記録できる時間は短くなります。フレームレートは24fpsで記録します。
640×424(3:2) （初期設定）	640×424の解像度で記録します。フレームレートは24fpsで記録します。
320×216(3:2)	320×216の解像度で記録します。もっとも低解像度になりますが、記録できる時間は長くなります。フレームレートは24fpsで記録します。

■音声記録

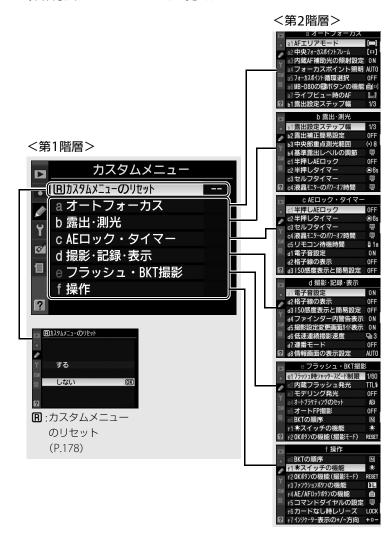
する （初期設定）	動画と同時に音声も記録します（モノラル）。
しない	音声は記録しません。

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定

カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。

カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。マルチセレクターの◀を押して画面左側のタブへ移動して、▲または▼を押してカスタムメニューを表示します。
- メニューの操作方法についてはP.18をご覧ください。

R：カスタムメニューのリセット（P.178）

カスタムメニューでは、次のカスタムメニュー項目が表示されます。項目を選んで▶を押すと、選んだカスタムメニュー項目の設定画面が表示されます。

項目	ページ
Ⓡカスタムメニューのリセット	P.178
a　オートフォーカス	
a1：AFエリアモード	P.179
a2：中央フォーカスポイントフレーム	P.180
a3：内蔵AF補助光の照射設定	P.180
a4：フォーカスポイント照明	P.181
a5：フォーカスポイント循環選択	P.181
a6：MB-D80のAE/AFロックボタンの機能	P.182
a7：ライブビュー時のAF	P.182
b　露出・測光	
b1：露出設定ステップ幅	P.183
b2：露出補正簡易設定	P.183
b3：中央部重点測光範囲	P.184
b4：基準露出レベルの調節	P.184
c　AEロック・タイマー	
c1：半押しAEロック	P.185
c2：半押しタイマー	P.185
c3：セルフタイマー	P.186
c4：液晶モニターのパワーオフ時間	P.186
c5：リモコン待機時間	P.186
d　撮影・記録・表示	
d1：電子音設定	P.187
d2：格子線の表示	P.187
d3：ISO感度表示と簡易設定	P.188
d4：ファインダー内警告表示	P.188
d5：撮影設定変更画面ガイド表示	P.188
d6：低速連続撮影速度	P.189
d7：連番モード	P.189
d8：情報画面の表示設定	P.190
d9：イルミネーター点灯	P.190
d10：露出ディレーモード	P.190
d11：フラッシュ使用推奨表示	P.191
d12：MB-D80電池設定	P.191
e　フラッシュ・BKT撮影	
e1：フラッシュ時シャッタースピード制限	P.193
e2：内蔵フラッシュ発光	P.193
e3：モデリング発光	P.199
e4：オートブラケティングのセット	P.199
e5：オートFP撮影	P.203
e6：BKTの順序	P.203
f　操作	
f1：☀ スイッチの機能	P.204
f2：OKボタンの機能（撮影モード）	P.204
f3：ファンクションボタンの機能	P.205
f4：AE/AFロックボタンの機能	P.208
f5：コマンドダイヤルの設定	P.208
f6：カードなし時レリーズ	P.210
f7：インジケーター表示の＋/－方向	P.210

Ⓡ：カスタムメニューのリセット

カスタムメニューをリセットします。ツーボタンリセット（P.78）とは、リセットされる内容が異なるので、ご注意ください。

する	すべてのカスタムメニューの設定内容が、初期設定に戻ります（P.279）。
しない	設定をリセットしません。

a：オートフォーカス

a1：AFエリアモード

すべての撮影モードで使えます。

ピントを合わせるフォーカスポイントを、カメラがどのように選択するかを設定します。

[□]	**シングルポイントAFモード**※1	フォーカスポイントを自分で選び、そのフォーカスポイントだけを使ってピントを合わせます。静止している被写体の撮影に適しています。
[⁘]	**ダイナミックAFモード**※2	フォーカスポイントを選ぶのはシングルと同じですが、AFモード（P.54）が**AF-A**または**AF-C**との組み合わせで、選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れてしまった場合でも、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を使ってピントを合わせます。不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。 • AFモードが**AF-S**のときは、シングルポイントAFモードと同じ動作になります。
[■]	**オートエリアAFモード**※3	カメラが自動的に、全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、GタイプまたはDタイプレンズを使用しているときは、人物と背景を自動的に判別して、主要被写体にピントが合う精度が高くなります。
[3D]	**3D-トラッキング（11点）**	構図変化時に自動でフォーカスポイントが移動する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は構図の変化に合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えてピントを合わせ続けます。動きの少ない被写体に対して、自由に構図を変えながらのオートフォーカス撮影が簡単にできます。 • 素早い動きをする被写体などの場合、カメラが途中で被写体を見失ってしまうときがあります。その場合、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。 • AFモードが**AF-S**のときは、シングルポイントAFモードと同じ動作になります。

※1 撮影モード 🌷の初期設定

※2 撮影モード 🏃の初期設定

※3 撮影モード AUTO、⚡、👤、🏔、🧒、**P**、**S**、**A**、**M**の初期設定

AFエリアモードの設定は、情報画面で確認できます。右図は［**シングルポイントAFモード**］で中央から1つ左側のフォーカスポイントを選んだ場合です。

3D-トラッキングについて

3D-トラッキング（11点）では、半押ししていったんピントが合った時に選択したフォーカスポイント周辺の色を背景の色も含めて記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていると、うまく作動しない場合があります。

a2：中央フォーカスポイントフレーム

すべての撮影モードで使えます。

中央のフォーカスポイントがピントを合わせる範囲（被写体を追う範囲）を、初期設定の［**ノーマルフレーム**］から、さらに広い［**ワイドフレーム**］に変更することができます。

設定によって、ファインダー内の表示が以下のように変わります。

ノーマルフレーム（初期設定）		動きが少なくピントを合わせる範囲を定めやすい被写体に適しています。
ワイドフレーム		動いてる被写体を中央のフォーカスポイントで捉えやすくしたいときに適しています。

［中央フォーカスポイントフレーム］についてのご注意

カスタムメニューa1［**AFエリアモード**］が［**オートエリアAFモード**］のときは、［**ワイドフレーム**］は機能しません。

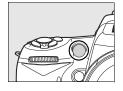
関連ページ

オートフォーカスの設定をする → オートフォーカスで撮影する（P.54）

a3：内蔵AF補助光の照射設定

、以外の撮影モードで使えます。

被写体が暗いときなど、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためにAF補助光が自動的に点灯します。

暗い場所でもAF補助光を自動的に点灯させないように設定できます。

する（初期設定）	オートフォーカスでのピント合わせの際に、必要に応じて自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光は、次の条件が全て満たされた場合に、点灯します。 • 被写体が暗い場合 • AFモードが**AF-S**、または**AF-A**で自動的に**AF-S**が選ばれた場合 • カスタムメニューa1［**AFエリアモード**］（P.179）が［**シングルポイントAFモード**］、［**ダイナミックAFモード**］、［**3D-トラッキング（11点）**］で中央のフォーカスポイントを選択した場合、または［**オートエリアAFモード**］の場合
しない	AF補助光は点灯しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。

AF補助光について

- 使用できるAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

関連ページ

「AF補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意」（P.245）

a4：フォーカスポイント照明

すべての撮影モードで使えます。

ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

オート（初期設定）	被写体が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
する	被写体の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
しない	フォーカスポイントを照明しません。

a5：フォーカスポイント循環選択

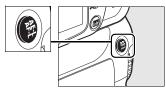
すべての撮影モードで使えます。

フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

する	フォーカスポイントを循環して選べます。一番端のフォーカスポイント（①）を選んでいるときに、さらにマルチセレクターを同方向（右図の場合は▶）に押すと、反対側の端のフォーカスポイント（②）に移動します。 ② ①
しない（初期設定）	フォーカスポイントは循環して選べません。上下または左右の反対側にあるフォーカスポイントを選ぶには、マルチセレクターを選択したいフォーカスポイントの方向に押してください。

a6：MB-D80のAE/AFロックボタンの機能

すべての撮影モードで使えます。

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80のAE/AFロックボタンの役割を以下の表のように変更することができます。

	AE-L/AF-L※（初期設定）	AEロック（P.90）とフォーカスロック（P.57）を同時に行います。
	AE-L※	AEロックを行います。
	AF-L※	フォーカスロックを行います。
	AE-L（ホールド）	1回押すと、カメラが待機状態に入るか、もう一度 ボタンを押すまで、AEロックが維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。
AF-ON	AF-ON※	シャッターボタンの半押しと同様に自動的にピントを合わせます。
	FV-L	内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、またはリモートスピードライトSB-R200使用時にFVロック（P.206）を行います。もう一度押すと解除します。
[ ]	フォーカスポイント選択	MB-D80のAE/AFロック ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、フォーカスポイント（P.56）を選ぶことができます。

※これらの機能は、項目選択時にマルチセレクターの ▶ を押して、[フォーカスポイント選択］画面で［**する**］を選ぶと、MB-D80のAE/AFロックボタンを押しながらMB-D80のサブコマンドダイヤルを回して、フォーカスポイント選択を行うこともできます。

a7：ライブビュー時のAF

すべての撮影モードで使えます。

ライブビュー時にオートフォーカスを行うときの、フォーカスポイントの選び方を設定できます。

	顔認識AF※1	記念写真など、人物の顔（正面）にピントを合わせたい場合に適しています。
WIDE	ワイドエリアAF※2	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは任意の位置に移動できます。
NORM	ノーマルエリアAF※3	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。三脚の使用をおすすめします。

※1 撮影モード、の初期設定です。

※2 撮影モード、、、、**P**、**S**、**A**、**M**の初期設定です。

※3 撮影モードの初期設定です。

b：露出・測光

b1：露出設定ステップ幅

すべての撮影モードで使えます。

露出値（シャッタースピード、絞り、露出補正値、オートブラケティング補正量、調光補正値）を設定（または表示）するときの刻み幅（ステップ）を変更できます。

1/3 **1/3段**（初期設定）	0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）から選ぶことができます。
1/2 **1/2段**	0.5（1/2段）、1.0（1段）から選ぶことができます。

b2：露出補正簡易設定

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** で使えます。

露出補正を行う場合、通常は露出補正ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して設定を行いますが、コマンドダイヤルだけで露出補正を行えるようにもなります。

露出補正簡易設定を［**する**］に設定すると、露出インジケーターの「0」が点滅します。

する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 • 電源をOFFにしても、半押しタイマーがきれても、設定した露出補正値はリセットされません。また、［**しない**］に設定してもリセットされません。
しない （初期設定）	露出補正ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

b2［露出補正簡易設定］とf5［メインとサブの入れ換え］の併用について

［**露出補正簡易設定**］とカスタムメニューf5［**コマンドダイヤルの設定**］（P.208）の［**メインとサブの入れ換え**］との併用により、次の表で記載しているコマンドダイヤルで露出補正ができるようになります。

		カスタムメニュー f5［メインとサブの入れ換え］	
		しない（初期設定）	**する**
撮影モード	**P**	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません	

b3：中央部重点測光範囲

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** で使えます。
中央部重点測光（P.89）時に、重点的に測光するファインダー中央部の範囲を変更できます。

(•)6	**φ6mm**
(•)8	**φ8mm**（初期設定）
(•)10	**φ10mm**

b4：基準露出レベルの調節

すべての撮影モードで使えます。
適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

☑ 基準露出レベルの調節について

- カスタムメニューb4［**基準露出レベルの調節**］を0以外に設定しても、☒マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b4の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c：AEロック・タイマー

c1：半押しAEロック

すべての撮影モードで使えます。

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うように設定できます。

設定	内容
する	シャッターボタンを半押ししているときに、AEロックを行います。
しない（初期設定）	シャッターボタンの半押しではAEロックを行いません。AE/AFロックボタンを押しているときだけ、AEロックを行います。

c2：半押しタイマー

すべての撮影モードで使えます。

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、バッテリーの消耗を抑えるために待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

表示	設定
4s	**4秒**
6s	**6秒**（初期設定）
8s	**8秒**
16s	**16秒**
30s	**30秒**

表示	設定
1m	**1分**
5m	**5分**
10m	**10分**
30m	**30分**

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5を接続しているときは、待機状態になりません。

c3：セルフタイマー

すべての撮影モードで使えます。

セルフタイマー撮影時（P.67）にシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数を変更できます。コマ数を［**1コマ**］以外に設定した場合、レリーズモードを⊒L（低速連続撮影、P.189）にしたときと同じ速さで連写します。

時間：

2s	**2秒**
5s	**5秒**
10s	**10秒**（初期設定）
20s	**20秒**

コマ数：

1コマ	**4コマ**	**7コマ**
2コマ	**5コマ**	**8コマ**
3コマ	**6コマ**	**9コマ**

c4：液晶モニターのパワーオフ時間

すべての撮影モードで使えます。

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。パワーオフ時間は［**画像の再生**］、［**メニュー表示**］、［**情報画面表示**］、［**撮影直後の画像確認**］から設定したい項目を選択し、それぞれ個別に設定できます。

4s	**4秒**	1m	**1分**
10s	**10秒**	5m	**5分**
20s	**20秒**	10m	**10分**

- 初期設定は、［**画像の再生**］と［**情報画面表示**］が10秒、［**メニュー表示**］が20秒、［**撮影直後の画像確認**］が4秒になります。
- 液晶モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5を接続しているときは、液晶モニターは操作終了後、約10分で自動的に消灯します。

c5：リモコン待機時間

すべての撮影モードで使えます。

リモコンモードに設定してから、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を設定します。

1m	**1分**（初期設定）	10m	**10分**
5m	**5分**	15m	**15分**

- リモコン待機時間を長くすると、カメラのバッテリーの消耗が早くなります。
- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除され、S（1コマ撮影）または⊒L、⊒H（連続撮影）モード（P.64、65）に戻ります。

d：撮影・記録・表示

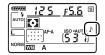
d1：電子音設定

すべての撮影モードで使えます。

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

する （初期設定）	次の場合に電子音が鳴ります。 • セルフタイマー（P.67）の作動中 • 2秒リモコン撮影（P.69）の作動中 • 瞬時リモコン撮影（P.69）の完了時 • オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、AF モード（P.54）が**AF-C**、または**AF-A**で被写体が動いているとカメラが判断したときは、電子音は鳴りません）
しない	電子音は鳴りません。

電子音設定時の表示について

［**する**］のときは表示パネルに ♪ マークが、［**しない**］のときは マークが表示されます。

d2：格子線の表示

すべての撮影モードで使えます。

格子線を表示するように設定できます。

する	ファインダーに格子線を表示します。構図を厳密に決めたいときに便利です。
しない （初期設定）	格子線は表示しません。

d3：ISO感度表示と簡易設定

すべての撮影モードで使えます。

表示パネルやファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に、ISO感度を表示できます。［**感度表示と簡易設定をする**］を選ぶと、撮影モードが**P**、**S**、**A**のときのみコマンドダイヤルを回してISO感度を変更できます。

ISO　**感度を表示する**	記録可能コマ数表示部にISO感度を表示します。
ISO　**感度表示と簡易設定をする**	記録可能コマ数表示部にISO感度を表示し、撮影モードが**P**、**S**、**A**のときのみコマンドダイヤルでISO感度を変更できます。 • 撮影モード**P**、**S**：サブコマンドダイヤルでISO感度を変更します。 • 撮影モード**A**：メインコマンドダイヤルでISO感度を変更します。
しない（初期設定）	ISO感度は表示しません。

d4：ファインダー内警告表示

すべての撮影モードで使えます。

警告表示をファインダーに表示するかどうかを設定します。

する （初期設定）	次の警告表示をファインダーに表示します。 • B/W：撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］を［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールに設定したときに表示されます。 • ：バッテリーの残量が少なくなると表示されます。 • ：カメラにSDカードが挿入されていないときに表示されます。
しない	ファインダーに警告を表示しません。

d5：撮影設定変更画面ガイド表示

すべての撮影モードで使えます。

撮影設定変更画面で表示される文字ガイドを、表示しないように設定できます。

ガイド表示する （初期設定）	撮影設定変更画面でガイドを表示します。
ガイド表示しない	ガイドを表示しません。

d6：低速連続撮影速度

すべての撮影モードで使えます。

レリーズモードを⧉L（低速連続撮影）にしたときの連続撮影速度（コマ/秒）を、［**4コマ**］～［**1コマ**］の間で設定できます。初期設定は［**3コマ**］です。

連続撮影速度について

シャッタースピードが低速の場合、設定した連続撮影速度で撮影できないことがあります。

d7：連番モード

すべての撮影モードで使えます。

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、以前からの続きの連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない（初期設定）	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 • 連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
RESET リセット	カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、［**連番モード**］を［**リセット**］した後、SDカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号＋1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選ばれます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号＋1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選ばれます。

d8：情報画面の表示設定

すべての撮影モードで使えます。

明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見づらいときに情報画面（P.10）の見え方を設定できます。

黒文字表示

白文字表示

AUTO 自動（初期設定）	情報画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。	
手動	手動で情報画面の表示を切り換えます。	
	B 黒文字	明るい場所で撮影するときに情報画面が見やすいように、液晶モニターを明るくして、文字を黒く表示します。
	W 白文字	暗い場所で撮影するときに情報画面が見やすいように、液晶モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

d9：イルミネーター点灯

すべての撮影モードで使えます。

半押しタイマー（P.35）の作動中は、常に表示パネルのイルミネーター（照明）を点灯するように設定できます。

する	半押しタイマーの作動中は、イルミネーターが点灯します（バッテリーの消耗は早くなります）。
しない（初期設定）	電源スイッチを☀に合わせると、イルミネーターが点灯します。

d10：露出ディレーモード

すべての撮影モードで使えます。

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1秒後にシャッターがきれるように変更できます。

する	ミラーの作動後、約1秒後にシャッターがきれます。
しない（初期設定）	シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれます。

d11：フラッシュ使用推奨表示

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** で使えます。

被写体が暗い場合または逆光の場合にはファインダー内のレディーライト⚡が点滅してフラッシュの使用をおすすめます。点滅しないように変更もできます。

する （初期設定）	暗い場所または逆光の場合などフラッシュが必要な撮影条件でフラッシュを使わずに撮影しようとした場合に、レディーライト ⚡ が点滅してフラッシュの使用をおすすめします。
しない	撮影状況にかかわらず、⚡ は点滅しません。

d12：MB-D80電池設定

すべての撮影モードで使えます。

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80に単3形電池（6本）を入れて使用するときに、カメラが電池残量をより正確に表示できるように、電池の種類を指定してください。ただし、Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e を使用時には設定する必要はありません。

MB-D80で使える単3形電池は、アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池です。以下の表に合わせて正しく設定してください。

- 電池設定を正しく設定していない場合、カメラが正常に作動しない恐れがあります。

	対応する電池
LR6 **アルカリ単3形電池**（初期設定）	アルカリ単3形電池
Ni-MH **Ni-MH単3形充電池**	ニッケル水素単3形充電池
FR6 **リチウム単3形電池**	リチウム単3形電池
ZR6 **ニッケルマンガン単3形電池**	ニッケルマンガン単3形電池（オキシライド乾電池、ニッケル乾電池を含む）

単3形電池の使用について

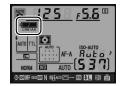
別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80に単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）を電源として使用するときは、次のことにご注意ください。

- アルカリ電池、ニッケルマンガン電池（オキシライド乾電池、ニッケル乾電池を含む）を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池、ニッケルマンガン電池は緊急用として使用してください。また、低温時は使用しないでください。
- 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
- 周囲の温度が20℃よりも低い環境では、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- 単3形電池を使っているときは、表示パネルとファインダー内の電池残量表示は次のようになります。

表示パネル	ファインダー	意味
[電池アイコン]	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
[電池アイコン]	[電池アイコン]	バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
[電池アイコン]（点滅）	[電池アイコン]（点滅）	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換してください。

マルチパワーバッテリーパックMB-D80について

- 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D80 では、カメラに付属の Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3eの他に、単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）が使えます。
- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80をカメラに装着すると、情報画面のMB-D80のバッテリー種別表示は、使用しているバッテリーにより以下のように変わります。

MB-D80のバッテリー種別表示	MB-D80で使用しているバッテリー
[電池アイコン]	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e
[電池アイコン]	単3形電池

- 単3形電池を電源として使用した場合、電池残量が減るとともに連続撮影速度が遅くなります。

e：フラッシュ・BKT撮影

e1：フラッシュ時シャッタースピード制限

撮影モード**P**、**A** で使えます。

撮影モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を、［**1/60秒**］（初期設定）～［**30秒**］の範囲で1段刻みで設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や撮影モードが**S**、**M**の場合には、シャッタースピードの低速側の制限が自動的に30秒まで延長されます。

e2：内蔵フラッシュ発光

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** で使えます。

内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL⚡	**TTLモード**（初期設定）	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M⚡	**マニュアル発光モード**	指定した発光量で内蔵フラッシュが発光します。モニター発光は行いません。詳しくはP.195をご覧ください。
RPT⚡	**リピーティング発光モード**	1回の露光中に、内蔵フラッシュを繰り返し連続発光させます。被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込みます。詳しくはP.195をご覧ください。
C⚡	**コマンダーモード**	内蔵フラッシュを、カメラから離れた別売のスピードライト（SB-800など）をワイヤレス制御するためのコマンダーとして利用します。詳しくはP.196をご覧ください 。

調光補正マークの表示について

［**マニュアル発光モード**］、［**リピーティング発光モード**］にすると、表示パネルとファインダー内表示に⚡マークが点滅します。

内蔵フラッシュの発光方式について

内蔵フラッシュの発光方式は、情報画面のフラッシュモードで確認できます。

別売スピードライトSB-400を装着している場合について

- 別売スピードライトSB-400を装着してスピードライトの電源をONにすると、カスタムメニューe2［**内蔵フラッシュ発光**］がe2［**外付けフラッシュ発光**］に変わり、SB-400の発光方式を［**TTLモード**］または［**マニュアル発光モード**］に設定できます。［**リピーティング発光モード**］と［**コマンダーモード**］は選択できません。

情報画面のフラッシュモードについて

情報画面のフラッシュモードでは、内蔵フラッシュや別売のスピードライト使用時の発光方式が、次のように表示されます。内蔵フラッシュの発光方式は、カスタムメニュー e2［**内蔵フラッシュ発光**］で設定できます（P.193）。

	i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光		外部自動調光※		マニュアル発光	
	内蔵 フラッシュ	スピード ライト （別売）	内蔵 フラッシュ	スピード ライト （別売）	内蔵 フラッシュ	スピード ライト （別売）
通常発光	TTL	TTL	—			
FP発光 （P.203）	—	TTL FP	—	FP	—	FP
リピーティング 発光	—	—	—	—	RPT	RPT
コマンダー モード	TTL CMD	TTL CMD	—	CMD	CMD	CMD

※SB-900、SB-800使用時のみ。

マニュアル発光モード

［**Full**］（フル発光）のほか、［**1/1.3**］～［**1/128**］の21段階の発光量を選べます。

- ［**Full**］（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約18（ISO200・m、20℃）となります。

リピーティング発光モード

［**リピーティング発光モード**］を選ぶと、右のような画面が表示されます。

マルチセレクターの◀または▶で［**発光量**］、［**回数**］、［**間隔**］の各設定項目を切り換え、▲または▼で数値を設定してください。

発光量	1回あたりの発光量を設定します。発光量は、1/4～1/128の6段階で設定できます。
回数	1回の露光中に発光する回数を設定します。設定できる発光回数は、発光量によって変わります。
間隔	発光間隔を、Hz（ヘルツ；1秒あたりの発光回数）単位で設定します。設定できる発光間隔は1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、20、30、40、50Hz のいずれかです。

リピーティング発光モードの発光回数について

- ［**回数**］で設定する数値は、最大の発光回数です。シャッタースピードを高速にしたり、発光間隔を長くすると、実際の発光回数は設定よりも少なくなることがあります。
- 設定できる発光回数は、［**発光量**］によって次のように変わります。

発光量	回数													
	2	**3**	**4**	**5**	**6**	**7**	**8**	**9**	**10**	**15**	**20**	**25**	**30**	**35**
1/4	○													
1/8	○	○	○	○										
1/16	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
1/32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1/64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1/128	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

▮▮コマンダーモード

内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、カメラから離れた別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、リモートスピードライトSB-R200 で構成される補助灯グループを、ワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング）で制御するためのモードです。

内蔵フラッシュ、2つの補助灯グループスピードライトのそれぞれに、発光モードと、調光補正量（または発光量）を設定できます。

［**コマンダーモード**］を選ぶと、右のような画面が表示されます。

マルチセレクターの◀または▶で項目を切り換え、▲または▼で発光モードや補正量（または発光量）を設定してください。

<table>
<tr><th></th><th>発光モード</th><th>内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">内蔵フラッシュ</td><td>TTL</td><td>内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。右側の［補正量］欄で、内蔵フラッシュの調光補正量を設定（1/3 段ステップで± 3 段）してください。</td></tr>
<tr><td>M</td><td>内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。右側の［補正量］欄で、内蔵フラッシュの発光量を［1/1］（フル発光）、または［1/1.3］〜［1/128］から選んでください。</td></tr>
<tr><td>– –</td><td>内蔵フラッシュは発光せず、補助灯だけが発光します。ただし、撮影時にモニター発光を行えるよう、⚡ボタンを押して内蔵フラッシュを上げておいてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Aグループ</td><td>TTL</td><td>A グループの全ての補助灯が、i-TTL調光を行います。右側の［補正量］欄で、A グループの補助灯の調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）してください。</td></tr>
<tr><td>AA※</td><td>Aグループの全ての補助灯が、絞り連動外部自動調光を行います。右側の［補正量］欄で、A グループの補助灯の調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）してください。</td></tr>
<tr><td>M</td><td>Aグループの全ての補助灯が、マニュアル調光を行います。右側の［補正量］欄で、A グループの補助灯の発光量を［1/1］（フル発光）、または［1/1.3］〜［1/128］から選んでください。</td></tr>
<tr><td>– –</td><td>A グループの補助灯は発光しません。</td></tr>
<tr><td>Bグループ</td><td colspan="2">Bグループの補助灯について、A グループと同様の設定を行います。</td></tr>
<tr><td>チャンネル</td><td colspan="2">補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1〜4のいずれかに設定します。全ての補助灯のチャンネルを、ここで設定したチャンネルに合わせる必要があります。</td></tr>
</table>

※ SB-900、SB-800の場合のみ発光します。

コマンダーモードでの撮影手順は、次のとおりです。

1 右の画面で、［内蔵フラッシュ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

- 発光モードを［– –］（非発光）にした場合は、［**補正量**］が設定できません。

2 同様に［A グループ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

3 Bグループの補助灯を使用する場合は、同様に［Bグループ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

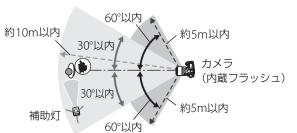
4 ［チャンネル］を設定する

5 ⓀボタンをⓀ押して設定を有効にする

6 構図を決め、カメラと補助灯（別売のスピードライト）を配置する

- 補助灯は下図の範囲内に配置してください。

補助灯のワイヤレスリモートセンサー窓をカメラ側に向けて配置してください。

- 角度60°以内の場合：約5m以内
- 角度30°以内の場合：約10m以内

- 周辺環境により、上図内の距離は多少変化します。

7 使用する全ての補助灯の電源をON にし、グループとチャンネルを設定する

- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同じチャンネル（1～ 4）に設定してください。

8 ⚡ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュの［**発光モード**］を［**– –**］に設定した場合も、撮影時にモニター発光を行えるよう、内蔵フラッシュを上げておいてください。

9 カメラのファインダー内表示と全ての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影する

- コマンダーモードはFV ロック（P.206）と組み合わせて撮影することもできます。

☑ コマンダーモードについてのご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュのモニター発光の光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、モニター発光の光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（［**TTL**］設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（［**AA**］設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3 台程度が限度です。
- ［**内蔵フラッシュ**］の［**発光モード**］を［– –］にした場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影するか、別売の内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

内蔵フラッシュを発光させない場合の表示について

手順1で［**内蔵フラッシュ**］の［**発光モード**］を［– –］にして内蔵フラッシュを上げると、表示パネルのフラッシュモード表示から⚡が消灯します。

コマンダーモード時の調光補正と表示について

- コマンダーモード時に、⚡☒（⚡） ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、［**内蔵フラッシュ**］、［**A グループ**］、「**B グループ**」のそれぞれの［**補正量**］に加算されます。
- ［**内蔵フラッシュ**］を［**TTL**］にして、［**補正量**］を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に⚡☒が点灯します。
- ［**内蔵フラッシュ**］を［**M**］に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に⚡☒が点滅します。

e3：モデリング発光

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** で使えます。

内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600またはリモートスピードライトSB-R200使用時にカメラのプレビューボタンで、プレビュー動作（P.84）とともに、陰影を把握するためのモデリング発光を行うかどうかを設定します。

する	内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600またはリモートスピードライトSB-R200使用時にプレビューボタンを押すと、プレビュー動作（P.84）とともに、陰影を把握するためのモデリング発光します。
しない （初期設定）	モデリング発光しません。

e4：オートブラケティングのセット

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** で使えます。

初期設定の［**AE・フラッシュブラケティング**］（P.94）以外に、次のブラケティング撮影を行うことができます。［**AEブラケティング**］と［**フラッシュブラケティング**］はそれぞれ、露出値だけをずらすか、フラッシュの発光量だけをずらすかが異なるだけで、撮影手順などは［**AE・フラッシュブラケティング**］と同様です。

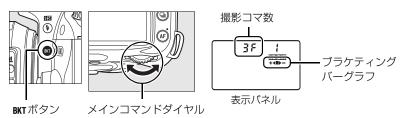
AE⚡	**AE・フラッシュブラケティング** （初期設定）	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AE	**AEブラケティング**	露出値を変えながら撮影します。
⚡	**フラッシュブラケティング**	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。 フラッシュの発光モードが「i-TTL調光」（P.249、284）または「絞り連動外部自動調光」（P.249、別売のスピードライトSB-900、SB-800使用時のみ）に使用できます。
WB	**WBブラケティング** （P.200）	1回の撮影でホワイトバランス（WB）を変えた画像を記録します。 複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに便利です。画質モードが［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］、［**RAW**］のときは、WBブラケティングは使用できません。
ADL	**ADLブラケティング** （P.202）	アクティブD-ライティング（P.122）を設定していない画像と設定した画像を続けて撮影します。

WBブラケティング撮影の方法

1 カスタムメニュー e4［オートブラケティングのセット］で［WBブラケティング］を選ぶ

2 撮影コマ数を設定する

- BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの撮影コマ数とブラケティングバーグラフの表示が変化します。設定したい撮影コマ数に合わせてください。

ファインダー表示

3 補正ステップを設定する

- BKT ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの補正ステップ表示が変化します。設定したい補正ステップに合わせてください。

- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります（P.99）。

- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	WB ブラケティングインジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
0F 1		0	1段	0
b2F 1	+◀■	2	B方向1段	0/B1
A2F 1	■▶−	2	A方向1段	0/A1
3F 1	+◀■▶−	3	各方向1段	0/A1/B1

4 撮影する

- シャッターを1回きると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整にしていた場合は、微調整にWBブラケティングの補正段数が加算されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルおよびファインダー内表示の記録可能コマ数表示が点滅し、シャッターがきれません。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。

WBブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を0Fにしてください（WB-BKTマークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記録されます。また、ツーボタンリセット（P.78）でも解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

✔ WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

✔ WBブラケティング撮影について

- WB ブラケティングでは、色温度（A（アンバー）から B（ブルー）への横方向）の補正のみを行います（P.99）。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時（P.67）には、1回のセルフタイマー撮影で設定された撮影コマ数が全て記録されます。

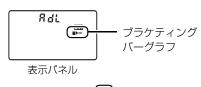
関連ページ

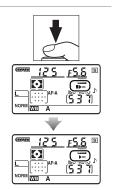
「ミレッド（MIRED）について」（P.100）

ADLブラケティングの撮影方法

1 **カスタムメニュー e4［オートブラケティングのセット］で［ADLブラケティング］を選ぶ**

2 **ブラケティングバーグラフを表示させる**

- BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルにブラケティングバーグラフが表示されます。

3 **構図を決めて1コマ目を撮影し、続けて2コマ目を撮影する**

- 初期設定では、「補正無し」→「補正あり」の順に撮影されます。
- 表示パネルのブラケティングバーグラフは、「補正無し」となるコマを撮影すると ■ が、「補正あり」のコマを撮影すると ▶━ が消灯します。
-「補正あり」は、撮影メニューの［**アクティブD-ライティング**］（P.122）で設定している効果の度合いになります。

ADLブラケティング撮影について

- ［**ピクチャーコントロール**］（P.110）の［**コントラスト**］と［**明るさ**］のレベル調整は選択できません。
- アクティブD-ライティングを設定して高感度で撮影をするとき、撮影シーンによっては、ざらつき、すじ、むらが強調される場合があります。
- 撮影モードが **M**のときは、［**オート**］に設定していても［**標準**］相当の度合いに固定されます。

ブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルのブラケティングバーグラフを消してください（BKT が消灯します）。

e5：オートFP撮影

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** で使えます。

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応のスピードライト装着時に、シャッタースピードが1/200秒よりも速くなると、自動的にFP発光に切り換えます。オートFP撮影では、シャッタースピードが1/200 秒に制限されることなく、1/4000秒までの高速シャッタースピードを使用したスピードライト撮影を行うことができます。日中でのポートレート撮影でもレンズの絞りを開放側にすることができるので、背景をぼかした撮影が可能です。内蔵フラッシュ発光時は、FP 発光は行われません。

する	シャッタースピードが1/200秒よりも速くなると、自動的にFP発光に切り換えます。
しない（初期設定）	FP発光はしません。

e6：BKTの順序

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** で使えます。

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

N	**［0］→［−］→［+］**（初期設定）	「補正なし」→「−側に補正」→「＋側に補正」の順に撮影されます。詳しくはP.94、283をご覧ください。 • WBブラケティングの場合は、「補正なし」→「A方向に補正」→「B方向に補正」の順になります（P.201）。
−→+	**［−］→［0］→［+］**	「−側に補正」→「補正なし」→「＋側に補正」の順になります。 • WBブラケティングの場合は、「A方向に補正」→「補正なし」→「B方向に補正」の順になります。

f：操作

f1：☀ スイッチの機能

すべての撮影モードで使えます。

電源スイッチを☀ マークまで回したときの機能を設定できます。

☀　**☀ の点灯/消灯**（初期設定）	表示パネルを約6秒間（初期設定）照明します。
☀info　**☀ と情報画面の点灯/消灯**	表示パネルの照明と情報画面の表示を行います。

f2：OKボタンの機能（撮影モード）

すべての撮影モードで使えます。

撮影時にⓀボタンを押したときの機能を変更できます。

フォーカスポイント中央リセット（初期設定）	Ⓚボタンを押すと、中央のフォーカスポイントを選択します。
選択フォーカスポイント表示	Ⓚボタンを押すと、選択されているフォーカスポイントが点灯します。
使用しない	Ⓚボタンは、撮影時には機能しません。

f3：ファンクションボタンの機能

すべての撮影モードで使えます。

Fnボタンを押したときの機能を設定できます。

Fnボタン

	格子線表示/非表示切り換え	**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ファインダーの格子線表示と非表示を切り換えます（P.187）。
	AFエリアモード設定	**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、AFエリアモード（P.179）が切り換わります。
	中央フォーカスポイントフレーム	**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、中央フォーカスポイントのノーマルフレームとワイドフレームが切り換わります（P.180）。
	FV-L （初期設定）	内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、またはリモートスピードライトSB-R200使用時に**Fn**ボタンを押すと、FVロック（P.206）が行われます。もう一度押すと解除されます。
	フラッシュ発光禁止	**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、内蔵フラッシュや別売スピードライト（P.247）が発光せずにシャッターがきれます。
	マルチパターン測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モード（P.89）がマルチパターン測光に切り換わります（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）。
	中央部重点測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）。
	スポット測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）。
	マイメニューのトップ項目先へジャンプ	**Fn**ボタンを押すと、マイメニューの最上位に登録した項目先へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
+RAW	**プラスRAW記録**	画質モードがFINE、NORMAL、BASIC の場合、**Fn**ボタンを押すと表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像を同時記録します。シャッターをきるか、もう一度**Fn**ボタンを押すか、電源をOFFにすると解除されます。

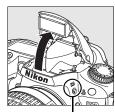
■調光量を固定して撮影する（FVロック）

フラッシュの調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニュー f3［ファンクションボタンの機能］（P.205）を、［FV-L］に設定する

2 内蔵フラッシュを上げる

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で、別売スピードライトを装着していないときは、⚡ボタンを押すと、内蔵フラッシュが上がり、フラッシュの充電が開始します。
- 撮影モード AUTO、👤、🌷、📷では、シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がります。

フラッシュモードボタン

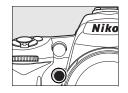
3 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

FVロックに使用するボタンについて

ここでは、ファンクションボタンでFVロックを行う方法について説明しています。カスタムメニュー f4［**AE/AFロックボタンの機能**］（P.208）を［**FVロック**］にすると、**Fn**ボタンの代わりにAE/AFロックボタンでFVロックを行うこともできます。

4 モニター発光を行う

- ファインダー内表示に⚡が点灯していることを確認し、**Fn**ボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示に （FVロック）マークが表示されます。

5 構図を変更する

6 撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

7 FVロックを解除する

- 再度**Fn**ボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示の が消灯します。

内蔵フラッシュのFV ロックについて

内蔵フラッシュだけを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックはカスタムメニューe2［**内蔵フラッシュ発光**］（P.193）が［**TTL モード**］（初期設定）に設定されている場合のみ機能します。

別売スピードライトでのFVロックについて

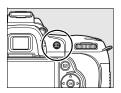
別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200使用時も、FVロックを行うことができます。この場合、SB-900、SB-800の発光モードをTTLまたはAAに、SB-600の発光モードをTTLに設定してください（詳しくはそれぞれのスピードライトの使用説明書をご覧ください）。FVロック中に、SB-900、SB-800、SB-600のズーム位置を変更しても、スピードライトの発光量が補正されることにより、FVロックは維持されます。

カスタムメニューe2［**内蔵フラッシュ発光**］（P.193）を［**コマンダーモード**］にして、SB-900、SB-800、SB-600、SB-R200を補助灯として用いる場合、［**コマンダーモード**］の設定画面で次のいずれかを行うことによりFVロックを使用できます。

- 内蔵フラッシュ、Aグループ、Bグループのうち、いずれかの［**発光モード**］を［**TTL**］にする
- 補助灯がSB-900、SB-800のみで構成されているグループがある場合は、そのグループの［**発光モード**］を［**TTL**］または［**AA**］にする

f4：AE/AFロックボタンの機能

すべての撮影モードで使えます。

AE/AFロックボタンを押したときの機能を設定できます。

	AE-L/AF-L（初期設定）	AE/AFロックボタンを押すと、AEロック（P.90）とフォーカスロック（P.57）が同時に行われます。
	AE-L	AE/AFロックボタンを押すと、AEロックだけが行われます。
	AF-L	AE/AFロックボタンを押すと、フォーカスロックだけが行われます。
	AE-L（ホールド）	AE/AFロックボタンを押すと、カメラが待機状態に入るか、もう一度 ボタンを押すまで、AEロックが維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。
AF-ON	**AF-ON**	AE/AFロックボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。
	FV-L	内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、リモートスピードライトSB-R200使用時にAE/AFロックボタンを押すと、FVロック（P.206）を行い、もう一度押すと解除します。

f5：コマンドダイヤルの設定

すべての撮影モードで使えます。

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

■回転方向の変更

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの回転方向を逆方向に変更できます。

する	逆方向の回転操作となります。
しない（初期設定）	通常通りの回転操作となります。

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80のコマンドダイヤルの回転方向も、同時に変更されます。

▌メインとサブの入れ換え

シャッタースピードを設定するメインコマンドダイヤルと、絞り値を設定するサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。

する	メインコマンドダイヤルで絞りを、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。
しない （初期設定）	メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞りを設定します。

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80の縦位置メインコマンドダイヤルと縦位置サブコマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

▌再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセレクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する （初期設定）	**再生時**： • 1 コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルで画像情報の表示ページを切り換えます。 • サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、選択した画像が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、上下に移動します。 **メニュー画面表示時**※： メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。
ON **する（撮影後確認時を除く）**	［**する**］と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセレクターを操作して行います。

※サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、OKボタンか、マルチセレクターの▶を押してください。

f6：カードなし時レリーズ

すべての撮影モードで使えます。

カメラにSDカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

LOCK レリーズ禁止（初期設定）	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK レリーズ許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。ただし、SDカードが入っていないときに撮影した画像は、液晶モニターに表示されますが、画像上に［デモモード］と表示され、プリントやSDカードへの保存はできませんのでご注意ください。

- 別売のCamera Control Pro 2使用時には、記録先がパソコンになるため、［**レリーズ禁止**］でSDカードを入れていなくても、シャッターをきることができます。

f7：インジケーター表示の＋/－方向

すべての撮影モードで使えます。

ファインダー内表示、情報画面（info）での露出、露出補正の＋と－方向を入れ換えることができます。

＋0－ （初期設定）	インジケーターの＋側を左に、－側を右に表示します。
－0＋	インジケーターの－側を左に、＋側を右に表示します。

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定

セットアップメニューには次の項目があります。

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。マルチセレクターの◀を押して画面左側のタブへ移動して、▲または▼を押してセットアップメニューを表示します。
- メニューの操作方法についてはP.18をご覧ください。

メニュー項目	ページ
カードの初期化（フォーマット）	P.211
液晶モニターの明るさ	P.211
イメージセンサークリーニング	P.258
クリーニングミラーアップ※1	P.260
ビデオ出力	P.212
HDMI	P.212
ワールドタイム	P.213
言語（Language）	P.213
画像コメント	P.214
縦横位置情報の記録	P.215
イメージダストオフデータ取得	P.216
電池チェック	P.218
GPS	P.127
Eye-Fi送信機能※2	P.219
ファームウェアバージョン	P.219

※1 バッテリー残量表示が▭以下のときは選べません。
※2 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ、表示されます。

カードの初期化（フォーマット）

SDカードを初期化（フォーマット）します。**初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。

カードの初期化についてのご注意

［カードの初期化（フォーマット）中です。］のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、SDカードを取り出さないでください。

ボタン操作による初期化

FORMATボタン（🗑ボタンと⊡ボタンの2つを約2秒間同時に押す）を操作して初期化することもできます（P.30）。

液晶モニターの明るさ

液晶モニターの明るさを、マルチセレクターの▲または▼を押して－3～＋3の7段階で調整できます。＋にすると明るく、－にすると暗くなります。

イメージセンサークリーニング

撮像素子上のローパスフィルター表面に付いたゴミをカメラが自動で取り除きます（P.258）。

クリーニングミラーアップ

撮像素子上のローパスフィルターの汚れを調べたり、ブロアーなどを使って手動でクリーニングするために、ミラーを上げた状態で固定します。詳しくは「付録」の「ローパスフィルターのお手入れ」（P.260）をご覧ください。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を設定します。通常、日本国内では「NTSC」（初期設定）にします。

NTSC（初期設定）	NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。通常、日本国内でご使用の場合は、こちらを選択します。
PAL	PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。通常、日本では使用されません。

HDMI

HDMI端子を備えたハイビジョンテレビやモニターへの出力方式を設定できます。

AUTO **オート**（初期設定）	出力先の映像信号形式を自動的に検出します。
480p **480p（プログレッシブ）**	640×480 pixelのプログレッシブ出力方式です。
576p **576p（プログレッシブ）**	720×576 pixelのプログレッシブ出力方式です。
720p **720p（プログレッシブ）**	1280×720 pixelのプログレッシブ出力方式です。
1080i **1080i（インターレース）**	1920×1080 pixelのインターレース出力方式です。

- 画像をHDMIで再生しているときは、カメラの液晶モニターでは再生できません。

HDMIとは

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。D90では市販のHDMIミニ端子ケーブル（Type C）を使ってHDMI対応機器と接続できます。

ワールドタイム

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。日時設定の手順については、「日付と時刻を設定する」をご覧ください（P.27）。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	［**現在地の設定**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は［**する**］に、そうでない場合は［**しない**］に設定します。［**する**］にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は［**しない**］です。

☑ 時計用電池についてのご注意

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のACアダプター EH-5/EH-5aを接続すると、時計用電池が充電されます。充電には約2日間かかり、約3ヶ月間、設定した日時を記憶することができます。表示パネルに CLOCK マークが点滅した場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください（CLOCK マークの点滅中は、「2008.01.01.00：00：00」からカウントされた日時になります）。

言語（Language）

メニュー画面やメッセージの表示言語を、次の中から選べます。

Dk	**Dansk**	デンマーク
De	**Deutsch**	ドイツ語
En	**English**	英語
Es	**Español**	スペイン語
Fi	**Suomi**	フィンランド語
Fr	**Français**	フランス語
It	**Italiano**	イタリア語
Nl	**Nederlands**	オランダ語
No	**Norsk**	ノルウェー語
Pl	**Polski**	ポーランド語
Pt	**Português**	ポルトガル語
Ru	**Русский**	ロシア語
Sv	**Svenska**	スウェーデン語
繁	**中文(繁體)**	繁体中国語
简	中文(简体)	簡体中国語
日	**日本語**	日本語
한	**한글**	韓国語

画像コメント

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属のViewNXや別売のCapture NX 2（P.254）の撮影情報表示エリアに表示されます。

■コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選ぶと、画像コメントの入力画面が表示されます。コメントを入力し、㊋ボタンを押すと、コメントが登録されます。入力画面での文字の入力方法については、［**記録フォルダー選択**］の［**新規作成**］をご覧ください（P.174）。

■コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、［**コメント添付**］を選んでマルチセレクターの▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。［**設定終了**］を選んで㊋ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。

画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報3」の「画像コメント」に表示されます（P.135）。

縦横位置情報の記録

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する （初期設定）	液晶モニターや、付属のViewNXまたは別売のCapture NX 2（P.254）で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。 記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3 種類です。 横位置 縦位置 時計回りに90°回転 縦位置 反時計回りに90°回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

縦横位置情報記録についてのご注意

- レリーズモードがH（高速連続撮影）またはL（低速連続撮影）（P.65）の場合、最初の1コマを撮影した姿勢が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、縦横位置情報には反映されません。
- カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

再生メニュー［縦位置自動回転］

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（P.168）では、［**縦横位置情報の記録**］を［**する**］に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

イメージダストオフデータ取得

別売のCapture NX 2（P.254）の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子上にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX 2 の使用説明書をご覧ください。

イメージダストオフデータ取得の手順

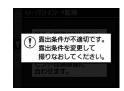
1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- ［**開始**］を選んで㊙ボタンを押すと、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。
- ［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選んで㊙ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。
- 液晶モニターと表示パネル、ファインダー内表示に、右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、MENUボタンを押してください。

2 レンズ先端から10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影する

- 被写体が暗いとき、ノイズ低減が自動的に実行される場合があります。その場合、SDカードへの記録に時間がかかることがあります。
- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

☑ イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、Capture NX 2のイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択後に撮影することをおすすめします。

☑ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、［**イメージダストオフデータ取得**］を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします（P.242）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。

電池チェック

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。

残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	バッテリーを充電してから、そのバッテリーを使ってシャッターをきった回数が表示されます。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが5 段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」（NEW）のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」（）のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

［**撮影回数**］に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がSDカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

マルチパワーバッテリーパックMB-D80 装着時の表示について

別売のバッテリーパックMB-D80 を装着している場合は、バッテリーパックに装填しているバッテリー（または電池）の種類と数量によって、「電池チェック」の表示内容が以下のようになります。

種類	数量	表示の内容
EN-EL3e	1 個	「左スロット」または「右スロット」にバッテリーの情報が表示されます。
EN-EL3e	2 個	それぞれのバッテリーの情報が「左スロット」、「右スロット」に並記されます。
単3形電池	6本	残容量のみ表示します。

GPS

GPS機器を接続したときの半押しタイマーの動作の設定と、取得したGPS情報の表示を行います（P.127）。

Eye-Fi送信機能

このカメラでは、市販のEye-Fiカードが使用できます。ただし、電波の状態が悪い場合には、送信できないこともあります。電波の出力が禁止されている場所では、設定を［**無効**］にしてください。

- この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ、このメニューが表示されます。
- Eye-Fiカードは、アメリカ国内でのみ使用が認められています（2008年9月現在）。使用する地域の法律に従ってご使用ください。

有効	カメラで作成したJPEG画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

対応しているEye-Fiカードについて

このカメラは、次のEye-Fiカードに対応しています。Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてご使用ください。

- Eye-Fi Card 2GB
- Eye-Fi Home 2GB
- Eye-Fi Share 2GB
- Eye-Fi Explore 2GB

ファームウェアバージョン

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像に、さまざまな特殊効果を加えたり、必要な部分だけの切り抜きをするなどの編集を行えます。画像編集を行うと、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。画像編集メニューには、次の項目があります。

- カメラに SD カードが入っていない場合や SD カードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューは表示されません。
- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。マルチセレクターの◀を押して画面左側のタブへ移動して、▲または▼を押して画像編集メニューを表示します。
- メニューの操作方法についてはP.18をご覧ください。

メニュー項目	ページ
D-ライティング	P.223
赤目補正	P.224
トリミング	P.225
モノトーン	P.226
フィルター効果	P.227
カラーカスタマイズ	P.228
スモールピクチャー	P.228
画像合成	P.230
RAW現像	P.232
簡単レタッチ	P.234
傾き補正	P.234
ゆがみ補正	P.235
魚眼効果	P.235
編集前後の画像表示	P.236

画像編集について

- D90以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、D90では再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまま20 秒（初期設定）経過すると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニュー c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（P.186）の［**メニュー表示**］の時間を長く設定することをおすすめします。

画像編集メニューの操作手順

画像編集を行うには、

① 画像を選んでからメニュー項目を選ぶ

② メニュー項目を選んでから画像を選ぶ

の2通りの手順があります。ただし、［**編集前後の画像表示**］（P.236）は①のみ、［**画像合成**］（P.230）は手順②のみの操作手順になります。

■手順①：画像を選んでからメニュー項目を選ぶ

画像編集メニューの［**モノトーン**］を例にして、操作手順を説明します。

1　1コマ表示モード（P.130）で編集したい画像を選ぶ

2　Ⓞボタンを押す

- 画像編集メニューが表示されます。

3　メニュー項目を選ぶ

- マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選んで▶を押すと、選んだ項目の編集画面が表示されます。
- 編集画面の操作方法については、各項目の説明をご覧ください。
- メニュー項目によっては、さらに詳細なメニューが表示される場合があります。
- 画像編集を途中でやめるには、▶ボタンを押してください。1コマ表示モードに戻ります。

4　編集した画像を記録する

- Ⓞボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には☑が付きます。

■手順②：メニュー項目を選んでから画像を選ぶ

画像編集メニューの［**モノトーン**］を例にして、操作手順を説明します。

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選んで▶を押します。
- 画像の選択画面が表示されます。
- メニュー項目によっては、さらに詳細なメニューが表示される場合があります。

2 画像を選ぶ

- マルチセレクターを押して画像を選びます。
- ⊕ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

3 編集画面を表示させる

- 画像を選んで㊍ボタンを押すと、編集画面が表示されます。
- 編集画面の操作方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENUボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- ㊍ボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には☑が付きます。

画質モードと画像サイズについて

- ［**D-ライティング**］、［**赤目補正**］、［**モノトーン**］、［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］、［**簡単レタッチ**］、［**傾き補正**］、［**ゆがみ補正**］、［**魚眼効果**］で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE**］、［**画像サイズ**］が［**サイズL**］のJPEG画像を作成します。
- ［**トリミング**］で作成した画像については、P.225をご覧ください。

✔ 繰り返し画像編集を行う場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（[**画像合成**］を除く）。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。繰り返し編集できない組み合わせは次の通りです。

1回目の画像編集	画像編集できないメニュー
D-ライティング	簡単レタッチ
トリミング	全画像編集メニュー
モノトーン	D-ライティング、赤目補正、フィルター効果（クロススクリーンを除く）、カラーカスタマイズ、簡単レタッチ
フィルター効果（クロススクリーンを除く）	フィルター効果（クロススクリーン以外）
スモールピクチャー	全画像編集メニュー
簡単レタッチ	D-ライティング

- ［**RAW現像**］の［**ピクチャーコントロール**］を［**モノクローム**］にしてRAW現像した画像や、撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］（P.169）を［**モノクローム**］にして撮影した画像に対して、［**D-ライティング**］、［**赤目補正**］、［**モノトーン**］、［**クロススクリーン**］以外の［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］、［**簡単レタッチ**］の画像編集を行うことはできません。

D-ライティング

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。

D-ライティング前

D-ライティング後

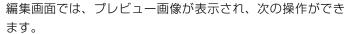
編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの▲または▼を押して、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階から選びます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- ㊙ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

拡大率を上げる		ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。	
拡大率を下げる		プレビュー画像の拡大再生中は、ボタンを押すごとに、プレビュー画像の拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）する		プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、再度操作すると表示されます。
拡大表示を終了する		拡大表示中にOKボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を保存する		補正した画像が記録されます。	

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。
  赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする		ボタンを押すごとに枠が小さくなります。 • トリミングで切り抜かれる範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		ボタンを押すごとに枠が大きくなります。 • トリミングで切り抜かれる範囲は広くなります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、縦横比を3：2、4：3、5：4に変更できます。
画面をスクロール（移動）する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。画面をスクロールさせて、切り出したい部分をプレビュー画像に表示します。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

トリミング画像の画質モードと画像サイズについて

- トリミング画像の画質モード（P.62）は、元画像の画質モードが［**RAW**］、［**RAW+FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW+BASIC**］のときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比により、次のうちのいずれかになります。

アスペクト比	画像サイズ
3：2	3424×2280、2560×1704、1920×1280、1280×856、960×640、640×424
4：3	3424×2568、2560×1920、1920×1440、1280×960、960×720、640×480
5：4	3216×2568、2400×1920、1808×1440、1200×960、896×720、608×480

モノトーン

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

［**モノトーン**］を選ぶと、右のメニューが表示され次の色調を選ぶことができます。

白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

編集画面では、プレビュー画像を表示します。

濃くする

薄くする

- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整（3段階）できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- ㊍ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

フィルター効果

画像全体の色調を演出できます。

スカイライト	スカイライトフィルターと同様に、画像の青みを抑える効果があります。	 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。	
赤強調	赤色が強調されます。	 マルチセレクターで色の濃さを調整（3段階）できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。
緑強調	緑色が強調されます。	
青強調	青色が強調されます。	
クロススクリーン	クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋が伸びる効果があります。 • ［**光線の本数**］：光線の本数を、3 種類から選べます。 • ［**クロスの量**］：クロスフィルターがかかる光源の量を3段階から選べます。 • ［**光線の傾き**］：光線の傾きを3段階から選べます。 • ［**光線の長さ**］：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。	 ［**確認**］を選んで㊀ボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。ボタンを押している間、1コマ表示モードと同じ大きさで画像を確認できます。保存する場合は［**保存**］を選んで㊀ボタンを押してください。

• ㊀ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

カラーカスタマイズ

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセレクターで画像全体の色調を調整できます。▲▼◀▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。

色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム（色の分布図：P.132）に反映されます。

• ㊋ボタンを押すと、編集した画像を記録します。

プレビュー画像の拡大表示について

調整画面で拡大ボタンを押すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。拡大表示中に ?/⊶ ボタンを押すと、色調の調整と拡大表示の操作を切り換え、通常の拡大表示（P.140）と同じように操作することができます。

スモールピクチャー

小さいサイズの画像（スモールピクチャー）を作成します。

［**スモールピクチャー**］では、作成する画像の大きさ（ピクセル数）を次の中から選べます。

640×480	テレビでの表示に適しています。
320×240	ホームページでの使用に適しています。
160×120	電子メールへの添付に適しています。

1コマ表示モードで画像を選んでから［**スモールピクチャー**］を実行する手順は、P.221と同様の操作ですが、MENUボタンを押して画像編集メニューを選ぶと、複数の画像のスモールピクチャーを作成できます。

■複数の画像を選んでスモールピクチャーを作成する手順

1 **画像編集メニュー画面で［スモールピクチャー］を選ぶ**

2 マルチセレクターの▲または▼で［画像サイズの設定］を選ぶ

- ▶を押すと、画像サイズの選択画面が表示されます。

3 作成したいサイズを選ぶ

- ▲または▼で、作成したいサイズを選びます。

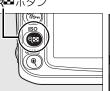
- ㊍ ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

4 ［画像選択］を選ぶ

- ▶を押すと、画像選択画面が表示されます。

5 スモールピクチャーを作成する画像を選ぶ

- ボタンを押して設定します。設定するとアイコンが表示されます。

- ㊊ ボタンを押すと、確認画面が表示されます。

6 ▲または▼で、[はい] を選ぶ

- ㊊ ボタンを押すと、スモールピクチャーが記録され、再生画面表示になります。
- キャンセルして手順5に戻るには、[**いいえ**] を選んで㊊ボタンを押してください。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るには、MENU ボタンを押してください。

スモールピクチャーについてのご注意

- スモールピクチャーは1コマ表示モード、サムネイル表示モードや、画像選択画面で、グレーの枠付きで表示されます。
- スモールピクチャーは拡大表示できません。

画像合成

SDカードに記録されているRAW 画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。
画像合成の手順は次の通りです。

1 [画像合成] を選ぶ

- [**画像合成**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右のような画面が表示され、[**画像1**] 欄がハイライト表示されます。

2 RAW画像を一覧表示する

- ㊊ボタンを押すと、RAW画像のサムネイル一覧が表示されます。

3 合成する画像の1 コマ目を選ぶ

- ▲▼◀▶で1コマ目の画像を選びます。
- 🔍ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。

4 1コマ目の画像を決定する

- ㊹ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、［**画像1**］欄にプレビューが表示されます。

5 ［画像1］のゲイン（出力）を設定する

- 合成画像の明るさが適正になるように、▲または▼でゲインを設定します。
- ゲインは0.1 ～ 2.0 の範囲で、0.1 刻みで設定できます。

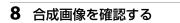
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。
- ［**プレビュー**］欄で、合成後のイメージを確認できます。

6 ［画像2］を選び、［画像1］と同様に、2 コマ目を選び、ゲインを設定する

- 手順2～5と同じ手順で［**画像2**］を設定します。

7 ［プレビュー］欄に移動する

- 画像1、画像2の設定が終わったら、◀または▶で［**プレビュー**］欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、［**保存**］を選んで㊹ボタンを押してください。

8 合成画像を確認する

- ［**合成**］を選び、㊹ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、🔍を押してください。手順7の画面に戻ります。

9 合成画像を保存する

- もう一度OKボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。

+
画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、D90で撮影したRAW 画像だけです。機種の異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 非表示設定されている画像は選べません。
- 合成画像の画質モード（P.62）と画像サイズ（P.63）は、合成時のカメラの設定になります（合成画像は全ての画質モード、画像サイズで保存できます）。画像合成を行う前に、これらの設定をご確認ください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、［**画像1**］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW現像する）

画質モード［**RAW**］または［**RAW+FINE**］、［**RAW+NORMAL**］、［**RAW+BASIC**］（P.62）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 ［RAW現像］を選んでマルチセレクターの▶を押す

- RAW画像がサムネイル表示されます。

2 RAW現像する画像を選ぶ

- ▲▼◀▶で1コマ目の画像を選びます。
- 画像を選んだら、OKボタンを押します。

3 ［画質モード］、［画像サイズ］、［ホワイトバランス］、［露出補正］および［ピクチャーコントロール］をそれぞれ設定する

- RAW現像では、次の項目を設定できます。

画質モード	画質モードを［**FINE**］、［**NORM**］、［**BASIC**］の中から選べます（P.62）。
画像サイズ	画像サイズを［**L**］、［**M**］、［**S**］の中から選べます（P.63）。
ホワイトバランス	ホワイトバランスを設定できます（P.97）。 • 設定したホワイトバランスはそれぞれ微調整できます（P.99）。
露出補正	画像の明るさを－3～＋3までの範囲で補正できます。
ピクチャーコントロール	ピクチャーコントロールを設定できます（P.110）。

4 RAW現像する

- ［**現像**］を選んで㊿ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存され、1コマ表示になります。
- キャンセルして画像編集メニューにもどるときは、MENUボタンを押してください。

RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、D90で撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- ［**画像合成**］で編集した画像には、［**ホワイトバランス**］を選べません。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（－3～＋3）は、通常の露出補正の段数とは異なります。

簡単レタッチ

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

マルチセレクターを▲または▼に押すと、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。

Ⓞボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

傾き補正

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

傾きを補正する	◀ OK ▶	マルチセレクターの▶を押すと時計回りに傾き、◀を押すと反時計周りに傾きます。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
傾き補正を実行して画像を保存する	OK	傾き補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[**オート**]を選ぶと選択した画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[**マニュアル**]を選ぶと自分でゆがみを補正できます。

- [**オート**]は、Gタイプ・Dタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。対応レンズにつきましては、カスタマーサポート（P.xix）のホームページのサポート情報をご覧ください。
- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

ゆがみを補正する	◀OK▶	• たる型のゆがみを補正するには、マルチセレクターの▶を押します。 • 糸巻き型のゆがみを補正するには、◀を押します。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する	OK	ゆがみ補正した画像が記録されます。

魚眼効果

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

魚眼効果を調節する	◀OK▶	マルチセレクターの▶を押すほど、魚眼効果は大きくなります。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
魚眼効果を実行して画像を保存する	OK	魚眼効果の画像が記録されます。

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。

■編集前後の画像表示方法

1　1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（☑が表示されている画像）または画像編集の元画像を選びます。
- 画像を選んで㊍ボタンを押すと、画像編集メニュー項目を表示します。

2　［編集前後の画像表示］を選ぶ

- ［**編集前後の画像表示**］を選んで㊍ボタンを押すと、［編集前後の画像表示］画面を表示します。

3　編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- 画像を囲んでいる黄色の枠上の矢印（▲▼◀ ▶）の方向にマルチセレクターを操作すると、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。

- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲または▼で編集後の画像を切り換えられます。
- ⊕ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ㊍ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

☑ 編集前後の画像表示についてのご注意

元画像にプロテクト（P.141）が設定されている場合や、元画像を削除した場合、編集前の画像には表示されません。

最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

最後に設定したメニュー項目から順番に20項目が自動的に表示されます。［**最近設定した項目**］は、［**このタブの機能変更**］からマイメニューに変更することもできます。

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。マルチセレクターの◀を押して画面左側のタブへ移動して、▲または▼を押して「最近設定した項目」を表示します。
- メニューの操作方法については、P.18をご覧ください。

「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。

「最近設定した項目」をマイメニューに変更する

1 ［最近設定した項目］画面で［このタブの機能変更］を選ぶ

- ［**このタブの機能変更**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 ［マイメニュー］を選ぶ

- ［**このタブの機能変更**］画面で［**マイメニュー**］を選んで、OKボタンを押します。
- ［**最近設定した項目**］が［**マイメニュー**］に切り替わります。
- マイメニューの操作方法は、P.238をご覧ください。

マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。マイメニューは、［**このタブの機能変更**］から「**最近設定した項目**」に変更することもできます。

• メニューの操作方法については、P.18をご覧ください。

マイメニューを登録する

1 ［マイメニュー］画面で［マイメニュー登録］を選ぶ

• マルチセレクターの▲または▼で［**マイメニュー登録**］を選んで、▶を押します。

2 登録したいメニューを選ぶ

• ▲または▼で登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。

3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

• ▲または▼でマイメニューに登録する項目を選んで㊋ボタンを押します。

4 登録する項目の表示位置を選ぶ

• ▲または▼で登録する項目の表示位置を選んで、㊋ボタンを押します。

5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

• ✔が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
• 左横に⊠が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
• 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録し㊋ボタンを押すと、マイメニューに一覧表示されます。

登録した項目を削除する

1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の削除］を選ぶ

- ［**登録項目の削除**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- ▶を押すと、項目の左側のチェックボックスが☑になります。
- 削除したい全ての項目に ✔ を入れます。

3 ［選択終了］を選ぶ

- ［**選択終了**］を選んでOKボタンを押すと、確認画面が表示されます。

4 選んだ項目を削除する

- OKボタンを押すと、選択した項目が削除されます。

登録した項目の表示順序を変える

1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の順序変更］を選ぶ

- ［**登録項目の順序変更**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、OKボタンを押します。

3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

- ▲または▼で移動したい位置を選んで、OKボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2〜3を繰り返します。

ボタン操作で登録した項目を削除するには

［**マイメニュー**］画面で削除したい項目を選んで🗑ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

資料

この章は次の9部で構成されています。

使用できるレンズ P.242
使用できるスピードライト（別売フラッシュ）.................... P.247
使用できるアクセサリー.. P.253
カメラのお手入れについて P.257
保管について P.257
クリーニングについて P.257
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意 P.262
カメラの取り扱い上のご注意.. P.262
バッテリーの取り扱いについて P.264
故障かな？と思ったら P.265
警告メッセージ.. P.271
資料集 P.276
主な仕様 P.286

使用できるレンズ

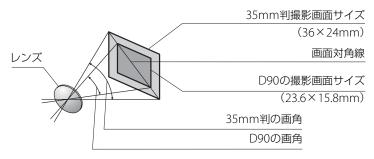
CPUレンズ、Gタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。とくにGタイプ・Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

CPUレンズにはCPU 信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。G タイプレンズには、絞りリングがありません。

レンズの画角と焦点距離について

D90ではさまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズが使用できます。ただし、これらのレンズをD90に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35 mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24 mm）に対して、D90の撮影画面（約23.6×15.8 mm）が小さいためです。

例：D90に24 mmのレンズを装着した場合の画角は、35 mm 判カメラ換算でおおよそ36 mmの焦点距離となります。

レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

使用できるCPUレンズ

レンズ ＼ モード		フォーカスモード			撮影モード		測光モード		
		オートフォーカス（AF）	フォーカスエイド	マニュアル（M）	M以外	M	マルチパターン測光		中央部重点測光/スポット測光
							3D-RGB	RGB	
CPUレンズ※1	Gタイプレンズ※2、Dタイプレンズ※2、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	×	○※3
	PC-E NIKKOR シリーズ	×	○※5	○	○※5	○※5	○※5	×	○※3,5
	PCマイクロ 85mm F2.8D※4	×	○※5	○	×	○	○	×	○※3
	AF-S/AF-Iテレコンバーター※6	○※7	○※7	○	○	○	○	×	○※3
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※8	○※8	○	○	○	×	○	○※3
	AI-Pニッコール	×	○※9	○	○	○	×	○	○※3

※1　IXレンズは装着できません。
※2　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※3　フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（P.89）。
※4　カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞りが設定されているときには、正しく機能しません。
※5　あおり操作をしていない場合のみ可能。
※6　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（P.243）。
※7　合成絞り値がF5.6 以上明るい場合に使用可能。
※8　AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※9　開放絞りがF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

AF-S/AF-Iテレコンバーターについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターは、AF-SレンズとAF-Iレンズ専用のテレコンバーターです。使用できるレンズは、次の通りです。

AF-S VR マイクロED 105mm f/2.8G ※1
AF-S VR ED 200mm f/2G
AF-S VR ED 300mm f/2.8G
AF-S ED 300mm f/2.8D II
AF-S ED 300mm f/2.8D
AF-I ED 300mm f/2.8D
AF-S ED 300mm f/4D ※2
AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
AF-S ED 400mm f/2.8D II
AF-S ED 400mm f/2.8D
AF-I ED 400mm f/2.8D
AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR※2
AF-S ED 500mm f/4D II ※2
AF-S ED 500mm f/4D ※2
AF-I ED 500mm f/4D ※2
AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR※2
AF-S ED 600mm f/4D II ※2
AF-S ED 600mm f/4D ※2
AF-I ED 600mm f/4D ※2
AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G
AF-S ED 80–200mm f/2.8D
AF-S VR ED 200–400mm f/4G ※2

※1AF撮影はできません。
※2AF-Sテレコンバーター TC-17E II/TC-20E II との組み合わせでは、AF撮影はできません。

使用できる非CPUレンズ

レンズ＼モード		フォーカスモード			撮影モード		測光モード	
		オートフォーカス（AF）	フォーカスエイド	マニュアル（M）	M以外	M	マルチパターン測光	中央部重点測光/スポット測光
非CPUレンズなど※1	AI-S、AI、シリーズEレンズ、AI改造レンズ	×	○※2	○	×	○※3	×	×
	メディカル120mm f/4	×	○	○	×	○※4	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	○	×	○※3	×	×
	PCニッコール	×	○※5	○	×	○※3	×	×
	AI-S、AIテレコンバーター	×	○※6	○	×	○※3	×	×
	ベローズPB-6 ※7	×	○※2	○	×	○※3	×	×
	オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※2	○	×	○※3	×	×

※1　一部装着不可能なレンズ（P.244）があります。
※2　開放絞りがF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※3　露出インジケーターは使用不可。
※4　シャッタースピード1/60秒以下で使用可。露出インジケーターは使用不可。
※5　あおり操作をしていない場合のみ可能。
※6　合成絞り値がF5.6 以上明るい場合に使用可能。
※7　縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

非CPUレンズを使用する場合は

非CPUレンズ装着時は、撮影モード**M**で撮影してください。**M**以外では、シャッターがきれません。カメラの露出計や、コマンドダイヤルによる絞りの設定、i-TTL モードでのフラッシュ撮影、プレビューなどの各機能は使うことができません。絞りの設定や確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

使用できない非CPUレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11（製品 No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35 mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35 mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

赤目軽減モードについてのご注意

レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に充分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

AF 補助光撮影（P.180）に制限のあるレンズについてのご注意

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ

- AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED
- AF-S ED 80–200mm f/2.8D
- AF VR ED 80–400 f/4.5–5.6D
- AF-S VR ED 200–400mm f/4G
- AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G
- AF-S ED 80–200mm f/2.8D
- AF-S VR ED 200mm f/2G

以下のレンズでは、撮影距離1m以内でAF補助光がレンズによってさえぎられる場合があります。この場合、AF 補助光を使ってのオートフォーカス撮影はできません。

- AF-S DX ED 12–24mm f/4G
- AF-S ED 17–35mm f/2.8D
- AF ED 18–35mm f/3.5–4.5D
- AF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF 20–35mm f/2.8D
- AF 24–85mm f/2.8–4D
- AF-S VR ED 24–120mm f/3.5–5.6G
- AF-S ED 28–70mm f/2.8D
- AF マイクロ ED 70–180mm f/4.5–5.6D
- AF マイクロ ED 200mm f/4D
- AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX ED 17–55mm f/2.8G
- AF-S DX ED 18–70mm f/3.5–4.5G
- AF-S DX VR ED 18–200mm f/3.5–5.6G
- AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED
- AF-S ED 24–85mm f/3.5–4.5G
- AF 24–120mm f/3.5–5.6D
- AF ED 28–200mm f/3.5–5.6G
- AF-S VR マイクロ ED 105mm f/2.8G

✔ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

- 内蔵フラッシュには、18mm から300mm までのCPUレンズが使用できます。
  - ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
  - 撮影距離60cm未満では使用できません。
  - マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
  - 次のAFレンズではフラッシュの光がさえぎられるため、焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX ED 12–24mm f/4G	焦点距離20mm 時の撮影距離2m 以上、 焦点距離24mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR	焦点距離18mm 時の撮影距離2m 以上、 焦点距離20mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S ED 17–35mm f/2.8D	焦点距離24mm 時の撮影距離2m 以上、 焦点距離28mm および35mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S DX ED 17–55mm f/2.8G	焦点距離28mm 時の撮影距離1.5m 以上、 焦点距離35mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF ED 18–35mm f/3.5–4.5D	焦点距離24mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S DX ED 18–70mm f/3.5–4.5G	焦点距離18mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR	焦点距離20mm 時の撮影距離2.5m 以上、 焦点距離24mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S DX ED 18–135mm f/3.5–5.6G	焦点距離18mm 時の撮影距離1.5m 以上で使用可能
AF-S DX VR ED 18–200mm f/3.5–5.6G	焦点距離24mm および35mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF 20–35mm f/2.8D	焦点距離20mm 時の撮影距離1.5m 以上、 焦点距離24mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	焦点距離35mm 時の撮影距離1.5m 以上で使用可能
AF-S VR ED 24–120mm f/3.5–5.6G	焦点距離24mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
PC-E NIKKOR 24mm f/3.5 ED	焦点距離24mm 時の撮影距離2m 以上で使用可能
AF-S ED 28 –70mm f/2.8D	焦点距離35mm 時の撮影距離1.5m 以上、 焦点距離50mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S VR ED 200–400mm f/4G	焦点距離200mm 時の撮影距離3m 以上、 焦点距離250mmおよび300mm時の撮影距離2.5m以上で使用可能

  - AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。

- 内蔵フラッシュ撮影時に使用可能な非CPUレンズは、18mmから200mm までのニッコール（AI-S、AI、改造AI）、ニコンレンズシリーズEが使用できます。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AI-S 25–50mm f/4、AI 25–50mm f/4、 AI-S 35–70mm f/3.5	焦点距離35mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AI 50–300mm f/4.5、AI 改 50–300mm f/4.5、 AI-S ED 50–300mm f/4.5、AI 改 85–250mm f/4	焦点距離135mm 以上で使用可能
AI ED 50–300mm f/4.5	焦点距離105mm 以上で使用可能
AI-S ED 200mm f/2、AI ED 200mm f/2	使用できません

使用できるスピードライト（別売フラッシュ）

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。

- 別売スピードライトを装着するときは、アクセサリーシューカバーを取り外してください。なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、様々な機能を提供します。ニコンクリエイティブライティングシステムの主な機能は、次のとおりです。

- **i-TTL モード**：ニコンクリエイティブライティングシステム用の TTL 調光モードです（P.284）。必ずモニター発光を行い、被写体からの反射光を測光して最適な発光制御します。
- **アドバンストワイヤレスライティング**：ワイヤレス増灯撮影時に、TTL モード（i-TTL モード）を使用できます。
- **FVロック撮影**：フラッシュの調光量を固定することで、同じ調光量を維持したまま撮影できます（P.206）。
- **オートFPハイスピードシンクロ**：スピードライト撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます（P.203）。開放側の絞りが使用できるので、被写界深度をより浅くしたフラッシュ撮影ができます。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト

SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200の主な仕様

	SB-900※1	SB-800	SB-600	SB-400	SB-R200※2
ガイドナンバー（ISO 100・m/ISO 200・m、20℃）	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）	38/53（照射角35mm時）	30/42（照射角35mm時）	21/30	10/14
オートズーム機構	オートズーム機構（17～200mm）	オートズーム機構（24～105mm）	オートズーム機構（24～85mm）	27mmレンズに対応	24mmレンズに対応
ワイドパネル使用時	12mm、14mm、17mmのレンズに対応	14mm、17mmのレンズに対応	14mmのレンズに対応	—	—
バウンス	**垂直方向**：下7°～正面～上90° **水平方向**：右180°～正面～左180°	**垂直方向**：下7°～正面～上90° **水平方向**：右90°～正面～左180°	**垂直方向**：正面～上90° **水平方向**：右90°～正面～左180°	**垂直方向**：正面～上90°	**正位置を基準に下方（レンズ光軸側）**：60° **上方（レンズ光軸反対側）**：45°

※1 カメラのホワイトバランスを AUTO（オート）または ⚡（フラッシュ）に設定し、SB-900用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 リモート発光用スピードライトSB-R200を使用するには、内蔵フラッシュをコマンダーモードに設定するか、SB-900、SB-800、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

SU-800

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、CLS対応カメラに装着すると、ワイヤレスでSB-900、SB-800、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。SB-800 はガイドナンバーが38（照射角35mm、ISO感度100、20℃）なので、ISO 感度が100 で絞り値がF5.6 なら、38 ÷ 5.6 = 約6.8mまでフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4 倍（$\sqrt{2}$ 倍）になります。たとえば、D90 でISO感度200 でSB-800 を使用すると、絞り値がF5.6 なら38 ÷ 5.6 × 1.4 = 約9.5mまで光が届きます。

SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200との組み合わせで使用できる機能

スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200 を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。

			1灯のみで使用			アドバンストワイヤレスライティング				
						主灯として使用		補助灯として使用		
スピードライト			SB-900 SB-800	SB-600	SB-400	SB-900 SB-800	SU-800※1	SB-900 SB-800	SB-600	SB-R200
発光モード	i-TTL	i-TTL-BL調光	○※2	○※2	○※2	○	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※3	○※3	○					
	AA	絞り連動外部自動調光	○※4			○※5	○※5	○※5		
	A	外部自動調光	○※4			○※5		○※5		
	GN	距離優先マニュアル発光	○							
	M	マニュアル発光	○	○	○※8	○	○	○	○	○
	RPT	リピーティングフラッシュ	○			○	○	○	○	
機能		オートFPハイスピードシンクロ※6	○	○		○	○	○	○	○
		FVロック	○	○	○	○	○	○	○	○
		マルチエリアアクティブ補助光※7	○	○		○	○			
		発光色温度情報伝達	○	○	○	○				
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
		赤目軽減発光	○	○	○	○				
		オートズーム	○	○		○				

※1 SU-800本体に発光機能はありません。表中の○は、SU-800がコマンダーとして補助灯を制御できる機能です。

※2 スポット測光時は設定できません。

※3 SB-900、SB-800、SB-600の場合は、スピードライト側でも設定できます。

※4 **AA**モードと**A**モードの選択は、SB-900、SB-800のカスタム設定で行います。

※5 SB-900、SB-800のカスタム設定にかかわらず、優先的に**AA**モードになります。

※6 カスタムメニュー e5［**オートFP撮影**］（P.203）を［**する**］に設定してください。

※7 非CPUレンズ装着時は機能しません。

※8 カメラ側で設定できます。

その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影できません。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX/SB-28DX	SB-50DX	SB-28/SB-26/SB-25/SB-24	SB-30/SB-27※1 SB-22S/SB-22/SB-20/SB-16B/SB-15	SB-23/SB-29※2/SB-21B※2/SB-29S※2
区分	**A**	外部自動調光	○		○	○	
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
	RPT	マルチフラッシュ	○		○		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 D90とSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードになりますが、TTLモードでは使えません。SB-27を強制Aモードに設定しなおしてください。

※2 SB-29S・29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、一部のAFマイクロ（60mm・105mm・200mm）レンズ装着時のみ可能です。

✔ 撮影モード AUTO、ポートレート、クローズアップ、夜景ポートレートでの別売スピードライト使用についてのご注意

別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光せず、常に別売スピードライトが発光します。フラッシュモード（P.73）は以下のように変更されます。

内蔵フラッシュ使用時		別売スピードライト使用時
AUTO 通常発光オート	▶	通常発光
赤目AUTO 赤目軽減オート	▶	赤目軽減
AUTO SLOW 通常発光オート＋スローシャッター	▶	SLOW 通常発光＋スローシャッター
赤目AUTO SLOW 赤目軽減オート＋スローシャッター	▶	赤目SLOW 赤目軽減＋スローシャッター
発光禁止	▶	通常発光

✔ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、D90はSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- i-TTL や外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディーライト⚡が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。

- i-TTL モード時のISO 感度連動範囲はISO200～ 3200 相当です。
- ISO感度を3200よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- D90とSB-900、SB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、カメラのAF補助光が発光します（P.180）。
- スピードライト SB-900、SB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800の使用時に、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光（アクティブ補助光）が自動的に発光します。
- スピードライト SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離ですべてのフォーカスポイントを照射しますが、オートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が17～105mmの場合		AF レンズの焦点距離が106 ～ 135mmの場合	

- スピードライト SB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離で照射とオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が24～34mmの場合		AF レンズの焦点距離が35 ～ 105mmの場合	

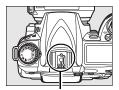
- 撮影モードにより、カメラが自動で設定する開放側の限界絞りは、使用するISO感度によって次のように制御されます。

撮影モード	ISO感度と開放側の限界絞り（F）				
	200	400	800	1600	3200
P、AUTO	4	4.8	5.6	6.7	8
	8	9.5	11	13	16

※感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTL モード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

アクセサリーシュー

別売のスピードライト（P.248）をアクセサリーシューに装着するとコードレスで使用することができます。このカメラは、セーフティーロック機構（ロック穴）を備えていますので、SB-900、SB-800、SB-600、SB-400などのセーフティーロックピン付きのスピードライトを取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

アクセサリーシュー

スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400 装着時の感度自動制御について

［**感度自動制御**］（P.170）を［**する**］に設定してスピードライトSB-900、SB-800、SB-600またはSB-400を装着すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし［**感度自動制御**］が［**する**］に設定されていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。

- 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
- 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
- 背景が明るい場合

このようなときは、絞りを開くか、スローシンクロを解除する（P.73）と、露出アンダーが改善されます。

ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプター AS-15を装着すると、シンクロターミナルが利用できます。

他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

使用できるアクセサリー

D90には撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	• **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e**（P.22、23） ニコンデジタルカメラD90用のバッテリーです。EN-EL3eを充電するには、クイックチャージャー MH-18aまたはMH-18を使用します。 • **マルチパワーバッテリーパックMB-D80** Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eを1個または2個、単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）6本を使用してカメラに電源を供給することができます。MB-D80には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、AE-L/AF-Lボタンが装備されているので、縦位置での撮影に便利です。カメラ本体のバッテリー室カバーとMB-D80用接点カバーを取り外して装着します。 バッテリー室カバーは、右の図のように斜め上方向に引っ張ると無理なく取り外すことができます。装着する場合も、同じ角度で挿入してください。 • **クイックチャージャー MH-18a**（P.22） Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e用のチャージャーです。 • **ACアダプター EH-5a、EH-5** D90で使用できるACアダプターです。
フィルター	• ニコンフィルターには、ネジ込み式、後部交換式、および組み込み式の3種類があります。他社製の特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。 • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターのご使用をおすすめします。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、［**測光モード**］（P.89）を［**中央部重点測光**］にして撮影することをおすすめします。［**マルチパターン測光**］では、充分な効果が得られない場合があります。詳しくは、フィルターの使用説明書をご覧ください。

35°

ファインダー用アクセサリー	• **接眼補助レンズDK-20C** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3m^{-1}の9種類が用意されていますが、いずれもD90の視度調節ダイヤルが調節範囲の中央（－1m^{-1}）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。D90には視度調節機能がついています（－2～＋1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにご使用ください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。 • **マグニファイングアイピースDK-21M** D90のファインダー倍率を約1.10倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・－1.0 m^{-1}のとき) に拡大します。 • **マグニファイヤー DG-2** ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠撮影時など、より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。 • **アイピースアダプター DK-22** D90にマグニファイヤー DG-2を取り付けるためのアダプターです。 • **アングルファインダー DR-6** アングルファインダーDR-6をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
スピードライト	• **ニコンスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400** • **ニコンワイヤレスリモートスピードライトSB-R200** • **ニコンワイヤレススピードライトコマンダー SU-800** D90で使用できるスピードライトについては、「ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト」をご覧ください（P.248）。
ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア	• **Capture NX 2** 画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。ホワイトバランス調整やカラーコントロールポイントなどさまざまな機能を備えています。必ず最新版※にバージョンアップしてお使いください。 • **Camera Control Pro 2** パソコンからカメラを操作して画像を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。必ず最新版※にバージョンアップしてお使いください。 ※ ご使用のパソコンがインターネットに接続されていれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）が自動的に更新情報をチェックします。
ボディーキャップ	レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

<table>
<tr>
<td>リモコン</td>
<td>

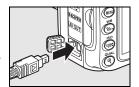
- **リモコンML-L3**
  ワイヤレスでシャッターをきることができ、記念写真などに便利です。また、手ブレを防止するケーブルレリーズの代わりとしても利用できます。
  リモコン用電池（CR2025型3Vリチウム電池）の交換方法

</td>
</tr>
<tr>
<td>アクセサリーターミナル</td>
<td>

アクセサリーターミナルに次のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影やGPSデータの取得ができます。

- 使用しない場合は、必ずアクセサリ端子にキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。
- アクセサリーターミナルへの接続は、図のように指標を合わせて接続します。

<table>
<tr><th>アクセサリー</th><th>用途</th></tr>
<tr><td>リモートコード
MC-DC2</td><td>カメラブレを避けたい場合や、カメラから離れてレリーズ操作をしたい場合に便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影用に、シャッターボタンを押したままの状態で固定する機能も備えています。
• 長さ：約1m</td></tr>
<tr><td>GPSユニット
GP-1</td><td>アクセサリーターミナルでカメラとGP-1を接続することにより、撮影時の緯度、経度、標高、標準時（UTC）が画像データに記録されます（P.127）。</td></tr>
</table>

</td>
</tr>
</table>

推奨SDカード

以下のSDメモリーカードの動作を確認しています。

• 以下の容量のSDカードであれば、内部データ転送速度にかかわらず使用できます。

SanDisk製	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2
東芝製	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2、16 GB※2、32 GB※2
Panasonic製	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2、16 GB※2、32 GB※2
LEXAR MEDIA社製	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2 プラチナⅡシリーズ：512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2 プロフェッショナルシリーズ：1 GB、2 GB※1、4 GB※2

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

• 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、SDカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のSDカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、次の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%をこえる場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

ローパスフィルターを自動で掃除する（イメージセンサークリーニング）

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の表面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミを払い落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］から操作する

1 カメラを右図のように正位置に置く

- 効果的にゴミを払い落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。

2 セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］を選ぶ

- ［**イメージセンサークリーニング**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［イメージセンサークリーニング］画面が表示されます。

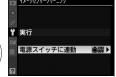
3 ［実行］を選ぶ

- ［**実行**］を選んで▶を押すと、右の画面が表示され、イメージセンサークリーニングを開始します。

- イメージセンサークリーニングが完了すると、右の画面が表示されます。

電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

1 ［イメージセンサークリーニング］画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ

- ［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［電源スイッチに連動］画面が表示されます。

2 次の項目から選んで、OKボタンを押す

設定	内容
ON **電源ONで実行**	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
OFF **電源OFFで実行**	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
ON/OFF **電源ONとOFFで実行**（初期設定）	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

☑ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- イメージセンサークリーニング作動中に次の操作をすると、イメージセンサークリーニングは中断します。
  - シャッターボタン半押しまたは全押しする
  - Lv（ライブビュー）ボタンを押す
  - プレビューボタンを押す
  - AE/AFロックボタンで**AF-ON**を行う
  - **Fn**ボタンでFVロックを行う
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のブロアーで掃除する（P.260）か、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

ローパスフィルターをブロアーで掃除する

イメージセンサークリーニング（P.258）でゴミやほこりをとりきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

作業中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリー、または別売のACアダプター EH-5aまたはEH-5をお使いください。

1 レンズを取り外す

レンズの取り付け、取り外しの際には、カメラの電源をOFFにしてください。

2 セットアップメニューで［クリーニングミラーアップ］※を選ぶ

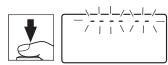
- ［**クリーニングミラーアップ**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

※バッテリー残量表示が（60%）以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

3 ㊙ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 液晶モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。

4 シャッターボタンを押し込む

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。

5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。

6 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払う

- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちに作業を終了してください。

ローパスフィルター上のゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子上のローパスフィルターに付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造しています。しかし、このカメラはレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子上のローパスフィルターに付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。ローパスフィルターに付着したゴミを、イメージセンサークリーニング（P.258）で取り除ききれないときは、上記の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NX 2（P.254）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- とくに業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやホコリが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子表面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については P.258、260ページをご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、常時点灯あるいは非点灯の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、汚れ、傷を防ぐため液晶モニターに付属のモニターカバーを取り付けてください。

バッテリーの取り扱いについて

● 接点の汚れについて

バッテリーの接点が汚れている場合は、乾いた布などで拭いてください。

● 使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
- バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
- 必ず指定のバッテリーを使う。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
- カメラから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。

● 撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影の前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してご使用ください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● バッテリーのリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは廃棄せず、再利用のためリサイクルにご協力ください。端子カバーを装着してからテープなどで固定して、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参ください。

Li-ion

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

表示関連

症状	ここをご確認ください	ページ
ファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください。	P.32、254
ファインダー内が暗い	バッテリー残量は充分ですか？　バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量が無い場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります。	P.22、191
ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう	カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］やC4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます。	P.185、186
表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しない	「デジタルカメラの特性について」をご覧ください。	—
表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い	低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。	—
ファインダー内に線や模様が見える	液晶の特性上、フォーカスポイントなどから外側に延びる細い線が見えたり、フォーカスポイントを照明するときにファインダー内が赤くなることがありますが、いずれも故障ではありません。	—

デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し（ACアダプター使用時はいったん外してから付け直し）、もう一度電源をONにしてください。このときバッテリーが熱くなっていることがあるので、取り扱いには充分にご注意ください。さらに不具合が続く場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連（全撮影モード共通）

症状	ここをご確認ください	ページ
電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる	SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。	—
シャッターがきれない	• 残量のあるSDカードが入っていますか？ • SDカードがロックされていませんか？ • 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません。 • ピント表示●は点灯していますか？ • Gタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（もっとも大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。 • 撮影モード**M**でシャッタースピードを**bulb**に設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。	P.29、35 P.31 P.40 P.38 P.242 P.83
ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う	• このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約96%です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます。	P.286
ピントが合わない	• 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。 明暗差がはっきりしない/遠くのものと近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい • マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクトダイヤルを**AF**に合わせてください。	P.57、59 P.54
シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない	AFモードが［**AF-C**］のときや、［**AF-A**］で［**AF-C**］が選ばれているときや動いている被写体を撮影するときは、AE/AFロックボタンでフォーカスをロックしてください。	P.57
画像サイズが変更できない	［**画質モード**］が［**RAW**］のときは、画像サイズを変更できません。	P.62
フォーカスポイントを選択できない	• フォーカスポイントロックレバーが **L**（ロック）の位置になっていませんか？ • カスタムメニューa1［**AFエリアモード**］が［**オートエリアAFモード**］のときは、選択できません。 • 液晶モニターが点灯していませんか？液晶モニターの点灯中はフォーカスポイントを選択できません。 • カメラが待機状態になっていませんか？フォーカスポイントを選択するには、シャッターボタンを半押しして待機状態を解除してください。	P.56 P.179 P.56 P.35

症状	ここをご確認ください	ページ
画像の記録に時間がかかる	撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？	P.173
画像がざらつく	• ISO 感度が高くなっていませんか？ ISO 800 以上の高感度で撮影する場合、撮影メニュー［**高感度ノイズ低減**］を［**しない**］以外にすれば、ざらつきを軽減できます。 • シャッタースピードが 8 秒より低速な場合は、ノイズが発生しやすくなります。撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］にして撮影すると、ざらつきを軽減できます。	P.173 P.173
AF補助光ランプが光らない	• 撮影モード 、 では、AF補助光は点灯しません。 • 次の場合、AF補助光は発光しません。 - AFモードが**AF-C**のとき、または**AF-A**で自動的に**AF-C**が選ばれたとき - シングルポイントAF、ダイナミックAFまたは3D-トラッキング（11点）時に中央以外のフォーカスポイントが選択された場合 • カスタムメニューa3［**内蔵AF補助光の照射設定**］が［**しない**］になっていませんか？ • AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に点灯が制限されます。少し時間をおくと再び点灯するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。	P.41 P.54 P.179 P.180 —
リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない	• リモコンの電池残量はありますか？ • リモコンモードに設定されていますか？ • フラッシュの充電中は、シャッターがきれません • 送信ボタンを押す前にカスタムメニューc5［**リモコン待機時間**］を過ぎると、リモコンモードはリセットされます。 • 極端な逆光状態では、リモコン撮影ができない場合があります。	P.255 P.69 P.40 P.186 —
画像にゴミが写り込む	• レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？ • 撮像素子の表面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください。	— P.258

撮影関連（撮影モード AUTO、、、、、、）

症状	ここをご確認ください	ページ
選択または設定できないメニュー項目がある	撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選択できません。	P.277

撮影関連（撮影モード P、S、A、M）

症状	ここをご確認ください	ページ
シャッターがきれない	• フラッシュの充電中は、シャッターがきれません • CPUレンズが装着されていますか？　非CPUレンズは撮影モードM以外ではお使いになれません。 • 撮影モード**M**でシャッタースピードを bulb または - - に設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。	P.40 P.244 P.83
設定できるシャッタースピードの範囲が狭い	フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。撮影モード**P**、**S**、**A**、**M** では、カスタムメニュー e5［**オートFP撮影**］を［**する**］にして、別売のスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-R200 を使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です。	P.203
画像の色合いがおかしい	• ホワイトバランスは正しく設定されていますか？ • 撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］は正しく設定されていますか？	P.97 P.110
ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない	被写体が明るすぎるか、暗すぎます。	P.103
ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある	この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません。	P.107
ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない	［**画質モード**］が［**RAW**］、［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］の場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。	P.62
［**ピクチャーコントロール**］の効果が安定しない	［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］の調整画面で、［**輪郭強調**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください。	P.113、116
測光モードが変更できない	AEロック中は測光モードを変更できません。	P.90
露出補正ができない	撮影モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変化するだけで、シャッタースピードと絞りは変化しません。	P.85
連続撮影できない	内蔵フラッシュが上がっているときは、連続撮影できません。	P.65、72
画像の一部が赤っぽくなる	シャッタースピードをbulbまたは- -にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで軽減できます。	P.173

再生関連

症状	ここをご確認ください	ページ
画像の一部が チカチカと点滅する	画像情報の設定がハイライト表示になっています。	P.131、 167
画像と重なって 文字が表示される	画像情報の設定が撮影情報表示になっています。	P.131、 167
グラフが表示される	画像情報の設定がRGBヒストグラム表示になっています。	P.131、 167
RAW画像が 表示されない	［**画質モード**］を［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません。	P.62
全ての画像が 表示されない	再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。なお、［**全てのフォルダー**］にした後に撮影すると、［**再生フォルダー設定**］は自動的に［**記録中のフォルダー**］に変更されます。	P.166
画像の縦位置・横位置が正しく表示されない	• 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？ • セットアップメニュー［**縦横位置情報の記録**］が［**しない**］になっていませんか？ • 連続撮影したときの縦横位置は、最初の1コマを撮影した構図で固定されます。 • 撮影直後の画像確認時は、自動回転しません。 • カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります。	P.168 P.215 P.65 P.168 P.215
画像が削除できない	• SDカードがロックされていませんか？ • 画像にプロテクトが設定されていませんか？	P.31 P.141
［撮影画像がありません］と表示される	SDカードを交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。	P.166
プリント指定ができない	• SDカードがロックされていませんか？ • SDカードの空き容量が不足していませんか？	P.31 P.35
RAW画像をプリントできない	• 画像編集メニューの［**簡単レタッチ**］や［**RAW現像**］などでRAW画像からJPEG 画像を作成してからプリントしてください。 • RAW 画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売のCapture NX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください。	P.234、 232 P.150、 254
画像がテレビに映らない	セットアップメニュー［**ビデオ出力**］が正しく設定されていますか？	P.212
画像が HDMI 機器で再生できない	市販のHDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください。	P.149
Capture NX 2で画像が表示されない	ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？	P.254

症状	ここをご確認ください	ページ
Capture NX 2でイメージダストオフ機能が動作しない	次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。 • イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき • イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき	P.216

その他

症状	ここをご確認ください	ページ
撮影日時が正しく表示されない	カメラの内蔵時計は合っていますか？カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	P.27、213
表示されているメニュー項目が選択できない	• SDカードをカメラに挿入していないときは、選択できない項目があります。 • 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります。 • セットアップメニュー［**電池チェック**］は電源に別売 AC アダプター EH-5/EH-5aを使用している場合には選択できません。	P.29 — —

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
FEE（点滅）	FEE（点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	P.26、242
（バッテリー残量表示）	（バッテリー残量表示）	バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	P.22、34
（バッテリー残量表示）（点滅）	（バッテリー残量表示）（点滅）	• バッテリーが消耗しています。	• バッテリーを交換してください。 • バッテリーを充電してください。	P.22、34
		• バッテリーとの情報通信ができません。	• このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	P.253
		• 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80装着時に、極端に消耗しているLi-ion リチャージャブルバッテリー（EN-EL3e）、またはカメラと通信できないバッテリーをカメラかMB-D80のいずれかで使用しています。	• 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 • カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。	P.22 P.xix、24、253
CLOCK（点滅）	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	P.27
F - -（点滅）	F - -（点滅）	レンズが装着されていないか、非CPUレンズが装着されています。	• CPU レンズ（IX レンズを除く）を装着してください。 • 撮影モード**M**で撮影してください。	P.25、242 P.85
—	●（点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.59

こんなとき		原因	対処方法	ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
HI	HI	被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を低くしてください。 • 撮影モードが**P**のときは別売のND（光量調節用フィルター）を使用してください（**S**、**A**のときに次の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • シャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。	P.76 P.253 P.83、85 P.84、85
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を高くしてください。 • 撮影モードが**P**のときはフラッシュを使用してください（**S**、**A**のときに次の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • シャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 絞りを開いて（より小さい数値にして）ください。	P.76 P.72 P.83、85 P.84、85
bulb（点滅）	bulb（点滅）	撮影モード**M**でシャッタースピードを bulb にしたまま、撮影モードが**S**に変更されました。	• bulb 以外のシャッタースピードにセットしてください。 • 撮影モードを**M**にセットしてください。	P.83 P.85
- -（点滅）	- -（点滅）	撮影モード**M**でシャッタースピードを - -（タイム撮影）にしたまま、撮影モードが**S**に変更されました。	• - - 以外のシャッタースピードにセットしてください。 • 撮影モードを**M**にセットしてください。	P.83 P.85
⚡（点滅）	⚡（点滅）	i-TTL対応していないスピードライト（別売）をTTLモードにセットしています。	TTLモード以外のモードにセットしてください。	P.250
—	⚡（点滅）	• 露出不足になる恐れがあります。 • 発光直後に約３秒間点滅した場合は、露出不足の恐れがあります。	• フラッシュをお使いください。 • 撮影距離、絞り、調光範囲、ISO感度などを確認してください。	P.72 P.75、250、285

こんなとき		原因	対処方法	ページ
表示パネル	ファインダー内表示			
Full （点滅）	Ful （点滅）	• SDカードの残量がありません。 • カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。	• カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。	P.166 P.29
[-E-]	[-E-]	SDカードが入っていません。	SDカードを正しく入れてください。	P.29
Err （点滅）	Err （点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	P.304

こんなとき		原因	対処方法	ページ
液晶モニター	表示パネル/ファインダー			
メモリーカードが入っていません。	[-E-]/ [-E-]、[-E-]	SDカードが入っていないか、正しくセットされていません。	SDカードを正しくセットしてください。	P.29
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	CHA、 [0] （点滅）	• SDカードへのアクセス異常です。 • 新規フォルダーが作成できません。	• このカメラで使用できるSDカードであるかどうかを確認してください。 • SDカードがこわれている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。 • SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。	P.29、256 P.304 P.49、150、166 P.29、256
このメモリーカードは初期化 (フォーマット)されていません。 フォーマットしますか？	[For] （点滅）	SDカードが正しく初期化されていません。	• SDカードを初期化してください。 • 正しく初期化されたSDカードに交換してください。	P.30 P.29
撮影画像がありません。	—	• 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダーの指定に問題があります。	• 画像が記録されているSDカードを入れてください。 • 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。	P.29 P.166
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの［**非表示設定**］で、画像の非表示設定を解除してください。	P.167
このファイルは表示できません。	—	• アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	—

こんなとき		原因	対処方法	ページ
液晶モニター	表示パネル/ファインダー			
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	CHA、[0]（点滅）	SD カードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。	P.31
このファイルは選択できません。	—	SDカード内に画像編集できる画像がありません。	このカメラで作成した画像しか画像編集できません。	P.220
処理できる画像がありません。	—	SDカード内にRAW画像がありません。	RAW画像を撮影してください。	P.62
プリンターの状態を確認してください。	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んで ㊍ ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、［**継続**］を選べない場合があります）。	P.152
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んで ㊍ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.152
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んで ㊍ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.152
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んで ㊍ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.152
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んで ㊍ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.152
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んで ㊍ ボタンを押して、プリントを再開してください。	P.152

※プリンターの使用説明書もあわせてご覧ください。

資料集

次のような情報を資料として掲載しています。

- 撮影モード別：設定できる機能一覧 P.277
- 初期設定一覧 P.279
- 記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数 P.281
- 撮影モードP（マルチプログラムオート）のプログラム線図 P.282
- 撮影コマ数と補正段数の組み合わせ
（AE・フラッシュ、AE、フラッシュ、WBブラケティング時）............ P.283
- フラッシュ撮影時の発光量制御について P.284
- 内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限 P.284
- 内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と 限界絞り値 P.285

撮影モード別：設定できる機能一覧

それぞれの撮影モードごとに、設定できる機能とできない機能をまとめました。表の見方は以下の通りです。

- ●：設定できます。ツーボタンリセット（P.78）で初期設定に戻ります。
- ◎：設定できます。カスタムメニュー［**カスタムメニューのリセット**］（P.178）で初期設定に戻ります。
- ○：設定できます。撮影モードを切り換えると初期設定に戻ります。
- △：設定できます。設定を元に戻さない限り、初期設定には戻りません。
- 無印：設定できません。

		AUTO	発光禁止	ポートレート	風景	スポーツ	クローズアップ	夜景ポートレート	P	S	A	M
撮影メニュー	ピクチャーコントロール								△	△	△	△
	画質モード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	画像サイズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ホワイトバランス								●	●	●	●
	ISO感度設定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	アクティブDーライティング								△	△	△	△
	色空間	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	長秒時ノイズ低減	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	高感度ノイズ低減	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	記録フォルダー設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	多重露出								●	●	●	●
	動画の設定	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
撮影関連の設定	レリーズモード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	AFモード	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	●	●	●	●
	測光モード								●	●	●	●
	プログラムシフト								●			
	AEロック	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	露出補正								●	●	●	●
	オートブラケティング								●	●	●	●
	フラッシュモード	● ○		● ○	●※ ○	●※ ○	● ○	● ○	●	●	●	●
	調光補正								●	●	●	●
カスタムメニュー	a1：AFエリアモード	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎	◎	◎	◎
	a2：中央フォーカスポイントフレーム	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	a3：内蔵AF補助光の照射設定	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎
	a4：フォーカスポイント照明	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※別売のスピードライトを装着した場合に設定できます。

		AUTO							P	S	A	M
カスタムメニュー	a5：フォーカスポイント循環選択	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	a6：MB-D80のAE/AFロックボタンの機能	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	a7：ライブビュー時のAF	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	●	●	●	●
	b1：露出設定ステップ幅	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	b2：露出補正簡易設定								◎	◎	◎	◎
	b3：中央部重点測光範囲								◎	◎	◎	◎
	b4：基準露出レベルの調節	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	c1：半押しAEロック	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	c2：半押しタイマー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	c3：セルフタイマー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	c4：液晶モニターのパワーオフ時間	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	c5：リモコン待機時間	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d1：電子音設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d2：格子線の表示	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d3：ISO感度表示と簡易設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d4：ファインダー内警告表示	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d5：撮影設定変更画面ガイド表示	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d6：低速連続撮影速度	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d7：連番モード	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d8：情報画面の表示設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d9：イルミネーター点灯	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d10：露出ディレーモード	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	d11：フラッシュ使用推奨表示								◎	◎	◎	◎
	d12：MB-D80電池設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	e1：フラッシュ時シャッタースピード制限								◎	◎	◎	◎
	e2：内蔵フラッシュ発光								◎	◎	◎	◎
	e3：モデリング発光								◎	◎	◎	◎
	e4：オートブラケティングのセット								◎	◎	◎	◎
	e5：オートFP撮影								◎	◎	◎	◎
	e6：BKTの順序								◎	◎	◎	◎
	f1：☀スイッチの機能	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	f2：OKボタンの機能（撮影モード）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	f3：ファンクションボタンの機能	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	f4：AE/AFロックボタンの機能	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	f5：コマンドダイヤルの設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	f6：カードなし時レリーズ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	f7：インジケーター表示の＋/－方向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

初期設定一覧

ご購入時のカメラの設定に戻すには、ツーボタンリセットまたはカスタムメニュー［**カスタムメニューのリセット**］を行います。これらのリセット操作を行うと、次の項目が初期設定に戻ります。

ツーボタンリセットで初期設定に戻る項目

「最初の設定に戻す（ツーボタンリセット）」（P.78）をご覧ください。

［カスタムメニューのリセット］（P.178）で初期設定に戻る項目※

項目	初期設定
a1：AFエリアモード	オートエリアAFモード
a2：中央フォーカスポイントフレーム	ノーマルフレーム
a3：内蔵AF補助光の照射設定	する
a4：フォーカスポイント照明	オート
a5：フォーカスポイント循環選択	しない
a6：MB-D80のAE/AFロックボタンの機能	AE-L/AF-L
a7：ライブビュー時のAF	ワイドエリアAF
b1：露出設定ステップ幅	1/3 段
b2：露出補正簡易設定	しない
b3：中央部重点測光範囲	φ 8 mm
b4：基準露出レベルの調節	いいえ
c1：半押しAEロック	しない
c2：半押しタイマー	6 秒
c3：セルフタイマー	
時間	10 秒
撮影コマ数	1
c4：液晶モニターのパワーオフ時間	
画像の再生	10 秒
メニュー表示	20 秒
情報画面表示	10 秒
撮影直後の画像確認	4秒
c5：リモコン待機時間	1分
d1：電子音設定	する
d2：格子線の表示	しない
d3：ISO感度表示と簡易設定	しない
d4：ファインダー内警告表示	する
d5：撮影設定変更画面ガイド表示	ガイド表示する
d6：低速連続撮影速度	3 コマ/秒
d7：連番モード	しない

※ 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の初期設定になります。

項目	初期設定
d8：情報画面の表示設定	自動
d9：イルミネーター点灯	しない
d10：露出ディレーモード	しない
d11：フラッシュ使用推奨表示	する
d12：MB-D80電池設定	アルカリ単3形電池
e1：フラッシュ時シャッタースピード制限	1/60 秒
e2：内蔵フラッシュ発光	TTLモード
e3：モデリング発光	しない
e4：オートブラケティングのセット	AE・フラッシュブラケティング
e5：オートFP撮影	しない
e6：BKTの順序	[0]→[－]→[+]
f1： スイッチの機能	の点灯/消灯
f2：OKボタンの機能（撮影モード）	フォーカスポイント中央リセット
f3：ファンクションボタンの機能	FV-L
f4：AE/AFロックボタンの機能	AE-L/AF-L
f5：コマンドダイヤルの設定	
回転方向の変更	しない
メインとサブの入れ換え	しない
再生/メニュー画面で使用	する
f6：カードなし時レリーズ	レリーズ禁止
f7：インジケーター表示の＋/－方向	+ −

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

画質モード（P.62）と画像サイズ（P.63）の組み合わせによって、2GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、以下のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数	連続撮影可能コマ数※2
RAW＋FINE※3	L	約16.9MB	89コマ	7コマ
	M	約14.4MB	104コマ	7コマ
	S	約12.4MB	118コマ	7コマ
RAW＋NORMAL※3	L	約13.9MB	106コマ	7コマ
	M	約12.6MB	116コマ	7コマ
	S	約11.6MB	124コマ	7コマ
RAW＋BASIC※3	L	約12.3MB	118コマ	7コマ
	M	約11.7MB	123コマ	7コマ
	S	約11.2MB	128コマ	7コマ
RAW	—	約10.8MB	133コマ	9コマ
FINE	L	約6.0MB	271コマ	25コマ
	M	約3.4MB	480コマ	100コマ
	S	約1.6MB	1000コマ	100コマ
NORMAL	L	約3.0MB	539コマ	100コマ
	M	約1.7MB	931コマ	100コマ
	S	約0.8MB	2000コマ	100コマ
BASIC	L	約1.5MB	1000コマ	100コマ
	M	約0.9MB	1800コマ	100コマ
	S	約0.4MB	3800コマ	100コマ

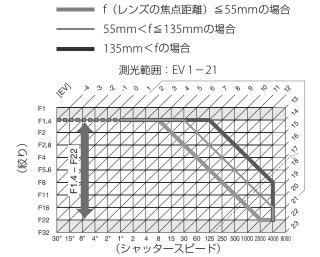
※1 Panasonic製 Pro HIGH SPEED SDメモリーカードを使用した場合。

※2 ISO感度がISO 200の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

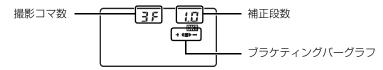
- ISO感度（P.76）をH 0.3以上に設定した場合
- ISO感度をISO 800以上に設定し、［**高感度ノイズ低減**］（P.173）を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**長秒時ノイズ低減**］（P.173）を［**する**］に設定した場合

※3 撮影条件により、記録可能コマ数は増減することがあります。

撮影モードP（マルチプログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、撮影モードが**P**のとき（P.82）の露出制御プログラム（ISO 200の場合）を表しています。

- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 200の場合17 1/3を超えるEV値では、全て17 1/3として制御されます。

撮影コマ数と補正段数の組み合わせ

ブラケティング撮影（P.94）設定時の表示パネルの見方は次の通りです。

【撮影コマ数とブラケティングバーグラフ】

撮影コマ数	ブラケティングバーグラフ	意味
3F	+◀■▶−	「補正なし」→「−側に補正」→「+側に補正」の順に3コマ撮影します※
+2F	+◀■	「補正なし」→「+側に補正」の順に2コマ撮影します※
−2F	■▶−	「補正なし」→「−に補正」の順に2コマ撮影します※

※撮影順は、カスタムメニューe6［**BKTの順序**］（P.203）が［**初期設定の順**］のときの内容です。「−側から+側へ」に変更すると、−側から+側への順番になります。

【補正段数】

補正段数は、ブラケティング撮影の種類や、カスタムメニューb1［**露出値ステップ幅**］（P.183）の設定によって次のように異なります。

AE・フラッシュ /AE/フラッシュブラケティング:

（露出値ステップ幅が「1/3段」のとき）

補正段数	意味
0.3	1/3段
0.7	2/3段
1.0	1段
1.3	1 1/3段
1.7	1 2/3段
2.0	2段

（露出値ステップ幅が「1/2段」のとき）

補正段数	意味
0.5	1/2段
1.0	1段
1.5	1 1/2段
2.0	2段

WBブラケティング:

補正段数	意味
1	1段
2	2段
3	3段

フラッシュ撮影時の発光量制御について(P.72、249)

CPUレンズをお使いの場合、内蔵フラッシュの発光量は、次の2種類の制御方式のどちらかで決定されます。通常はi-TTL-BL調光ですが、測光モード（P.89）を［**スポット測光**］にした場合は、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL調光	マルチパターン測光による測光情報を元に、メインの被写体と背景のバランスを考慮して発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさを考慮せず、メインの被写体を基準にして発光量を決定します。メインの被写体の明るさを重視する場合や、露出を補正する場合に適しています。

別売スピードライトSB-900、SB-800、SB-600をお使いの場合も、内蔵フラッシュと同様に、i-TTL-BL調光に設定していても、測光モード（P.89）を［**スポット測光**］にすると、スタンダードi-TTL調光になります。

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限(P.72)

手ブレ補正機能（VR）を使用していない場合、内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限は、次のようになります。

オート	1/200～1/60秒	**P**	1/200～1/60秒※
ポートレート	1/200～1/60秒	**S**	1/200～30秒
クローズアップ	1/200～1/125秒	**A**	1/200～1/60秒※
夜景ポートレート	1/200～1秒	**M**	1/200～30秒

※カスタムメニューe1［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］（P.193）を使用すると、シャッタースピードの低速側を1/60秒～30秒の範囲で1段ステップごとに設定することができます。ただし、スローシャッターを組み合わせたフラッシュモードでは、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と限界絞り値

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値					調光範囲（m）
200	**400**	**800**	**1600**	**3200**	
1.4	2	2.8	4	5.6	1～8.5
2	2.8	4	5.6	8	0.7～6.1
2.8	4	5.6	8	11	0.6～4.2
4	5.6	8	11	16	0.6～3
5.6	8	11	16	22	0.6～2.1
8	11	16	22	32	0.6～1.5
11	16	22	32	—	0.6～1.1
16	22	32	—	—	0.6～0.8

※ 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

- 撮影モードにより、内蔵フラッシュ使用時にカメラが自動で設定する限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

撮影モード	ISO感度と開放側の限界絞り（F）				
	200	**400**	**800**	**1600**	**3200**
P、AUTO、、	2.8	3.3	4	4.8	5.6
	5.6	6.7	8	9.5	11

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D90

項目	仕様
型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント （AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	レンズの焦点距離の約1.5倍に相当、ニコンDXフォーマット
有効画素数	
有効画素数	12.3 メガピクセル
撮像素子	
方式	23.6×15.8 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	12.9 メガピクセル
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（別売Capture NX 2必要）
記録形式	
記録画素数	• 4288×2848 ピクセル （サイズL） • 3216×2136 ピクセル （サイズM） • 2144×1424 ピクセル （サイズS）
画質モード	• RAW • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）: FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16） • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード/ニュートラル/ビビッド/モノクローム/ポートレート/風景から選択可能、それぞれ調整可能、カスタムピクチャーコントロール9種登録可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHC規格対応
対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、 DPOF（Digital Print Order Format）、 Exif 2.21（Exchangeable image file format for digital still cameras）、 PictBridge
ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	上下左右とも約96%（対実画面）
倍率	約0.94倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、–1.0 m^{-1}のとき）
アイポイント	19.5 mm（–1.0 m^{-1}のとき）
視度調節範囲	–2～＋1 m^{-1}
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンII（フォーカスフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	プレビューボタンによる絞り込み可能、撮影モード**A**、**M**では設定絞り値まで絞り込み可能、AUTO、、、、、、、、**P**、**S**では制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	• **DXレンズ**：フル機能使用可 • **GまたはDタイプレンズ**（IXニッコールを除く）：フル機能使用可（PCマイクロニッコールを除く） • **GまたはDタイプ以外のAFレンズ**（F3AF用を除く）：3D-RGBマルチパターン測光IIを除く機能使用可 • **Pタイプレンズ**：3D-RGBマルチパターン測光IIおよびオートフォーカスを除く機能使用可 • **非CPUレンズ**：撮影モード**M**で可（ただし、露出計は使用不可）、開放F値がF5.6より明るい場合フォーカスエイド可能

シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/4000～30秒（1/3、1/2段ステップ）、Bulb
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/200秒以下の低速シャッタースピードで同調

レリーズ機能	
レリーズモード	S（1コマ撮影）、□L（低速連続撮影）、□H（高速連続撮影）、セルフタイマー（セルフタイマー撮影）、（瞬時リモコン撮影）、（2秒リモコン撮影）
連続撮影速度	□H：約4.5コマ/秒 □L：約1～4コマ/秒
セルフタイマー	作動時間2、5、10、20秒に設定可能

露出制御	
測光方式	420分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	• **マルチパターン測光**：3D-RGBマルチパターン測光II（GまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光II（その他のCPUレンズ使用時） • **中央部重点測光**：φ8 mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ6 mm、φ10 mmのいずれかに変更可能 • **スポット測光**：約φ3.5 mm相当（全画面の約2%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動
測光範囲	• **マルチパターン測光、中央部重点測光**：0～20 EV • **スポット測光**：2～20 EV （ISO 100換算、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式
撮影モード	AUTO：オート、：発光禁止オート、：ポートレート、：風景、：スポーツ、：クローズアップ、：夜景ポートレート、**P**：プログラムオート（プログラムシフト可能）、**S**：シャッター優先オート、**A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル
露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2
オートブラケティング	• AE、フラッシュブラケティング時、撮影コマ数：2～3コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1、2段ステップ • ホワイトバランスブラケティング時、撮影コマ数：2～3コマ、補正ステップ：1～3段ステップ • アクティブD-ライティング時、撮影コマ数：2コマ
AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式

露出制御	
ISO感度（推奨露光指数）	ISO 200～3200（1/3段ステップ）、ISO 200に対し約0.3、0.7、1段（ISO 100相当）の減感、ISO 3200に対し約0.3、0.7、1段（ISO 6400相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブD-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しないから選択可能
オートフォーカス	
方式	• TTL 位相差検出方式：フォーカスポイント11点（うち、クロスタイプセンサー1点）、マルチCAM 1000オートフォーカスモジュールで検出、AF補助光（約0.5～3 m)付
検出範囲	–1～＋19 EV （ISO 100換算、常温（20℃））
レンズサーボ	• **オートフォーカス**：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）、AF-S/AF-C自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • **マニュアルフォーカス（M）**：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	11点のフォーカスポイントから1点を選択
AFエリアモード	シングルポイントAF モード、ダイナミックAF モード、オートエリアAFモード、3D-トラッキング（11点）
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し
フラッシュ	
内蔵フラッシュ	AUTO、、、 時：オートポップアップ方式による自動発光 **P**、**S**、**A**、**M** 時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー： • 約17（マニュアルフル発光時約18）（ISO 200・m、20℃） • 約12（マニュアルフル発光時約13）（ISO 100相当・m、20℃）
調光方式	**420分割RGBセンサーによる以下のTTL調光制御**： • 内蔵フラッシュ、SB-900、SB-800、SB-600またはSB-400と、スポット測光以外の測光モードの組み合わせ時に、i-TTL-BL調光可能 • 内蔵フラッシュ、SB-900、SB-800、SB-600またはSB-400と、スポット測光の組み合わせ時に、スタンダードi-TTL調光可能（SB-900、SB-800、SB-600使用時はスピードライト側でも設定可能） **絞り連動外部自動調光**：SB-900、SB-800とCPUレンズとの組み合わせ時 **外部自動調光**：SB-900、SB-800、SB-28、SB-27、SB-22Sなどとの組み合わせ時 **距離優先マニュアル発光**：SB-900、SB-800との組み合わせ時

フラッシュ	
フラッシュモード	、、 モード時：内蔵フラッシュ使用時に「通常発光オート」、「赤目軽減オート」が設定可能、別売スピードライト使用時に「通常発光」、「赤目軽減」が設定可能 モード時：内蔵フラッシュ使用時に「通常発光オート＋スローシャッター」、「赤目軽減オート＋スローシャッター」が設定可能、別売スピードライト使用時に「通常発光＋スローシャッター」、「赤目軽減＋スローシャッター」が設定可能 、 モード時：別売スピードライト装着時に「通常発光」、「赤目軽減」が設定可能 **P**、**A** モード時：「通常発光」、「通常発光＋スローシャッター」、「赤目軽減発光」、「赤目軽減発光＋スローシャッター」、「後幕発光＋スローシャッター」が設定可能 **S**、**M** モード時：「通常発光」、「赤目軽減発光」、「後幕発光」が設定可能
調光補正	範囲：–3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2
レディーライト	内蔵フラッシュ、SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-80DX、SB-28DX、SB-50DXなど使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	• SB-900、SB-800、SB-600、SB-R200 との組み合わせでアドバンストワイヤレスライティング（SB-600、SB-R200 はリモートのみ）可能。コマンダーモード設定時は、内蔵フラッシュを主灯として制御可能 • オートFP ハイスピードシンクロ、発光色温度情報伝達、モデリング発光、FVロックに対応（SB-400は発光色温度情報伝達、FVロックのみ対応）
ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート（420分割RGBセンサー、撮像素子併用によるホワイトバランス）、マニュアル12種（微調整可能）、色温度設定可能、プリセット可能、ホワイトバランスブラケティング可能
ライブビュー機能	
AFモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（AFモードが［顔認識AF］のときは、カメラが決めた位置のみでAF可能）
動画機能	
記録画素数	• 1280×720/24fps • 640×424/24fps • 320×216/24fps
ファイル形式	AVI
圧縮方式	Motion-JPEG
液晶モニター	
液晶モニター	3型低温ポリシリコンTFT液晶、約92万ドット（VGA）、視野角170°、視野率100%、明るさ調整可能
再生機能	
再生機能	1コマ再生、動画再生、サムネイル再生（4、9、72分割またはカレンダーモード）、拡大再生、Pictmotion、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、画像コメント入力可能（英数字36文字まで）

インターフェース	
USB	Hi-Speed USB
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能、ビデオ出力と液晶モニターの同時再生可能
HDMI出力	HDMI出力端子（Type C）装備、HDMI出力と液晶モニターの同時再生不可
アクセサリーターミナル	• **リモートコード**：MC-DC2（別売） • **GPSユニット**：GP-1（別売）

表示言語	
表示言語	デンマーク語、ドイツ語、英語、スペイン語、フィンランド語、フランス語、イタリア語、オランダ語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、繁体中国語、簡体中国語、日本語、韓国語

電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e 1個使用
バッテリーパック	マルチパワーバッテリーパックMB-D80（別売）：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e 1個 または2個使用。単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）6本使用※ ※別売の電池ホルダー MS-D200が必要です。
ACアダプター	ACアダプター EH-5a、EH-5（別売）
三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4 （ISO 1222）
大きさ・質量	
大きさ（W×H×D）	約132× 103× 77 mm
質量	約620 g（バッテリー本体、SDメモリーカード、ボディーキャップ、液晶モニターカバーを除く）
動作環境	
温度	0～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、全て常温（20℃）フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

クイックチャージャー MH-18a	
電源	AC 100 ～ 240 V（50/60 Hz）
充電出力	DC 8.4 V、900 mA
適応電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e
充電時間	約2時間15 分　※残量のない状態からの充電時間
使用温度	0～40 ℃
寸法（W×H×D）	約90×35×58 mm
電源コード	長さ約1.8 m、日本国内専用AC 100V対応
質量	約80 g（電源コードを除く）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e	
形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.4 V、1500 mAh
寸法（W×H×D）	約39.5×56×21 mm
質量	約80 g（端子カバーを除く）

レンズ AF-S DX NIKKOR 18–105 mm f/3.5–5.6G ED VR	
型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DXニッコールズームレンズ（ニコンデジタル一眼レフカメラ［ニコンDXフォーマット］専用）
焦点距離	18 mm–105 mm
最大口径比	1：3.5–5.6
レンズ構成	11群15枚（非球面レンズ1枚、EDレンズ1枚）
画角	76°– 15°20′
焦点距離目盛	18、24、35、50、70、105 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能 このレンズは､A-M切り換えスイッチが**A**の位置でもマニュアルフォーカス撮影ができます。カメラのAFモードをAF-Sにして、オートフォーカスでピントが合ってから、シャッターボタンを半押しのままでフォーカスリングを回転させると、ピントを調整できます。オートフォーカスの作動中には、フォーカスリングを回転させないでください。
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離	0.45 m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲	焦点距離18 mm時 f/3.5–22、105 mm時 f/5.6–38
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	67 mm（P=0.75 mm）
寸法	約76 mm（最大径）×89 mm（バヨネットマウント基準面からレンズ先端まで）
質量	約420 g

付属レンズフード	HB-32 **レンズフードの取り付け方**
使用できない アクセサリー	• テレコンバーター：全種類 • オート接写リング：PKリング全種類 • Kリング：全種類 • オートリングBR-4 • ベローズアタッチメント：全種類 • アタッチメントリングSX-1 ※その他のアクセサリーでも使用できない場合があります。アクセサリーの使用説明書をご確認ください。

- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF（Digital Print Order Format）**：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.21**：（Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。
  1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

カメラ単体または別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80装着時の撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

- ［CIPA基準準拠※1］
  約850コマ（カメラ本体でLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e使用時）
  約850コマ（MB-D80を装着してEN-EL3e 1個使用時）
  約1700コマ（MB-D80を装着してEN-EL3e 2個使用時）
  約600コマ（MB-D80を装着してアルカリ単3形電池使用時）
- ［当社試験条件※2］
  約4200コマ（カメラ本体でEN-EL3e使用時）
  約4200コマ（MB-D80を装着してEN-EL3e 1個使用時）
  約8400コマ（MB-D80を装着してEN-EL3e 2個使用時）
  約1900コマ（MB-D80を装着してアルカリ単3形電池使用時）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。1回レリーズ（2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光）した後、液晶モニターを4秒間点灯。消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR、温度23（± 2）℃。

※2 レリーズモードCH、AFモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、ホワイトバランスA、ISO200、シャッタースピード1/250秒、半押しタイマーオン状態を3 秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6 回連続レリーズした後、液晶モニターを4秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR（VR機能OFF）、温度20℃。

※充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。また、単3形電池使用時は、銘柄や保管状態により撮影可能コマ数が減少することがあります。単3形電池は、銘柄によっては使用できないこともあります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにご使用ください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

索 引

（[ ] 内の項目はメニュー項目です）

英数・マーク

1コマ撮影　64
1コマ表示　130
2秒リモコン　69
3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ　89
3D-トラッキング　179
420分割RGBセンサー　89
ACアダプター　253
[ADLブラケティング]（オートブラケティングのセット）　199
[Adobe RGB]（色空間）　172
[AE/AFロックボタンの機能]　208
[AEブラケティング]（オートブラケティングのセット）　199
AE・フラッシュブラケティング　94
AEロック　90
[AE・フラッシュブラケティング]（オートブラケティングのセット）　199
[AFエリアモード]　179
AF補助光　180, 245
AFモード　54
AFモードボタン　3, 54
AFロック　57
A-M切り換えスイッチ　25
AVケーブル　148
BASIC　62
BGM（Pictmotion）　144
[BKTの順序]　203
B型クリアマットスクリーンII　286
Camera Control Pro 2　150, 254
Capture NX 2　62, 118, 216, 254
　イメージダストオフ機能　216
　ピクチャーコントロールユーティリティ　118
CPU信号接点　242
CPUレンズ　26, 242
DCF Version 2.0　293
[DPOFプリント]（PictBridge）　157
DPOF（Digital Print Order Format）　161, 293
Dタイプレンズ　242
[D-ライティング]　223
Exif Version 2.21　293
[Eye-Fi送信機能]　219
FINE　62
FVロック　205, 206
GP-1　127
[GPS]　127
GPSデータ　135
Gタイプレンズ　242
HDMI　149, 212, 293
　ハイビジョンテレビと接続する　149
[HDMI]　212
H（感度）　76
[ISO感度表示と簡易設定]　188
[INDEXプリント]（PictBridge）　160
ISO感度　76, 173
[ISO感度設定]　170
i-TTL-BL調光　249
i-TTL調光　247
JPEG　62
Li-ionリチャージャブルバッテリー　22
L（画像サイズ）　63
L（感度）　76
MB-D80　182, 191, 192, 253
[MB-D80電池設定]　191
[MB-D80のAE/AFロックボタンの機能]　182
M（画像サイズ）　63
M（マニュアルフォーカス）　45
NEF　62
Nikon Transfer　150, 151
　画像をパソコンに転送する　150
[Ni-MH単3形充電池]　191
NORMAL　62
[NTSC]　148
[OKボタンの機能（撮影モード）]　204
PictBridge（ピクトブリッジ）　153, 293
　ダイレクトプリント　153
[Pictmotion]（ピクトモーション）　143
PRE（プリセットマニュアル）　97
RAW　62
[RAW現像]　232
RGBヒストグラム表示　132, 167
SDカード　29, 256
　SDメモリーカードをカメラに入れる　29
　[カードの初期化（フォーマット）]　211
　推奨SDカード　256
Software Suite（ソフトウェア スイート）　150
[sRGB]（色空間）　172

S（画像サイズ） 63
USBケーブル 150, 154
画像をパソコンに転送する 150
ダイレクトプリント 153
UTC 27, 128
GPSデータ 135
情報表示（GPS） 128
日付と時刻を設定する 27
ViewNX 118, 150, 214, 215
ピクチャーコントロールユーティリティ 118
[WBブラケティング]（オートブラケティングのセット） 199
[スイッチの機能] 204
（オート） 6, 34
（発光禁止オート） 6, 34
（ポートレート） 6, 41
（風景） 6, 41
（クローズアップ） 6, 42
（スポーツ） 6, 42
（夜景ポートレート） 6, 42
（レディーライト） 9, 40
（FVロック） 206
（オートブラケティング） 94
（ライブビュー撮影） 43
（露出補正） 92
（調光補正） 93
（ホワイトバランス） 97
（時刻未設定） 213
（セルフタイマー） 67
（プログラムシフト） 82
（リモコン） 69
（1コマ撮影） 64
（低速連続撮影） 65, 189
（高速連続撮影） 65
♪（電子音） 187
（中央部重点測光） 184
Fn（ファンクション） 205, 207
（情報画面） 10, 190
?（ヘルプ） 21
（連続撮影可能コマ数） 38, 281

ア

アイピース 17, 67, 254
[青強調]（フィルター効果） 227
[赤強調]（フィルター効果） 227
赤目軽減発光（フラッシュモード） 73
[赤目補正] 224
[明るさ]（ピクチャーコントロール） 114
アクセサリーシュー 252
アクセサリーターミナル 4, 127, 255
アクセサリー（使用できるアクセサリー） 253
[アクティブD-ライティング] 122
[ADLブラケティング] 202
[オートブラケティングのセット] 199
アスペクト比 225
後幕発光（フラッシュモード） 73
[アルカリ単3形電池] 191
アンバー 99, 228
[カラーカスタマイズ] 228
ホワイトバランスの微調整 99
[イメージセンサークリーニング] 258
[イメージダストオフデータ取得] 216
イルミネーター 8, 190, 204
[イルミネーター点灯] 190
[色合い (色相)]（ピクチャーコントロール） 114
色温度 97, 101
[ホワイトバランス] 97
ミレッド 100
[色温度設定]（ホワイトバランス） 97
[色空間] 172
[色の濃さ (彩度)]（ピクチャーコントロール） 114
印刷（プリント） 152
[インジケーター表示の＋/-方向] 210
インデックスプリント 160
[ウォームトーン]（フィルター効果） 227
液晶モニター 5, 43
液晶モニターカバー 17
[液晶モニターの明るさ] 211
[液晶モニターのパワーオフ時間] 186
オーディオビデオケーブル 148
[オートFP撮影] 203
オートエリアAFモード 36, 179
オートフォーカス 54
オートブラケティング 94, 199, 203
ADLブラケティング 202
AE・フラッシュブラケティング 94
WBブラケティング 200
[オートブラケティングのセット] 199
オートモード 6, 34
[オート]（ホワイトバランス） 97
[音声記録]（動画の設定） 176

カ

［カードなし時レリーズ］ 210
［カードの初期化(フォーマット)］ 211
開放F値 242
開放絞り 60
［顔認識AF］（ライブビュー時のAF） 44, 182
　ライブビュー時のAFモードを選択する 44
画角 242
拡大表示 140
［画質モード］ 62, 169
［カスタムピクチャーコントロール］ 116
カスタムメニュー 177
カスタムメニューのリセット 279
［カスタムメニューのリセット］ 178
画像効果（Pictmotion） 144
［画像合成］ 230
［画像コメント］ 214
［画像サイズ］ 63
［画像サイズ］（動画の設定） 176
画像情報 131
画像ファイル 175
［傾き補正］ 234
［カラーカスタマイズ］ 228
カレンダー表示 138
［簡単レタッチ］ 234
［感度自動制御］ 170
［基準露出レベルの調節］ 184
［魚眼効果］ 235
距離基準マーク 60
記録可能コマ数 7, 281
［記録フォルダー設定］ 174
クイックチャージャー 22, 253
［クイック調整］（ピクチャーコントロール） 114
［クール］（モノトーン） 226
［クリーニングミラーアップ］ 260
クリエイティブライティングシステム 247
［クロス スクリーン］（フィルター効果） 227
［蛍光灯］（ホワイトバランス） 97
［言語（Language）］ 213
［現在地の設定］（ワールドタイム） 27, 213
　日付と時刻を設定する 27
［高感度ノイズ低減］ 173
［格子線の表示］ 187
高速連続撮影 65
コマ送り 209
［コマンダーモード］（内蔵フラッシュ発光） 196
［コマンドダイヤルの設定］ 208
［コントラスト］（ピクチャーコントロール） 114

サ

［最近設定した項目］ 237
最小絞り 26
サイズ 63, 225
　［画像サイズ］ 63
再生 48, 129
　Pictmotion 145
　画像をテレビで見る 148
　撮影した画像を確認する 48
　スライドショー 146
［再生画面設定］ 167
再生フォルダー 166
［再生フォルダー設定］ 166
再生メニュー 164
先幕発光（フラッシュモード） 74
削除 49, 142, 166
　SDカードの画像を削除する 142
　表示中の画像を削除する 49
　複数の画像を一括で削除する 166
［削除］ 166
撮影画面サイズ 242
撮影コマ数（低速連続撮影速度） 189
［撮影情報］ 167
撮影情報 134, 135
［撮影設定変更画面ガイド表示］ 188
撮影設定変更画面 12
［撮影直後の画像確認］ 168
撮影メニュー 169
撮影モードダイヤル 6
サマータイム（夏時間） 28, 213
　日付と時刻を設定する 28
サムネイル 137
自動発光（フラッシュモード） 73
視度調節 32, 254
　接眼補助レンズ 254
　ファインダーを見やすくする 32
視度調節ダイヤル 32
絞り値 81, 84, 85
　絞り優先オート 84
シャッタースピード 81, 83, 85
　シャッター優先オート 83
シャッターボタン 38
瞬時リモコン 69
焦点距離 242
焦点距離目盛指標 25
情報画面 10

[情報画面の表示設定]　190
初期化（フォーマット）　30, 211
　ボタンで初期化する　30
　メニューから初期化する　211
初期設定一覧　279
[白黒]（モノトーン）　226
シングルポイントAFモード　179
シンクロターミナル　252
[スカイライト]（フィルター効果）　227
スタンダードi-TTL調光　249
[スタンダード]（ピクチャーコントロール）　112
スピードライト　248
　使用できるスピードライト　247
　[外付けフラッシュ発光]　194
　ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト　248
スポット測光（測光モード）　89
[スモールピクチャー]　228
[スライドショー]　146
スローシンクロ（フラッシュモード）　73
[制御上限感度]（感度自動制御）　170
[晴天日陰]（ホワイトバランス）　97
[晴天]（ホワイトバランス）　97
接眼補助レンズ　254
接眼目当て　17
セットアップメニュー　211
[セピア]（モノトーン）　226
セルフタイマー　67
[セルフタイマー]　186
全押し（シャッターボタン）　38
[全画像削除]　166
[選択画像削除]　166
測光モード　89
[外付けフラッシュ発光]　194

タ

ダイナミックAFモード　179
タイマー
　セルフタイマー　67
　半押しタイマー　35
タイム撮影（長時間露光）　87
ダイレクトプリント　153
多重露出撮影　124
[多重露出]　176
[縦位置自動回転]　168
[縦横位置情報の記録]　215
単3形電池　191
[中央フォーカスポイントフレーム]　180
中央部重点測光　184
中央部重点測光（測光モード）　89
[中央部重点測光範囲]　184
調光範囲　285
調光補正　93
長時間露光（バルブ撮影）　87
[調色]（ピクチャーコントロール）　114, 115
[長秒時ノイズ低減]　173
通常発光オート（フラッシュモード）　73
ツーボタンリセット　78
[低速限界設定]（感度自動制御）　170
低速連続撮影　189
[低速連続撮影速度]　189
手ブレ補正　26
手ブレ補正スイッチ　25
テレビ　148
[電球]（ホワイトバランス）　97
電源コード　22
[電子音設定]　187
[電池チェック]　218
動画　50
[動画の設定]　176
統合表示　136
[登録項目の削除]（マイメニュー）　239
[登録項目の順序変更]（マイメニュー）　239
時計用電池　28, 213
[トリミング]　225
[曇天]（ホワイトバランス）　97

ナ

[内蔵AF補助光の照射設定]　180
内蔵フラッシュ　72
[内蔵フラッシュ発光]　193
[夏時間の設定]（ワールドタイム）　28, 213
　日付と時刻を設定する　28
[日時の設定]（ワールドタイム）　28, 213
　日付と時刻を設定する　28
[ニッケルマンガン単3形電池]　191
[ニュートラル]（ピクチャーコントロール）　112
ノイズ低減
　高感度ノイズ低減　173
　長秒時ノイズ低減　173
[ノーマルエリアAF]（ライブビュー時のAF）　44

ハ

ハイライト表示　133, 167
　［再生画面設定］　167
パソコン　150
発光禁止（フラッシュモード）　73
発光禁止オートモード　6, 34
バッテリー　22, 23, 191, 218, 253
　[MB-D80電池設定]　191
　［電池チェック］　218
　バッテリーをカメラに入れる　23
　バッテリーを充電する　22
バッテリーパック　191, 192, 253
バルブ撮影（長時間露光）　87
パワーオフ時間　186
［範囲指定］（PictBridge）　156
［半押しAEロック］　185
［半押しタイマー］　185
半押しタイマー　35, 185
半押し（シャッターボタン）　38
非CPUレンズ　244
［ピクチャーコントロール］　110
被写界深度　84
ヒストグラム表示　132, 133, 167
　RGBヒストグラム　132
　［再生画面設定］　167
［日付選択］（PictBridge）　157
［日付の表示順］（ワールドタイム）　28, 213
　日付と時刻を設定する　28
［日付プリント］（PictBridge）　155, 159
ビデオケーブル　148, 212
［ビデオ出力］　212
［ビビッド］（ピクチャーコントロール）　112
［非表示設定］　167
表示パネル　7
標準表示　132
ピント　38
ピント表示　38, 60
［ファームウェアバージョン］　219
［ファインダー内警告表示］　188
ファインダー（視度調節）　254
ファンクションボタン　3
［ファンクションボタンの機能］　205
［フィルター効果］　114, 227
　画像編集メニュー　227
　ピクチャーコントロール　114, 115
［風景］（ピクチャーコントロール）　112
フォーカスエイド　60
フォーカスポイント　45, 56, 181
　フォーカスポイントを選択する　56
　ライブビュー　45
［フォーカスポイント循環選択］　181
［フォーカスポイント照明］　181
フォーカスモード　54, 59
フォーカスモード切り換えスイッチ　25
フォーカスモードセレクトダイヤル　54
フォーカスリング　25
フォーカスロック　57
フォーマット（カードの初期化）　30, 211
　ボタンでフォーマットする　30
　メニューでフォーマットする　211
［フチ設定］（PictBridge）　155, 159
ブラケティング　94, 200, 202
　ADLブラケティング　202
　AE・フラッシュブラケティング　94
　WBブラケティング　200
フラッシュ　72, 93, 247
　使用できるスピードライト　247
　調光補正　93
　内蔵フラッシュ　72
［フラッシュ使用推奨表示］　191
フラッシュ同調シャッタースピード　193, 287
［フラッシュ時シャッタースピード制限］　193
フラッシュ発光量制御　93
［フラッシュブラケティング］　199
フラッシュモード　73
［フラッシュ］（ホワイトバランス）　97
［プリセットマニュアル］（ホワイトバランス）　97
プリント　152
［プリント画像選択］（PictBridge）　157
［プリント実行］（PictBridge）　156, 159
［プリント指定（DPOF）］　161
［プリント設定］（PictBridge）　155, 159
プレビューボタン　84
プログラムシフト　82
プログラム線図　282
プロテクト（保護）　141
ヘルプ　21
［編集前後の画像表示］　236
［ポートレート］（ピクチャーコントロール）　112
ボディーキャップ　3, 254
[ホワイトバランス]　97

マ

［枚数指定］（PictBridge）　155
［マイメニュー］　238

［マイメニュー登録］（マイメニュー） 238
マゼンタ 99, 228
　［カラーカスタマイズ］ 228
　ホワイトバランスの微調整 99
マニュアル（露出） 85
［マニュアル発光モード］（内蔵フラッシュ発光） 195
マニュアルフォーカス 59
マルチセレクター 5, 19
マルチパターン測光（測光モード） 89
マルチプログラムオート 82
［緑強調］（フィルター効果） 227
ミラー 4, 260
ミレッド 100
メモリーカード 29
　SDメモリーカードをカメラに入れる 29
　［カードの初期化（フォーマット）］ 211
　推奨SDカード 256
［モデリング発光］ 199
モニターカバー 17, 263
モニター発光 207
［モノクローム］（ピクチャーコントロール） 112
［モノトーン］ 226

ヤ

［ゆがみ補正］ 235
［用紙設定］（PictBridge） 155, 159

ラ

ライブビュー 43–47, 50–52
［ライブビュー時のAF］ 182
リセット 78, 178
　カスタムメニューのリセット 178
　ツーボタンリセット 78
［リチウム単3形電池］ 191
［リピーティング発光モード］（内蔵フラッシュ発光） 195
リモートコード 255
リモコン 69, 255
　別売のリモコンを使って撮影する 69
［リモコン待機時間］ 186
［輪郭強調］（ピクチャーコントロール） 114
レディーライト 198, 250
レリーズモード 64
連写 65
レンズ
　使用できるレンズ 242
　着脱指標 25
　レンズキャップ 25
　レンズの取り付け 25
　レンズの取り外し 26
　レンズマウント 3
連続撮影 65
連続撮影可能コマ数 281
［連番モード］ 189
ローパスフィルター 216, 258, 260
　ローパスフィルターを自動で掃除する 258
　ローパスフィルターをブロアーで掃除する 260
露出 81
露出インジケーター 86, 210
［露出設定ステップ幅］ 183
［露出ディレーモード］ 190
露出補正 92
［露出補正簡易設定］ 183

ワ

［ワールドタイム］ 27, 213
　日付と時刻を設定する 27
［ワイドエリアAF］（ライブビュー時のAF） 44

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、さらにご質問がございましたらニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

•ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

•お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。

•より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

この製品の修理を依頼される場合は、ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

•ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。

•ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。

•カメラを修理に出される場合は、SDカードをカメラから取り出してください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

•修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店、またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

•ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社Webサイトでご覧いただくことができます。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/

製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:03-5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：　　年　月　日
お買い上げ日：　　年　月　日
製品名：　　シリアル番号：
フリガナ お名前：
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量：　　ハードディスクの空き容量： OS のバージョン： ご使用の当社ソフトウェアの名称およびバージョン名： ご使用のアプリケーションソフト名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※ このページはコピーしてお使いください。

※ 整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30〜18:00（年末年始、夏期休業等を除く毎日）
携帯電話、PHS、IP電話等をご使用の場合は、（03）5977-7033におかけください。
FAXでのご相談は、（03）5977-7499 におかけください。

修理サービスのご案内

修理サービスのご案内を下記URLにて行っております。
インターネットを利用して修理の申し込みができます。
「修理見積もり」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/repair/

＜インターネットをご利用できない方の修理品送り先＞
（株）ニコン イメージング ジャパン 修理センター
〒230-0052　横浜市鶴見区生麦2−2−26　電話：（045）500−3050
営業時間：9：30〜17：30（土、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業など弊社定休日を除く毎日）

● 修理センターではご来所の方の窓口がございません。送付のみの対応となりますのでご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Thailand
6MB02910-02